

多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究

—特に境内の樹種構成とその配置—

1998年

秋山好則

東京都立武蔵高等学校教諭

目 次

I 調査研究の目的	1
II 調査方法	1
III 調査地の概要	2
IV 結 果	5
1. 境内に生育する樹木について	5
(1) 境内樹木の生活型分類	5
(2) 1神社あたりの出現種類について	5
(3) 境内面積と出現種類と現存数との関係	11
2. 御神木の分布	13
(1) ケヤキ (ニレ科)	14
(2) イチョウ (イチョウ科)	18
(3) スギ (スギ科)	20
(4) スダジイ (ブナ科)	25
(5) アラカシ (ブナ科)	28
(6) シラカシ (ブナ科)	29
(7) クスノキ (クスノキ科)	29
(8) クロマツ (マツ科)	30
(9) カヤ (イチイ科)	32
(10) ウバメガシ (ブナ科)	32
(11) オガタマノキ (モクレン科)	33
(12) ツガ (マツ科)	34
(13) ウメ (バラ科)	34
(14) タブノキ (クスノキ科)	36
(15) 境内における御神木・大木の方位別分布	36
(16) 御神木・大木の境内における分布	37

3. 特徴種の境内における分布	39
4. 主な神社の境内における樹木配置について	46
(1) 御嶽神社(青梅市新町)	46
(2) 松本神社(羽村市羽西)	48
(3) 狭山神社(瑞穂町箱根ヶ崎)	50
(4) 福生神明社(福生市福生)	52
(5) 神明社(武蔵村山市中藤)	54
(6) 阿豆佐味天神社(立川市西砂町)	56
(7) 諏訪神社(昭島市宮沢町)	58
(8) 玉湖神社(東大和市多摩湖)	60
(9) 秋津神社(東村山市秋津)	62
(10) 山王稲穂神社(小金井市本町)	64
(11) 鈴木稲荷神社(小平市鈴木町)	66
(12) 本多八幡神社(国分寺市本多)	68
(13) 青柳稲荷神社(国立市青柳)	70
(14) 日枝神社(清瀬市中清戸)	72
(15) 子ノ神社(東久留米市小山)	74
(16) 押立神社(府中市押立)	76
(17) 天神社(保谷市北町)	78
(18) 田無神社(田無市本町)	80
(19) 杵築神社(武蔵野市境南町)	82
(20) 野崎八幡神社(三鷹市野崎)	84
(21) 布多天神社(調布市調布ヶ丘)	86
(22) 八幡神社(狛江市西野川)	88
5. 神社をめぐるさまざまな問題	90
V まとめ	92
謝辞	93
参考文献	93

多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究

— 特に境内の樹種構成とその配置 —

東京都立武蔵高等学校 秋山好則

I 調査研究の目的

多摩川中流—下流域に広がる武蔵野台地上には数多くの神社が分布している。年間を通して参詣に訪れる人も多い。鳥居をくぐれば周辺の雑踏から解放され、静かで緑の多い空間に身を置くことができる。昔から鎮守の森として、大切に保護されて、現在の姿がある。

神社の周辺には雑木林や屋敷林が住宅地の中に島状に残されているが、最近の開発によるそれらの消失の勢いはおさまらない。

今まで、神社の境内に残る自然的要素の多い林分を対象にして、社寺林や社叢林としての研究は多くなされてきた。しかし、台地上の神社の場合、境内の樹木はそのほとんどが植えられ、大事に育てられ、管理されてつくられてきたものである。

現在、拝殿・神殿（本殿）を中心にして境内にはどのような種類の樹木が、どの位置に配置されているのか。参道沿いではどうか。またそれらの樹木は人々のどのような思いで植えられ、どう管理されてきたのか。役割は何か。境内の樹木の配置に基本的な共通する形はあるのか。また、植物民俗学的な視点からも、検討し、神社の境内の樹木の現状をできるだけ正確に理解したいと考え、本研究を実施した。

II 調査方法

多摩川の流れに沿って左岸側の武蔵野台地上で青梅市から羽村市、福生市、昭島市、立川市、国立市、府中市、調布市、狛江市まで、北部は瑞穂町から狭山丘陵に沿って、武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市から埼玉県新座市の一部までの地域をを調査対象とした。（図1）1万分の1地形図、住宅地図、空中写真、各区市町村から出版されている各種案内等を参考にしながら調査対象の神社をマークした。

直接神社を訪れて、拝殿・神殿（本殿）を中心に摂社、末社、社務所、神楽殿、手水舎などの建物と、狛犬、灯籠、参道、鳥居などの配置を調べ、作図した。

境内に生育する樹木については、DBH（胸高直径）10cm以上を対象として調査を行った。境内における位置（場所）、樹木の種類名、DBH、H（樹高）を目測で測定し、配置図を作成した。中には直径巻き尺を用いてDBHを実測したものもある。

御神木、記念樹、大木などは特に注意して記録した。その後、可能な限り、神社関係者（神官、神社の管理を委託されている人、氏子の方、神社の近隣にすんでいる方）への聞き取り調査を行っ

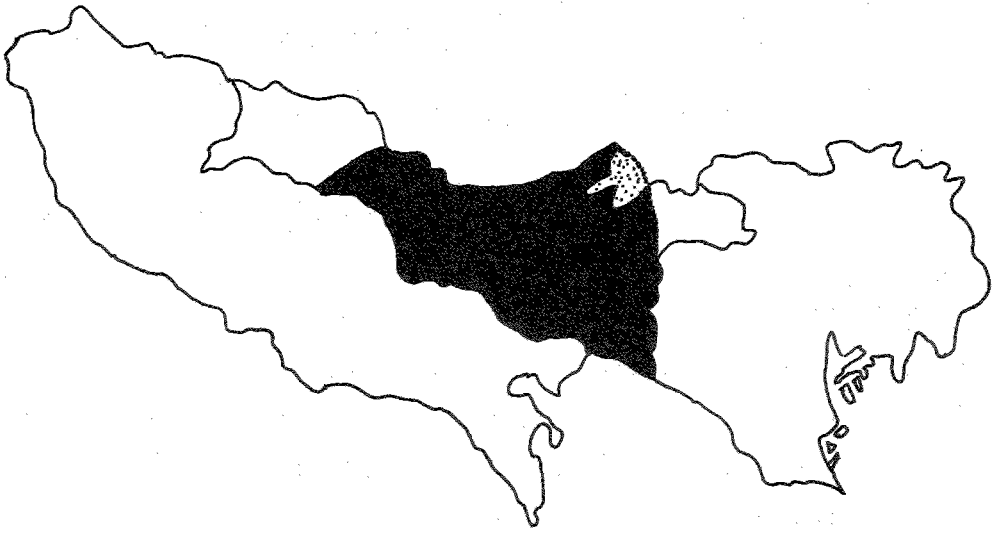


図1 調査地

た。聞き取り調査の内容は①境内の昔の様子、②御神木の種類とその由来、③神社の由来や歴史、④境内の樹木に関して、⑤神社と近隣の関係、⑥その他等である。さらに、区史、市町村史などの出版物などから当該神社に関する記述について調査を行った。

Ⅲ 調査地の概要

多摩川中流域の左岸側に位置する神社188社を対象として調査を行った。それらは青梅市16社、羽村市8社、瑞穂町7社、福生市2社、武蔵村山市9社、立川市6社、昭島市10社、東大和市7社、東村山市8社、小金井市6社、小平市6社、国分寺市14社、国立市3社、清瀬市9社、東久留米市11社、府中市19社、保谷市5社、田無市1社、武蔵野市5社、三鷹市9社、調布市12社、狛江市6社、練馬区4社、埼玉県新座市5社の23市、1区に分布している。

神社名で多い順に並べると、八幡神社(28社)、稲荷神社(18社)、神明社(13社)、氷川神社(9社)、熊野神社(9社)、浅間神社(7社)、諏訪神社(6社)、天神社(5社)、日枝神社(4社)、八雲神社(3社)、阿豆佐味天神社(3社)、愛宕神社(3社)、日吉神社(3社)、八坂神社(3社)であった。

188社の中で計77種類の神社名があった。1社しかないのが66神社(35%)を占めている。

神社の位置している地形をみると、武蔵野台地上の平坦地にあるのが91社(48.4%)で最も多い。次に多摩川、霞側(青梅市)、野川、仙川、柳瀬川、黒目川、石神井川など、台地上を西から東へ流れている河川の河岸段丘面上の平坦地に位置しているのが36社(19.1%)、段丘崖の斜面上にあるのが36社(19.1%)、加治丘陵や狭山丘陵などの丘陵地斜面上や尾根部に位置しているのが25社(13.3%)となっている。いずれも周辺より小高い場所に立地している。(図2)

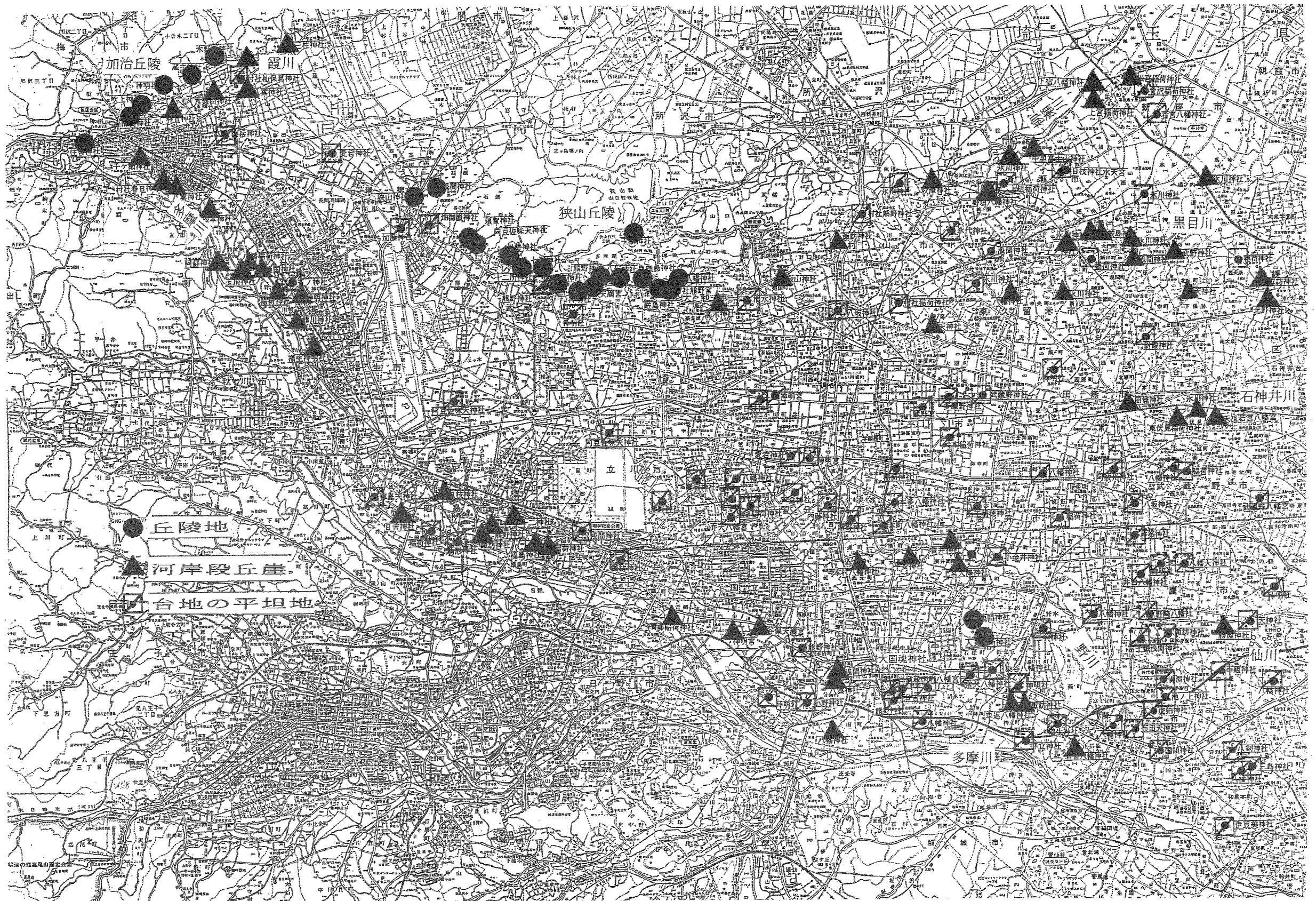


図2 神社の立地の地形区分

拝殿・神殿（本殿）などの境内の建物は南向きが多いが、中には北向きの場合もある。地形との関係があるのか検討してみた。188社について拝殿・神殿（本殿）の向きを調べた結果が次の表である。

向 き	南	東	南 東	北	西	北 西
神社数	107	46	5	15	14	1
%	56.9	24.5	2.7	8.0	7.4	0.5

南から南東向きを合計すると約84%となって大部分を占めていることがわかる。北向きを地形との関係から考えると、北向きで平坦地にあるのが9社、河川の河岸段丘面上の平坦地にあるのが3社、段丘崖の斜面上にあるのが3社となっている。河岸段丘面上も平坦地と見なすと約80%が平坦地に位置し、北向きにしか建てられないということはない。そのほかの要因、すなわち、集落の南端部に氏子の多い方角に向けて建てたと考えるのが自然である。（図3）

IV 結 果

1. 境内に生育する樹木について

(1) 境内樹木の生活型分類

調査した188社において、DBH10cm以上の樹木の総出現種類数は138種類であった。そのすべてについて生活型で分類し、まとめたものが表1である。

落葉広葉樹が70種類（50.7%）、常緑広葉樹が44種類（31.9%）、常緑針葉樹が22種類（15.9%）、落葉針葉樹が2種類（1.4%）であった。落葉樹全体で52.1%、常緑樹全体では47.8%となっている。武蔵野の神社においては落葉樹の多い神社が目立つと言ってくるが、これは種類数のみをもとに表現したもので、境内に出現する個体数も含めて考えるとどうなるか、検討した。

境内の範囲がはっきりし、種類組成及び出現個体数などが正確にわかっている143社について集計した。神社ごとに種類組成と出現個体数から、それぞれ落葉樹が何本生育し、境内全体の出現個体数の何%を占めているか、常緑樹も同じように計算した。それらをまとめたものが表2、そして図4である。

落葉樹が境内の樹木の50%以上を占めている神社が56社（39.2%）、常緑樹が境内の樹木の50%以上を占めている神社が91社（63.6%）となって、種類数のみの場合とは反対に常緑樹が優占する神社が武蔵野には多いことがわかる。

(2) 1神社あたりの出現種類数について

表3には188社について各神社ごとの出現種類数を示した。最も少なかったのが、昭島市の十二神社の2種類であった。東西方向に26m、南北方向に24mのほぼ長方形の境内（境内面積624㎡）にケヤキが13本、イチョウが2本生育している。ケヤキはDBH90-100cmのものが3本ある。

表1 境内樹木の生活型分類 (138種類)

落葉広葉樹		常緑広葉樹	常緑針葉樹	落葉針葉樹
アオギリ	サルスベリ	アカガシ	アカマツ	メタセコイア
アカシデ	サンシュユ	アラカシ	アスナロ	カラマツ
アカメガシワ	シダレザクラ	イヌツゲ	イチイ	(2種類)
イイギリ	シダレヤナギ	ウバメガシ	イトヒバ	
イタヤカエデ	スズカケノキ	ウラジロガシ	イヌガヤ	
イチョウ	ソメイヨシノ	オガタマノキ	イヌマキ	
イヌザクラ	トウカエデ	カゴノキ	カイズカイブキ	
イヌシデ	ドウダンツツジ	カナメモチ	カヤ	
イロハカエデ	トチノキ	キツタ	キャラボク	
ウメ	トネリコ	クスノキ	クロマツ	
ウワミズザクラ	ナツツバキ	ゲッケイジュ	コウヤマキ	
エゴノキ	ニガキ	サカキ	コウヨウザン	
エノキ	ニシキギ	サザンカ	コノテガシワ	
エンコウカエデ	ヌルデ	サンゴジュ	ゴヨウマツ	
エンジュ	ネムノキ	シキミ	サワラ	
オニグルミ	ハクウンボク	ジュロ	シダレイトスギ	
カキノキ	ハナミズキ	シラカン	スギ	
カジノキ	ハリエンジュ	シロダモ	ダイオウマツ	
カシワ	ハリギリ	スダジイ	チャボヒバ	
カツラ	ハルニレ	ソテツ	ヒノキ	
カリン	ヒメシャラ	ソヨゴ	ヒヨクヒバ	
カンヒザクラ	フジ	タイサンボク	ラカンマキ	
キヌヤナギ	ホウノキ	タブノキ	(22種類)	
キリ	ボダイジュ	タラヨウ		
キンモクセイ	マユミ	ツクバネガン		
クサギ	マンサク	トウネズミモチ		
クヌギ	ミズキ	トベラ		
グミ	ムクノキ	ナギ		
クリ	ムクロジ	ナツミカン		
ケヤキ	モクレン	ネズミモチ		
コナラ	ヤマグワ	ヒイラギ		
コブシ	ヤマザクラ	ヒイラギモクセイ		
ゴンズイ	ヤマハンノキ	ヒサカキ		
ザクロ	ヤマボウシ	ビワ		
サトザクラ	ユリノキ	マサキ		
	(70種類)	マテバシイ		
		モウソウチク		
		モチノキ		
		モッコク		
		ヤブツバキ		
		ヤブニッケイ		
		ヤマモモ		
		ユズ		
		ユズリハ		
		(44種類)		



図3 神社の拝殿・神殿の向きの分布

表2 境内樹木の落葉樹と常緑樹の割合

%	落葉樹	常緑樹
100	2	0
90	1	1
80	7	12
70	9	22
60	18	31
50	19	25
40	26	16
30	30	18
20	21	9
10	9	6
0	1	3
神社数	143	143

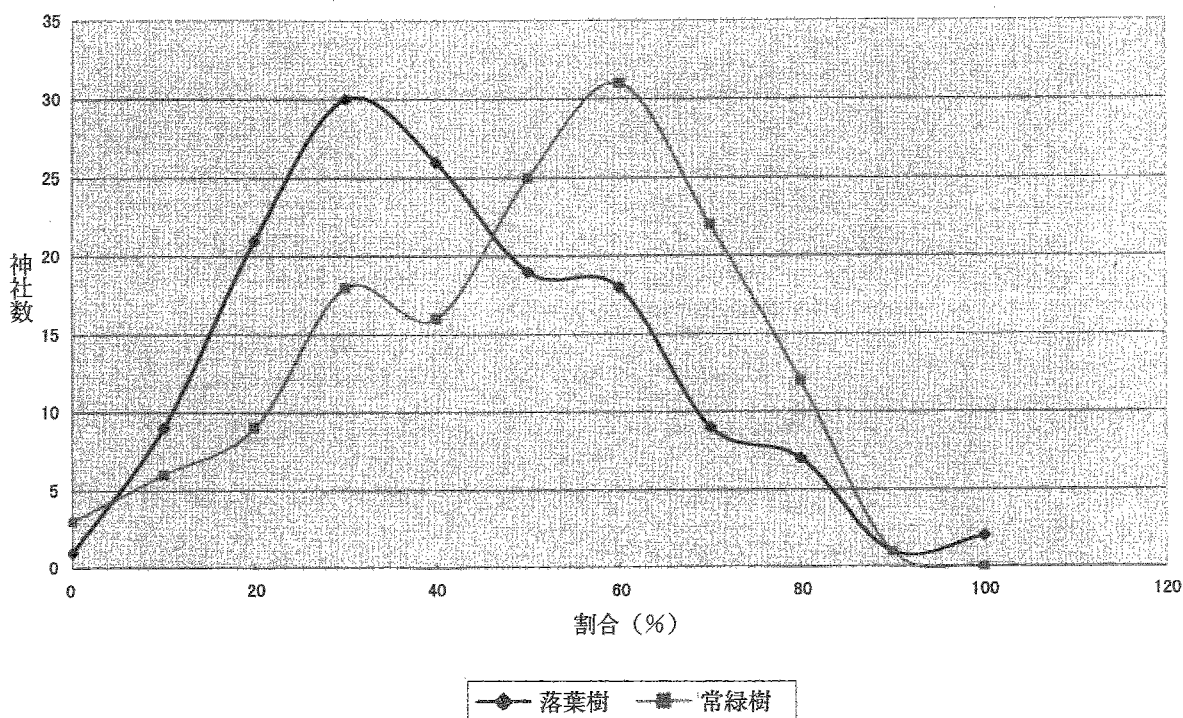


図4 境内樹木の落葉樹と常緑樹の割合

調査した境内で最も多かったのは、保谷市の東伏見稲荷神社（境内面積14,850㎡）で、30種類生育していた。市域南部を西から東に流れる石神井川の左岸側に位置し、青梅街道から少し北に入った場所から参道がつくられ、ケヤキ、イチョウの並木に導かれて大鳥居につく。鳥居から北に斜面になっていて、階段が3カ所つくられている。参道両側にはいろいろな樹木が植えられ、

表3 1社あたりの境内樹木の出現種類数と現存数
(DBH10cm以上)

出現種類数	神社数	出現種類数	神社数
1	0	16	8
2	1	17	10
3	0	18	11
4	3	19	5
5	3	20	6
6	6	21	5
7	6	22	1
8	7	23	2
9	13	24	2
10	18	25	6
11	16	26	0
12	12	27	3
13	15	28	0
14	10	29	1
15	17	30	1
		計	188
		平均	13.8

現存数	神社数
0-9	3
10	14
20	22
30	18
40	18
50	10
60	11
70	11
80	7
90	10
100	6
110	8
120	2
130	2
140	0
150	0
160	1
170	1
180	1
190	1
計	146
平均	59.2
多数含む	29
計	175

よく手入れされている。創建が昭和4年(1929年)と割合新しいので、巨木の類は見ることができないが、南向きの拝殿・神殿(本殿)の後方には、アカマツ林が残されている。林内にはサカキ、シラカシ、ヒノキ、サワラ、サクラ、クスノキなどが密に植えられ、鬱蒼とした森林を形成している。神殿(本殿)の東側にはアカマツ林の中にスダジイが混生している林分もある。よく管理され、いずれも生育状態も良好である。

また、今回調査対象からはずした(すでに境内の樹木についての詳細な報告書がある)府中市の大国魂神社(境内面積62,700㎡は188社で最大面積である)境内に昭和48年(1973年)調査時生育していた樹木は69種類、1,833本であったという。ただし調査対象としたのはDBH4.8cm以上であるので、単純には比較できないが、境内面積から判断しても、最も多くの樹木が生育していると思われる。

188社全体としてみると、9種類-18種類生育していることが多く、平均すると13.8種類であった。

(3) 境内面積と出現種類数と現存数との関係

境内面積のはっきりしている33社について、出現種類数との関係、現存数との関係をまとめて表4と図5、図6に示した。

境内面積は府中市の八幡神社の330㎡から立川市の諏訪神社の18,559㎡の範囲にあり、平均すると5,226㎡(1,584坪)となる。境内面積が増加するにつれて種類数も増加することは明らかである。1万㎡を越えると面積増加に対して、種類数はそれ程増えていない。したがって武蔵野の神社の場合使われている樹木の多様性は割合低いといえる。

表4 境内面積と出現種類数と現存数との関係

神社名	所在地	境内面積㎡	出現種類数	現存数
日吉神社	昭島市	730	13	38
日枝神社水天宮	清瀬市	10000	24	—
谷保天満宮	国立市	19800	25	—
小金井神社	小金井市	5933	25	132
村社神明社	国分寺市	2032	13	72
熊野神社	国分寺市	1950	14	42
神明宮	小平市	4438	21	134
熊野宮	小平市	2085	12	81
日枝神社	小平市	933	13	45
伊豆美神社	狛江市	3960	21	100
諏訪神社	立川市	18559	27	—
阿豆佐味天神社	立川市	6583	15	27
熊野神社	立川市	2621	17	90
田無神社	田無市	5243	20	107
布田天神社	調布市	10549	25	188
青謂神社	調布市	2145	20	63
八幡神社	調布市	2138	21	95
国領神社	調布市	897	8	22
子の神社	東久留米市	2323	17	55
氷川神社	東久留米市	990	18	44
八坂神社	東村山市	15414	16	349
氷川神社	東村山市	2840	13	27
豊鹿島神社	東大和市	2840	13	155
八幡神社	東大和市	2674	13	110
押立神社	府中市	865	21	38
八幡神社	府中市	330	6	19
東伏見稲荷神社	保谷市	14850	30	—
神明社	三鷹市	2917	25	85
八幡神社	三鷹市	2046	15	40
杵築神社	武蔵野市	6600	27	116
武蔵野八幡宮	武蔵野市	4554	17	80
神明社	武蔵村山市	7343	18	199
十二所神社	武蔵村山市	5280	12	222

※ 現存数の欄の—は未調査のため不明を示す。

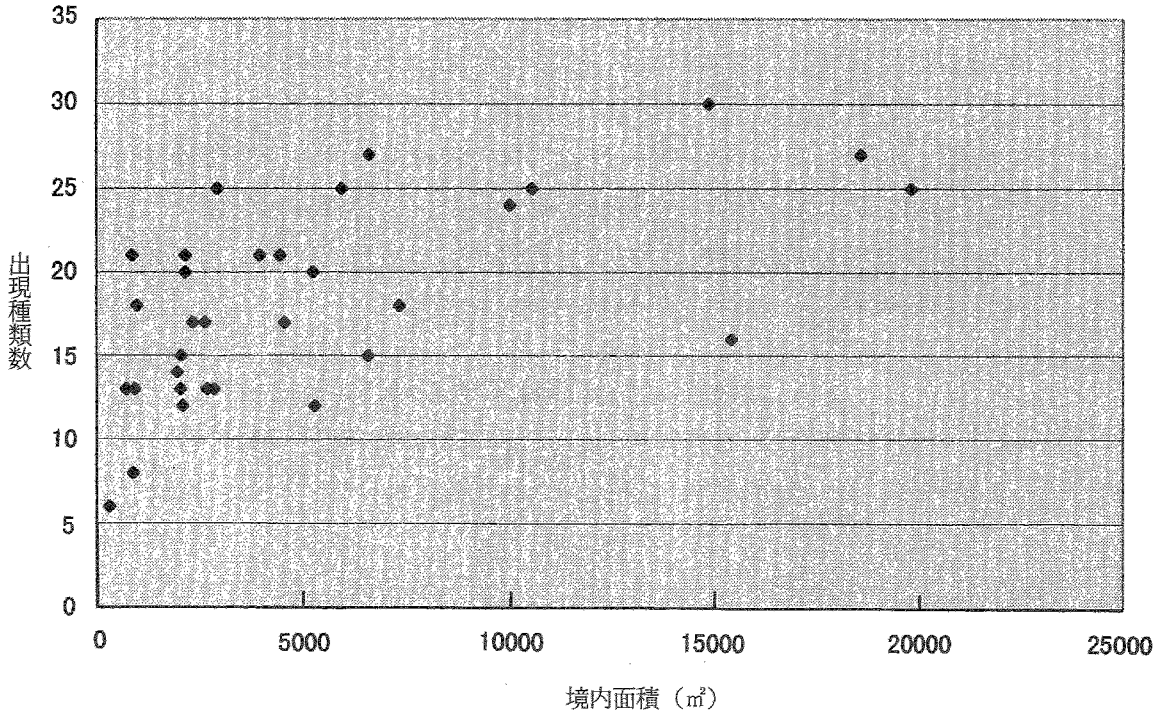


図5 境内面積と出現種類数の関係

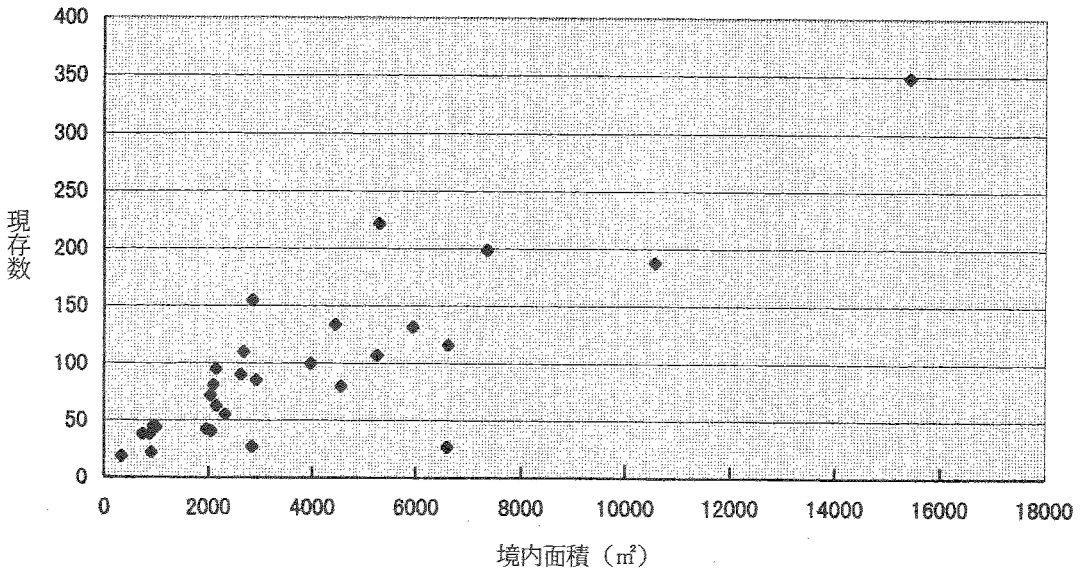


図6 境内面積と現存数の関係

境内面積と現存数の関係を見ると、直線的に増加しているようで、境内面積が大きい場合は拝殿・神殿（本殿）の周囲にスギ林、ヒノキ林、アカマツ林、コナラークヌギ林などを配置すること多いので、このような結果になると考えられる。

2. 御神木の分布

神木とは境内にある特殊な木を指している。特殊な木というのは、その神社の境内にだけ自生しているもの、その境内にある巨木等に限って名付けたということである。神木は霊木とも称され、平常は注連を張り、または柵などをもうけて特別に扱われている。

神木の代表的なものはサカキ（榊）である。万葉集（四）には神樹と書いて、サカキと読ませている記述がある。榊が神木とされたのは一般に平安時代中期に遡るとされている。「栄え木」または「賢木」の意味と思われる。もとは常緑樹一般を指したが、後に特定の樹種を言うようになった。今日ではツバキ科の亜高木を特に「榊」と呼び、一般の神社はもちろん民間の神棚にも供えるようになった。

今回の調査では、樹種、現存数が確認できた175社中114社においてサカキが生育していた。しかし、これはDBH10cm以上の個体であって、それ以下のDBHのものを加えると、ほとんどの神社の境内に植えられていた。ただ、注連を張り、木や竹で囲いがされているような個体はなく、拝殿・神殿（本殿）などの建物の近くに、拝殿と狛犬の間に対をなして植えられていることが多かった。大木はまったくなく、DBHは最高でも30cm前後であった。

今回調査対象とした188社において、①ケヤキ（25社）、②イチョウ（12社）、③スギ（11社）、④スダジイ（6社）、⑤アラカン（6社）、⑥シラカシ（3社）、⑦クスノキ（2社）、⑧クロマツ（2社）、⑨カヤ（2社）、⑩ウバメガシ（1社）、⑪オガタマノキ（1社）、⑫ツガ（1社）、⑬ウメ（1社）、⑭タブノキ（1社）の計14種類の神木が確認された。注連を張り神木としての樹木が境内に存在した神社は、計73社で全体の39%を占めている。

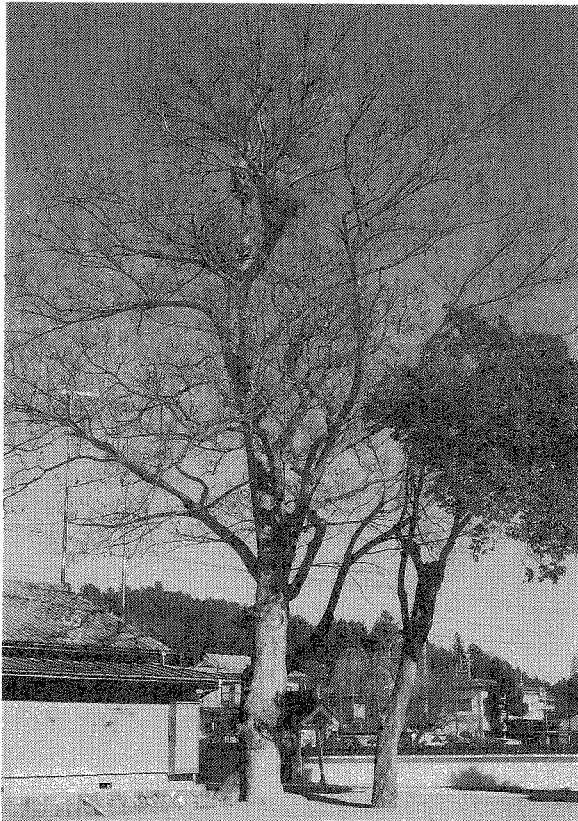
その分布を示したのが図7である。図には神木として特別には扱われてはいないが、境内にあって大木（胸高直径60-70cm以上）をなし、神木に近いと判断される樹木も示している。

(1) ケヤキ (ニレ科)

ケヤキは神木として大切にされている神社が25社と最も多い、境内にあって抜きんでて大木になっていることが多い。調査地域全体に分布しているが、特に東側地域に多くみられる。ケヤキはシラカシとともに武蔵野台地では屋敷林や雑木林などに普通にみられる樹木で、それぞれ屋敷林や雑木林では良好な生育で、大木が多くみられる。古文書によれば、江戸幕府は関東平野の内陸部を開拓するに当たって、ケヤキ材の優秀さと大材が得られることに注目し、農民にケヤキの植栽を強く求めたという。江戸八百八橋の材はケヤキが使われたとも言う。現在でも条件がよければ種子からの実生が発芽成長していることも見られるので、当時においても苗木などを入手することはそれ程難しくはなかったと思う。

境内の場合、丘陵地に位置する神社にはほとんど見られない。調査地西部地域の多摩川の段丘崖斜面上でも少ない。東部地域では柳瀬川や白子川、石神井川、野川などの河岸段丘斜面上に位置する神社などにもみられるが、台地の平坦地に最も多く存在する。

- 写真 ①青梅市浮島神社
②調布市青渭神社
③昭島市諏訪神社
④小平市熊野宮



写真①

浮島神社（青梅市）のケヤキ

撮影日 97. 1. 4

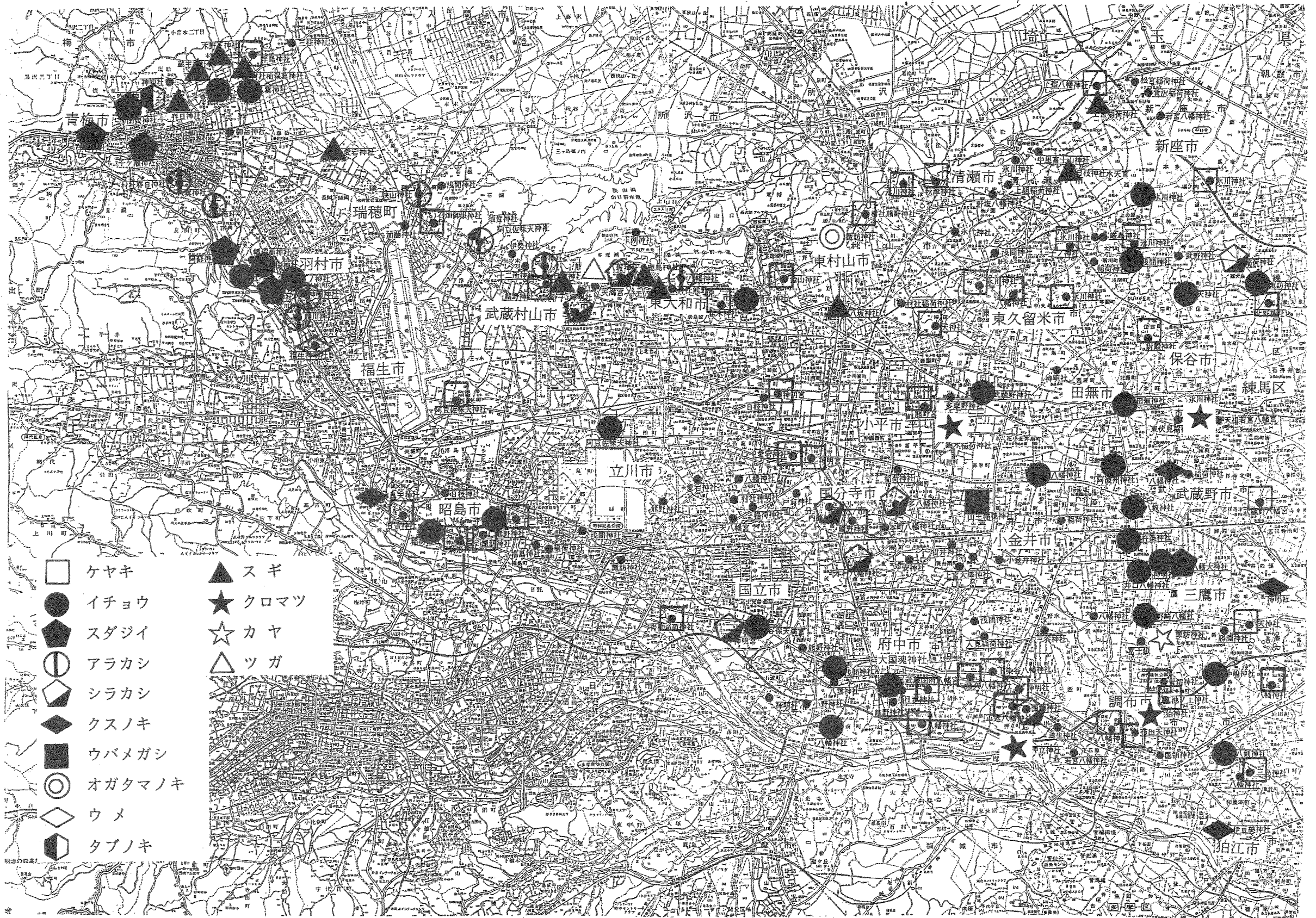
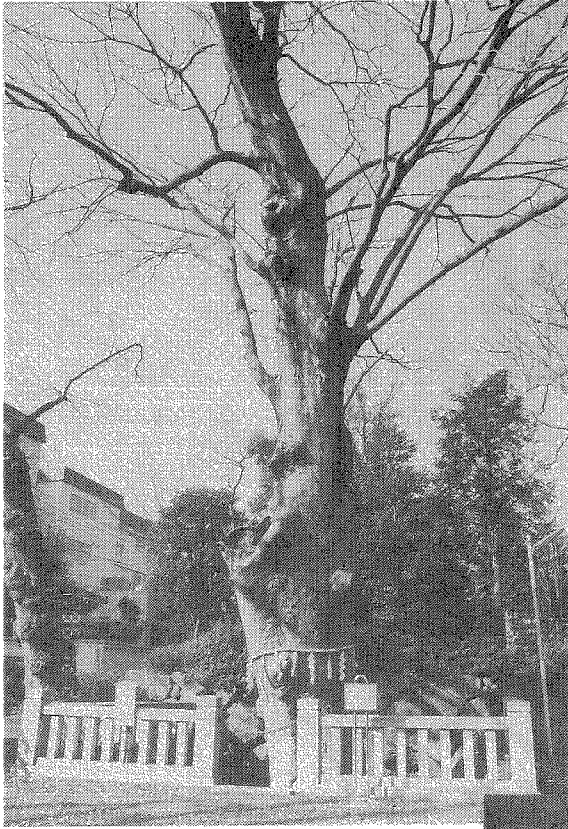


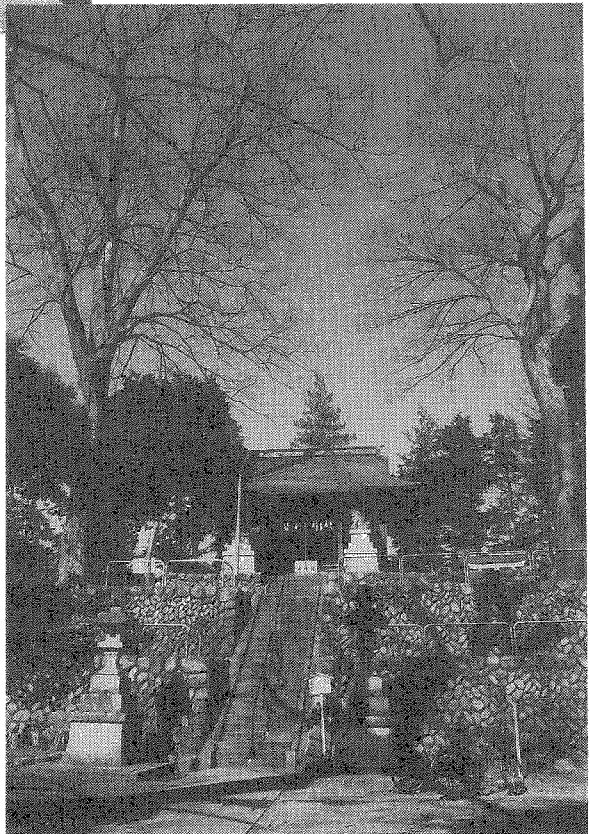
図7 御神木と大木の分布



写真②

青渭神社（調布市）のケヤキ

撮影日 96.12.22



写真③

諏訪神社（昭島市）のケヤキ

撮影日 96.1.15



写真④

熊野宮（小平市）のケヤキ

撮影日 97. 2. 13

(2) イチョウ（イチョウ科）

イチョウはケヤキと異なり、屋敷林や雑木林にはほとんど植えられていない樹種であるが、神木として12社、大木を加えると28社で確認された。調査地西部地域における分布をみると、青梅市域では常盤樹神社と八雲神社に、羽村市域では玉川神社、護国神社、五ノ神社に、昭島市域では稲荷神社と熊川神社に、立川市の阿豆佐味神社に、東村山市の清水神社にと分散して大木が分布している。南部地域では府中市の大国魂神社にはイチョウの巨木が神木として保存されている。江戸時代に書かれた「江戸名所図会」にもその位置が確認されるほどの存在である。これを中心にして4社（八幡神社、谷保天満宮、浅間神社）に見られる。

特徴的なのは調査地東部地域である。埼玉県新座市－保谷市－武蔵野市－三鷹市－調布市－狛江市と南北に列をなしてイチョウが分布している。北から南にかけて、氷川神社、浅間神社、天神社、諏訪神社、田無神社、武蔵野神社、阿波州神社、八幡神社、八坂神社、杵築神社、神明社、井口八幡神社、野崎八幡神社、中嶋神社、八剣神社に神木や大木が存在する。八幡神社が三社あるが他は神社名が違っているので、神社に直接結びついていると言うよりは、街道（道）に関係が深いのではないだろうか。八幡神社も加えて道に結びつけて想像できるのは鎌倉街道である。（鎌倉の鶴岡八幡宮の御神木はイチョウの巨木である）

鎌倉街道とは、鎌倉幕府は成立当時（1192年）に幕府の重要な支配地である関東地方をしっかりと統治し、「すわ鎌倉の一大事」の時に、御家人を一刻も早く鎌倉に集められるように、鎌倉を起点として、四方に通ずる街道をもうけた。主なものとしては「上の道」、「中の道」、「下の道」の三街道がある。調査地周辺の武蔵野ではこのなかの「上の道」が通っていた。鎌倉化粧坂－藤沢市の北側を通り－境川を北上し－町田付近から関戸へ入り－多摩川をわたる－分倍河原－府中市－国分寺市恋ヶ窪－小平市を南北に通る－上水本町－津田塾大学の東側－鷹野街道を横切り－小川町二丁目付近で青梅街道と交わり－小川東町－東村山市の野口に達する－所沢を経て－野口堀兼－上野（群馬県）に通じる道である。

図7では大国魂神社の西側（府中街道）を通るようである。鎌倉街道にはいくつかの脇街道もあり、新座市－保谷市の天神社－田無市－小金井公園－府中市に至るものが知られている。前に示した南北に列をなすイチョウの大木の分布は鎌倉街道と何らかの関係があるのではないかと考えられる。江戸時代までは、武蔵野の重要な街道は南北に走っていた。江戸時代になって、青梅街道、甲州街道五日市街道などの東西にのびる街道が発達してきた。

写真 ⑤武蔵野市杵築神社

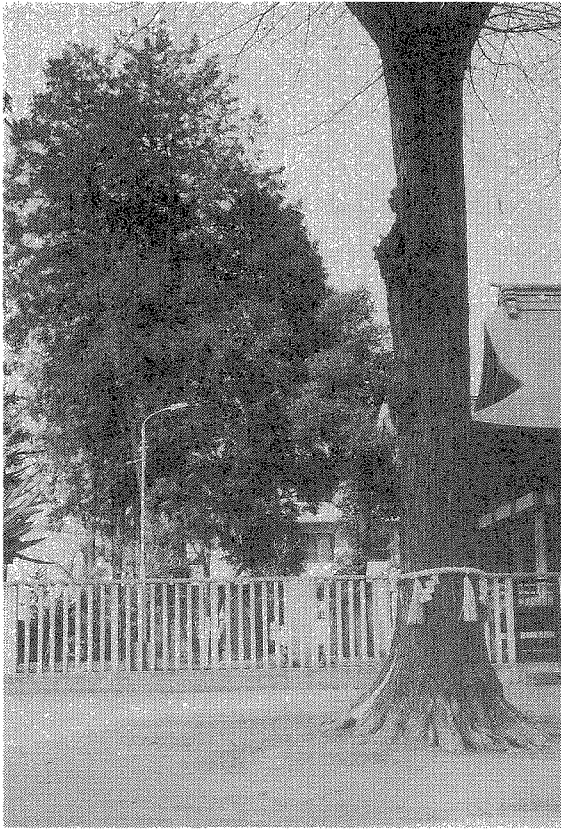
⑥保谷市天神社



写真⑤

杵築神社（武蔵野市）のイチョウ

撮影日 96. 7. 25



写真⑥

天神社（保谷市）のイチョウ

撮影日 97. 3. 13

(3) スギ（スギ科）

青梅市の春日神社は昔の境内林の特徴を今に残している神社であると思われる。霞川（入間川の支流）の左岸側にあり、段丘崖の斜面上に位置している。鳥居をくぐり、10段ほどの階段を上る。平坦な広場が広がり、正面にどっしりとした、大きな拝殿が狛犬を従えて建っている。拝殿は平坦地から約1.5m上にあり、拝殿と広場の境には東西に石垣が組まれている。拝殿と狛犬との間に参道の両側にスギの巨木が2本、対になって存在する。いずれもDBH（胸高直径）100-110cmと120-130cm、H（樹高）は30mに達する。樹幹に注連は張られていないが神木的な役割を持つと考えられる。

拝殿・本殿の裏側（北側）には杉林が広がっている。一部ヒノキも混じってはいるが、奥行き、幅ともに50-60mあり、これほどの規模の杉林は武蔵野台地上ではもう見ることはできない。DBHも65-80cm、Hは25-30mのスギの大木群が本殿などを厚く包み込んでいる。鳥居から階段にかけてもその両側にスギの大木が多く見られる。地形的に本殿の裏側は少し高まり、スギ林がおわるあたりから下り斜面になっていて、霞川の支流に達する。したがってこのあたりでは最も高い部分に神社が位置している。

さらに青梅地域では霞川の左岸側で加治丘陵の下部に下流側に向かってスギを神木とする神社

が並んでいる。村社柚保菖神社、蔵主神社、村社木野下神社などである。蔵主神社のスギはDBH100-115cm、H30mに達する巨木が4本、本殿を囲んでいる。近くに住んでいるおじいさんの話では200年位の樹齢ではないかとのことである。

瑞穂町の愛宕神社にもスギが多い。平坦地にあり、畑の中の大きな緑の樹冠は遠くからでも確認することができる。スギとヒノキが多く、昔ながらの神社の境内の様子を見せてくれる。

道路近くの大きな鳥居から畑のなかの参道を真っ直ぐ西に歩く。70-80m進むと境内に着く。入り口付近はホウノキ、イロハカエデ、エノキ、ムクノキ、サクラなどの落葉広葉樹が多く、明るい雰囲気をつくっている。参道の奥に大きく、落ち着いた構えの拝殿が見える。建物は東向きに建てられている。拝殿・神殿（本殿）の南側、西側、北側にスギ林、ヒノキ林が広がり、DBH40-60cm、H20-25mの樹木が林立している。その中でひときわ目立つのが本殿の西側に接して生育しているスギの巨木である。DBH100cm、H28mで、神木的役割を持っている。

狭山丘陵の西部地区で南側斜面の下部に位置している武蔵村山市の日吉神社の境内にはスギの大きな枯株が残っている。聞けば、伊勢湾台風（1959年）で倒されたらしい。生きていたときは大人が4人くらい両手を伸ばしてようやく届くほどの目通りだったと言うから、DBHは2mに達する巨木で、当時は「大杉」と呼んでいたという。倒れたとき根元から5m位は空洞だったという。その後またスギを植え、現在ではDBH30cm、H15mの二代目に成長している。本殿の裏側では他のスギが良好な生育を示しているので、神木候補も将来は「大杉」と呼ばれるようになるのではないかと思う。

同じ並びで東部に行くと、スギの大木を境内にもつ神社として、東大和市の豊鹿島神社と村社熊野宮がある。特に神木として注連などが張られているわけではない。豊鹿島神社では境内にスギが7本見られるが、中で最も大きいのが狛犬の近くにある個体で、DBH80cm、H22mである。他の個体はまだ小さい。拝殿・本殿の裏側はヒノキ林で包まれていて、静かな雰囲気をつくっている。境内で最大の樹木はシラカシでDBH100cm、H20mのものが1本生育している。

東大和市の村社熊野宮では建物の周囲はコナラ林で、本殿の北側は丘陵の尾根部につながっていて、スギやヒノキが多く、良好な生育である。このあたりまでがスギの良好な生育が見られるようで、台地上では境内にスギの大木がほとんど見られなくなる。

府中街道に面した東村山市の八坂神社では、スギが神木とされ、東向きの拝殿・神殿（本殿）の東側の狛犬の近くにある。DBH70cm、H12mとあまり大きくはない。しかも、幹の上部が枯れていて、切断されている。緑の葉が付いている枝はわずかで、将来が不安である。

建物の周囲はコナラ-アカマツ林、アカマツ林、ヒノキ植林地などで囲まれ、それぞれ良好な生育である。林内にスギも2本あるが、神木のように枯れてはいない。

清瀬市の上宮稲荷神社ではスギが神木とされている。DBH95-115cm、H25mと巨木で、堂々とした趣を持っているが、上部が枯れていて半枯死状態である。柳瀬川右岸の段丘崖の小さい丘の上であり、建物の周囲はアカマツ-コナラ林の雑木林になっている。スギは2本だけで、

すでに枯れてしまった株が1つ残っていた。

志木街道に面した日枝神社においても同様な現象が観察された。神木のスギの幹の上部が枯れて危険なので上部のみ伐採したという。裏鬼門の位置にあったシラカシの巨樹（樹齢300年と推定）も枯れて倒れる危険があったので1996年に伐採した。大きなケヤキ2本分位の樹冠の広がりがあったという。

このような大木がなぜ枯れるのか。神社関係者にお聞きしたところ、志木街道の交通量の多いことも原因の1つと考えられるが、それよりも地下水位が下がったことが大きいのではないかと考えているとのことだ。神社の北部に位置する埼玉県側で工業団地ができて、地下水を汲み上げているらしく、清瀬市は地盤沈下がひどいと聞いている。当然浅根性の植物であるスギなどにも悪影響を与えている。志木街道に近いところに今の神木のスギよりも大きなスギがあったが、台風で倒れてしまったという。

府中市の大国魂神社の場合も地下水位の低下とスギの衰退についての調査例の報告がなされている。大国魂神社では境内に成立する社叢の調査が文化12年（1815）と、大正2年（1913）、それと昭和48年（1973）の3回、綿密な境内の樹木の調査が行われデータが残されている。それによると、スギは文化12年（1815）では境内に348本生育していた。大正2年（1913）には275本に減り、昭和48年（1973）の調査では1本もなくなっていた。その原因として特に1973年に0になった理由として、これらのスギの衰退は昭和30年以降から始まったこと。府中市周辺の都市化の進行に伴い、降雨による浸透水が地表面積の減少とともに排水路の整備により川に流され、また人口増大に伴う水の汲み上げなどにより地下水位の低下をもたらした。そのため浅根性のスギの生育に重大な影響を及ぼしたと指摘している。

東京市は昭和8年（1933）第8回植樹祭を機会に、市内512の小学校の協力のもとに「老樹の調査」を行っている。さらに東京都は昭和63年（1988）に「巨樹・巨木林調査」を行っている。その中でスギの巨樹（幹周囲300cm以上）の本数を比較すると昭和8年では19本、昭和63年調査時の区部においては全く確認されなかったという。そのほか区部において、減少が目立った樹種として、ムクノキ、エノキ、マツなどがあり、反対に増加が目立つのがケヤキ、イチョウ、スダジイ、クスノキ、タブノキなどで、生育環境が悪化したにもかかわらず、55年間に成長したもの、及び調査密度の違いと説明されている。ムクノキ、エノキの減少は市街化の進行によるものとされている。

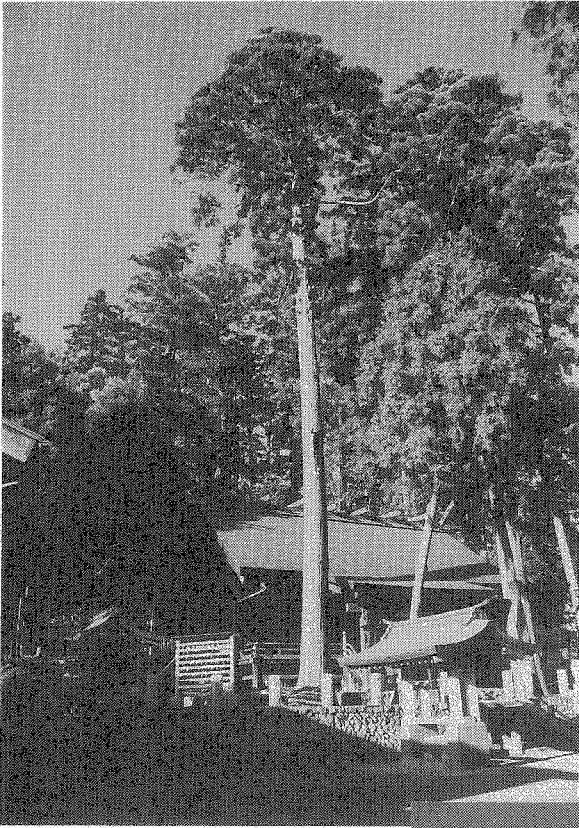
写真 ⑦青梅市春日神社

⑧青梅市蔵主神社

⑨瑞穂町愛宕神社

⑩東村山市八坂神社

⑪清瀬市日枝神社



写真⑦

春日神社（青梅市）のスギ

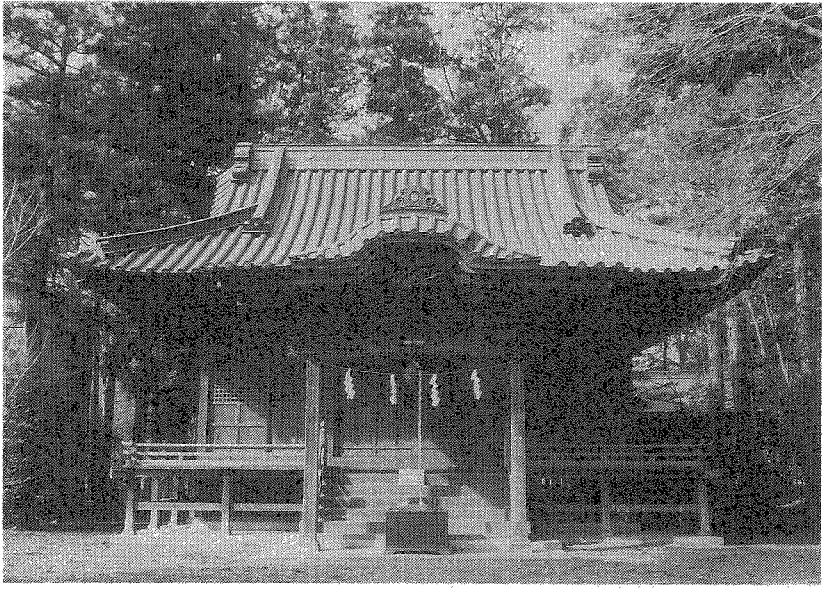
撮影日 97. 1. 4



写真⑧

蔵主神社（青梅市）のスギ

撮影日 97. 1. 4



写真⑨ 愛宕神社（瑞穂町）のスギ
撮影日 97. 1. 16



写真⑩ 八坂神社（東村山市）のスギ
撮影日 97. 1. 12



写真⑪

日枝神社（清瀬市）のスギ

撮影日 97. 5. 22

(4) スダジイ（ブナ科）

スダジイを神木としている神社は6社ある。青梅市の師岡神社は霞川左岸側に位置し、加治丘陵の下部斜面上で平地から10-15m上にある。南向きの本殿の東側に南北に並んでスダジイが生育している。かつては3株あったが現在では1株が枯れてしまい、2株が残っている。DBH 169cm、H14m、DBH137cm、H13mと大きく枝振りが勢いもよく良好な生育状態である。

青梅市の住吉神社は多摩川の左岸側にあつて段丘崖の斜面上に位置している。急な階段を上ると豪華で壮大な拜殿を迎えられる。狛犬の大きさにも驚かされる。階段の東側の斜面上にスダジイの大木が多い。最も大きいDBH130-140cmH8mの個体はすでに枯れている。DBH110cm、H15mのものが健在である。拜殿や本殿の裏側には若いスギ林が広がっている。

同じ青梅市で千ヶ瀬神社にもスダジイの巨木がある。建物は多摩川の左岸側にあつて段丘崖の斜面上に位置している。参道は段丘面の平地を南に長く延びている。神木は2本あり、DBH 178cm、H18m、DBH120cm、H16mで他にDBH40-60cmのものが2本生育している。生育している場所はいずれも斜面上である。ほかに目立つ大木にはシラカシ（DBH100cm、H16m）がある。

多摩川を下流側に下がると流路のすぐ近くに阿蘇神社（羽村市）がある、ここのスダジイは巨木で大きな樹冠を多摩川の流れの方に伸ばしている。DBH194cm、H18mと調査した中では最大と思われる。羽村の稲荷神社も多摩川の左岸側にあつて段丘崖の斜面上に位置している。境内にはスダジイは神木の1本しかない。

東に遠く離れて三鷹市の八幡大神社にもスダジイの神木がある。平地地で珍しいと思われたが

地形図で確認すると仙川の流路にほぼ接していることがわかった。従って、スダジイの大木が生育しているのはローム層の厚く堆積している台地上ではなく、河川の段丘崖の斜面上に多く見られることが理解できる。台地上にある神社にもスダジイは生育している。しかし、いま述べたような大木はほとんど目にはできない。神木として扱われているスダジイが自生のものか、植えられたものなのかを一本一本確認することはできないが、両方あるのではないか。

「秋川の自然」の中には、草花丘陵の菅生にスダジイ林があることが紹介されている。鯉川に面する南向き斜面にコナラ林やアカマツ林に囲まれて、約20m四方ぐらいに9株19本のスダジイが15m-18mの高木層を形成しているとのこと。林内上部に小祠のあとらしい石積みの断片が埋まっているので、山の神の信仰からかなり後の世まで残された可能性がある」と説明されている。今では大変珍しい存在になっている。昔は丘陵地の所々にスダジイ、ツクバネガシ、アラカシなどからなる常緑樹林が成立していたと考えられる。スダジイの大木たちは昔の武蔵野の原風景を想像させるものがある。

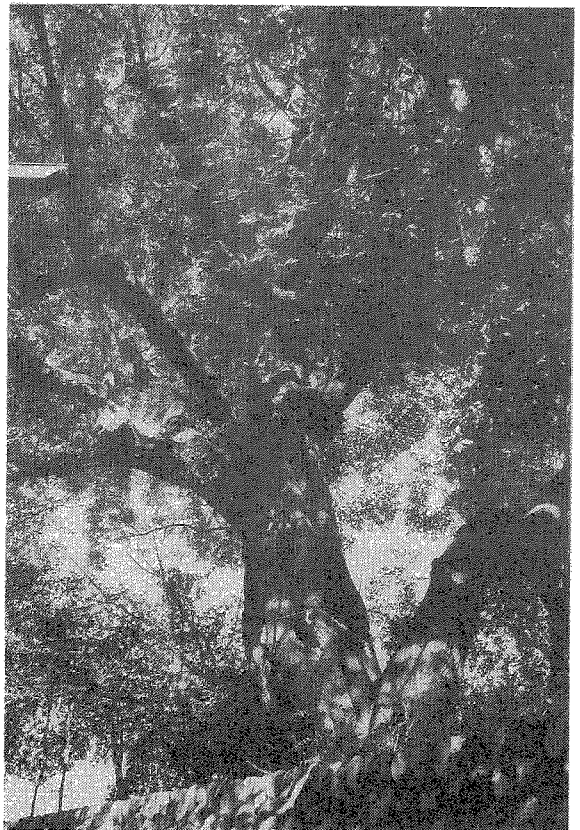
武蔵野の台地上の屋敷林にスダジイが生育していることがあるが、ほとんどは植えられたものである。武蔵野の雑木林を多数調査した経験があるが、林内にスダジイの実生を見たのは、保谷市青嵐森（北町）でDBH 2 cmのものを1本見ただけである。屋敷に植える場合でも畑に種子を蒔き、発芽させてから植えたという話が伝えられている。

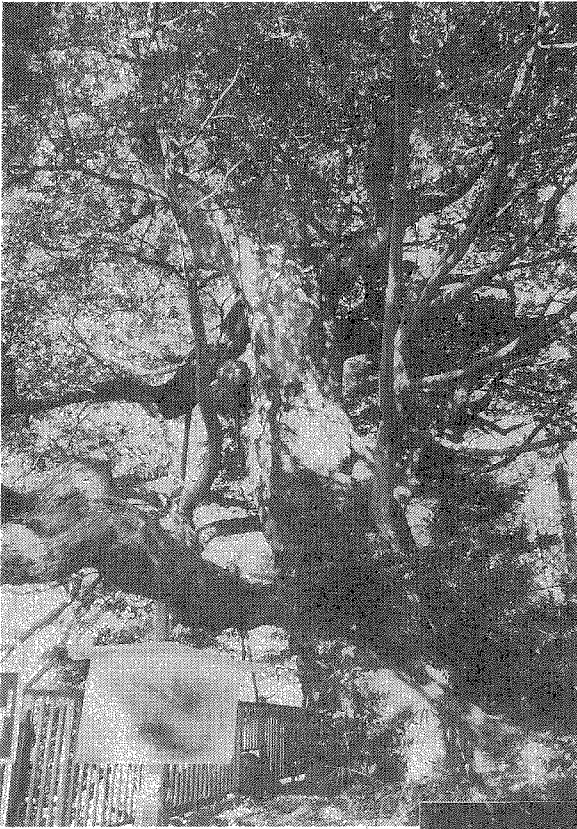
- 写真 ⑫青梅市千ヶ瀬神社
⑬羽村市阿蘇神社
⑭羽村市稲荷神社
⑮三鷹市八幡大神社)

写真⑫

千ヶ瀬神社（青梅市）のスダジイ

撮影日 97. 1. 6

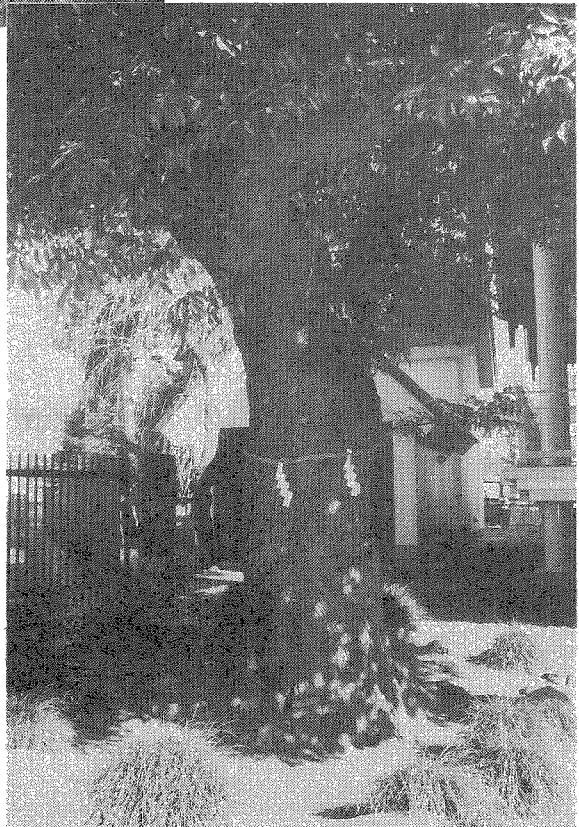




写真⑬

阿蘇神社（羽村市）のスタジオ

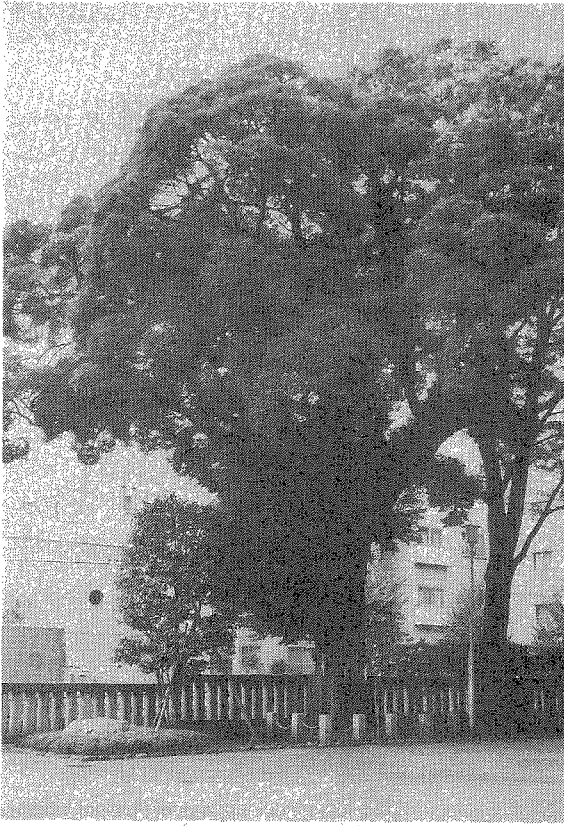
撮影日 95.11.27



写真⑭

稲荷神社（羽村市）のスタジオ

撮影日 95.11.27



写真⑮

八幡大神社（三鷹市）のスタジイ

撮影日 96.10.10

(5) アラカシ（ブナ科）

本来の自生地は山地、丘陵地、崖地斜面上等にある。境内地においても加治丘陵や狭山丘陵などに位置する神社に多く見られる。

青梅市域では多摩川の左岸側段丘崖斜面上部にある八雲神社にはアラカシが9本と、生育している樹木の中で最も多く、いずれも崖斜面上に株立して生育している。中で最大のDBH70cm、H11mの個体が神木とされている。

羽村市の松本神社も、少し下流側の多摩川の段丘崖斜面上にある神社で斜面の一部を平らにして拝殿や本殿が建てられている。その裏側にアラカシ（DBH45cm、H15m）の神木がある。建物の周囲はDBH30-40cmのスギ林になっている。境内で最も大きい樹木は鳥居近くにあるイチヨウでDBH80cm、H20mに達する。

福生市の熊川神社は境内面積の割に樹木が多く見られる。計17種類の中でスギやヒノキがそれぞれ35本、16本生育している。その中でアラカシは8本ある。南向きの本殿に向かって左手前に神木として最も大きなアラカシがある。DBH80cm、H11mである。

狭山丘陵の南斜面に位置している神社にもアラカシを神木としている場合が多い。瑞穂町の狭山神社は狭山丘陵の西端にあり、20mほどの小高い丘になっていて、階段を上り詰めると平坦な

境内に着く、正面に拝殿・本殿の建物がある。建物の周囲はスギ林、ヒノキ林になっていて、林内にはアラカシ、シラカシ、クスノキ、ツクバネガシなどの常緑広葉樹が多く混生し、それらの林冠が建物を包み、厳かな雰囲気をつくっている。アラカシが最も多く見られる。拝殿に向かって右手前にあるのが神木とされているものである。DBH50cm、H15mとそう大きくはない。近くにあるツクバネガシの方がDBH55cmと大きい。

瑞穂町の阿豆佐味天神社も狭山丘陵の南斜面下部に位置し、境内に生育している樹木の中ではアラカシが最も多く、20本生育している。南向きの拝殿の右手前に株立のアラカシがある。神木とされているものである。DBH30-45cm、H4m、13m、13mの3本からなっている。近くにDBH70cm、H11mの個体があるが神木とはされていない。樹木の大きさではなくその位置が重要なかもしれない。あるいは2代目なのかもしれない。

東大和市の八幡神社の場合も4本株立しているアラカシが神木とされている。ここも2代目と思われる。

アラカシは調査地東部の台地上ではまったく神木とされているものはない、境内にアラカシが存在しないのではなく、成長がよくないのか、大木は見あたらない。

(6) シラカシ (ブナ科)

八坂神社(武蔵村山市)は奈良橋川左岸側で、狭山丘陵の南斜面中腹に位置している。境内にはシラカシが11本ある。その中で神木とされているのが、拝殿に向かって右手前にある大木でDBH110-115cm、Hは22mに達する。他にシラカシが建物の西側と北側に列植されていて、武蔵野の屋敷林に見られるように、冬季の北西の強風から建物を守るように配置されている。さらにその北側には若いヒノキが沢山植えられて丘陵上部へとつながっている。また、本殿のうらには、「立皮の桜」と呼ばれるヤマザクラ(DBH70cm、H20m)もある。

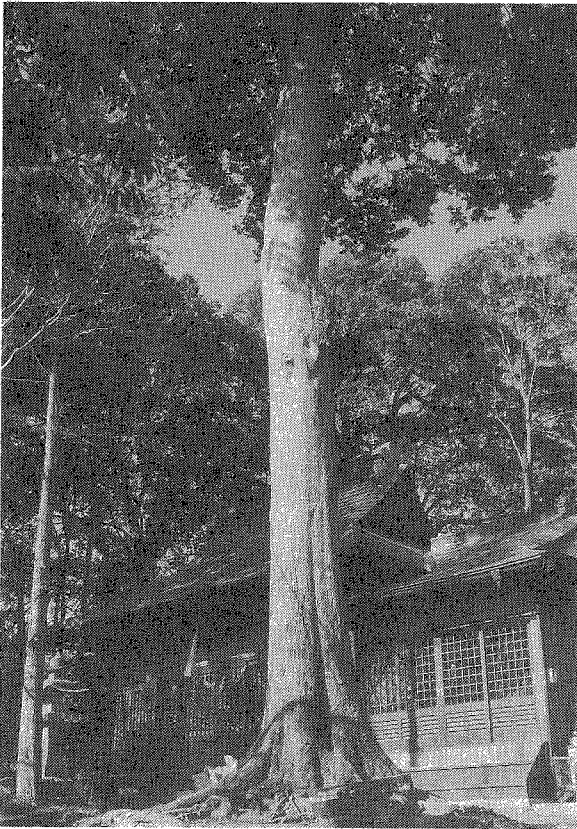
同じ市域の神明社(新青梅街道の北側に隣接)にもシラカシの大木があり、神木とされている。南向きの本殿の西側に位置し、DBH110-120cm、H25mと調査地の中では最大の大きさである。四方に枝を伸ばして遠くからでもそれと確認することができる。

国分寺市の内藤神社、府中市の諏訪神社、練馬区の稲荷神社、東大和市の豊鹿島神社などにもシラカシの大木が分布している。

写真 ⑩武蔵村山市八坂神社

(7) クスノキ (クスノキ科)

常緑高木、生命力が強く長寿のため巨樹が多く、環境庁が昭和63年(1988)に「巨樹・巨木林調査」を行い、その結果を平成元年(1989)6月に速報として発表した。全国の巨樹(幹周囲300cm以上)：幹周ベスト10をみると9本がクスノキであった。残りはエドヒガンであった。東京都の場合はケヤキ3本、イチョウ3本、スギ2本、スダジイ2本でクスノキは1本も含まれてい



写真⑯

八坂神社（武蔵村山市）のシラカシ

撮影日 97. 1. 23

ない。西日本中心に本来の分布地があることがわかる。したがって、武蔵野の境内においては、植えられたものである。今回47神社で確認され、武蔵野市の八幡神社ではDBH75cm、H16mの個体が神木として注連を幹に張り、竹の囲いで保護されていた。

三鷹市の神明社では元々はクロマツが神木であったが、枯れたので、同じ場所に、クスノキが植えられ、神木とされている。そのほか国立市の谷保天満宮、狛江市の伊豆美神社にも大木がある。調査地の東側地域に主に分布している。

写真 ⑰ 狛江市伊豆美神社

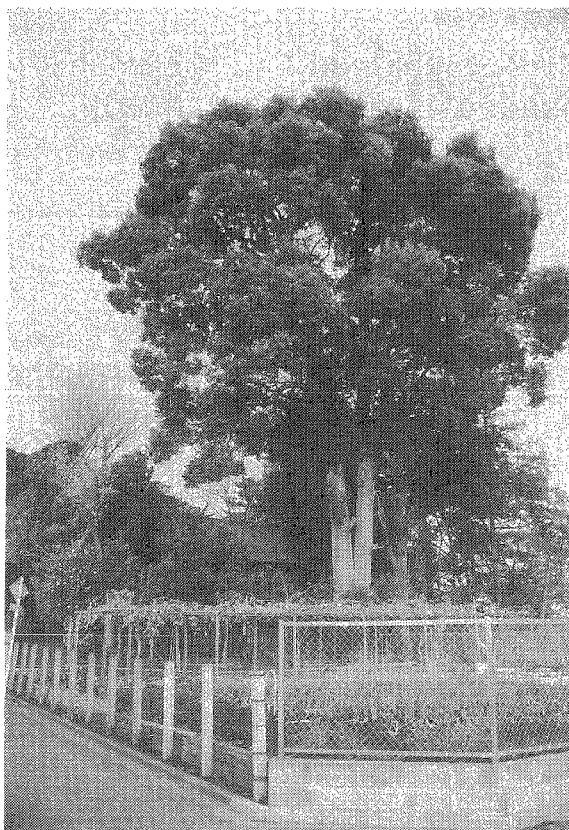
(8) クロマツ（マツ科）

調布市虎狛神社は野川の左岸側に位置してはいるが平坦地になっている。境内地全体に樹木が大変多い。イヌシデ、シラカシ、スダジイなどが目立ち、その中でひとときわ大きいのが神木としてのクロマツである。（推定樹齢300年以上）、DBH150cm、Hは21m位ある。神木として昔からよく保存されていて、「江戸名所図会」には、4本の大きなクロマツが描かれ、当時は本殿右側（現在あるのは左側）にも同様なマツの巨木があり、相對していたと伝えられている。昭和50

写真⑰

伊豆美神社（狛江市）のクスノキ

撮影日 96.12.15



年（1975）頃の落雷で幹がさけ、樹勢も衰退したため、昭和62年（1987）外科手術を実施し、三本のロープで幹を支えている。

1997年の秋には再度空洞になっていた幹の部分につめものをする治療中であった。98年春に訪れてみると、昨年まで緑色の葉をつけていた枝もすっかりなくなり全体が茶色に変色して、長い歴史に終わりを告げたのかもしれない。境内には西側にクロマツの大木が2本（DBH80cm、H25m、DBH60cm、H20m）生存してはいる。

小平市の鈴木稲荷神社でもクロマツが神木とされている。東向きに建てられた拝殿に向かって右手前にある。そばの立て札には次のように記されている。「鈴木稲荷の黒松 古来、松は神の降臨する木として尊ばれ、長寿や節操を表すもので慶事には必ず用いられ、最高位の木として知られております。

鈴木稲荷の黒松は深谷芳治氏（鈴木町一丁目）の先祖、深谷勘兵衛氏が武蔵の国深谷郷（埼玉県深谷市）から新田開発に入植の折、黒松の苗木を稲荷神社、海岸寺（御幸町）及び自宅敷地内に植え、神仏の加護により新田開発が成功するよう祈願したものであるという。

その後海岸寺の松は枯れ、深谷家の松は空洞化が進み倒木のおそれがあるために昭和36年に伐

採、現存する黒松は一本のみとなった。

推定樹齢280年、目通り太さ3.6m、樹高約31m、都内に現存する松で18番目の大木で鈴木新田開発の記念樹である。平成4年5月 鈴木稻荷神社」。

境内には拝殿の左手前にカヤの大木（DBH116cm、H28m）、さらに拝殿から東側にのびる参道の東端の鳥居の近くにはケヤキの大木も2本ある。全体として緑豊かな空間を作りだしている。

写真 ⑱調布市虎狛神社



写真⑱

虎狛神社（調布市）のクロマツ

撮影日 96.12.27

(9) カヤ（イチイ科）

調布市の諏訪神社（拝殿は東向き）には左手前に神木としてのカヤがある。DBH90cm、H20mに達する大木である。

写真 ⑲調布市諏訪神社

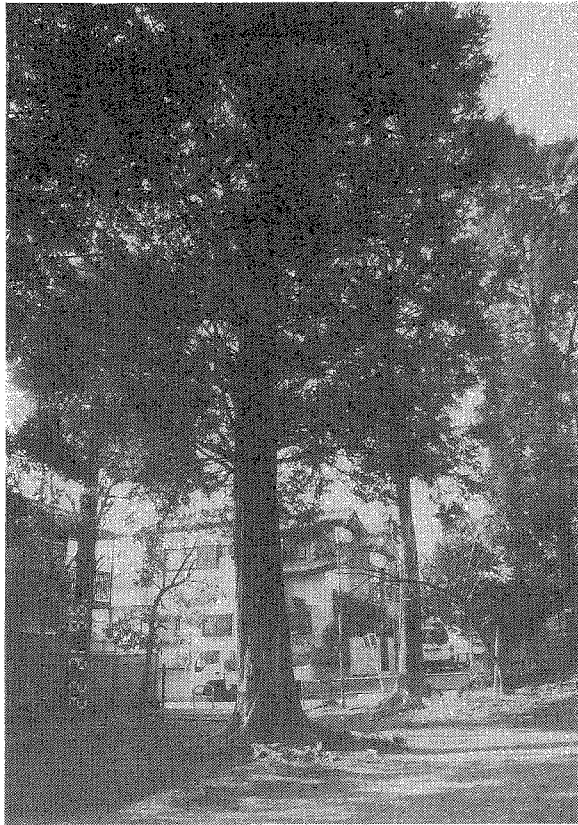
(10) ウバメガシ（ブナ科）

小金井市の山王稲穂神社には武蔵野では大変珍しく、神木としてウバメガシが保存されている。

写真⑱

諏訪神社（調布市）のカヤ

撮影日 96.12.22



神木としてもここ1社のみ、境内に生育しているのも府中市の日吉神社（DBH25cm、H10mと若い）のみ。ウバメガシはもともと海岸沿いの山地などに多い樹木で、普通はH5-7mの低木だが、大きいのはH18mに達するものもあるという。ここではDBH40cm、H10mに成長している。由来などについては不明である。

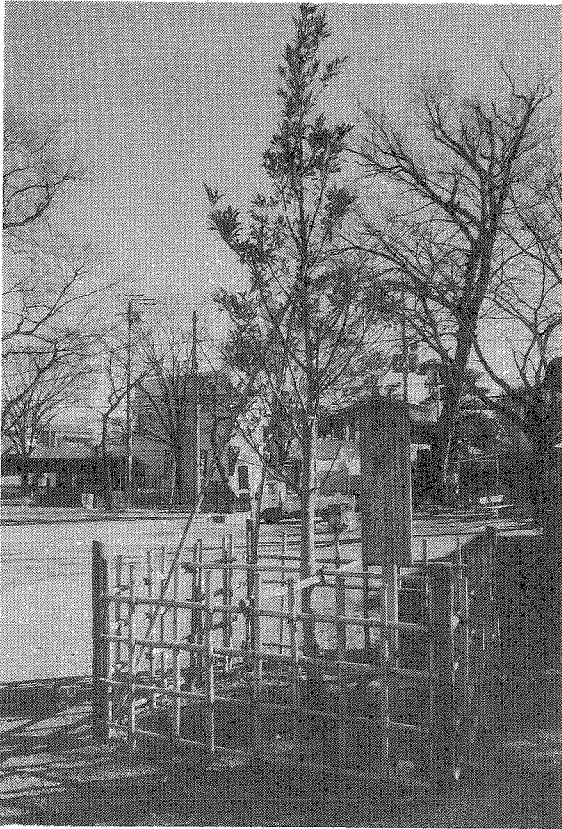
⑪ オガタマノキ（モクレン科）

東村山市の諏訪神社はイヌシデの大木がよく目だが、神木としてはオガタマノキである。それもごく最近指定されたものである。その樹木のそばの立て札によれば、

「御神木 招霊の木 おがたま モクレン科 常緑樹

天照大神様天岩戸隠れの際、天鈿女命がこの木の枝をお持ちになり舞を奏し、皇大神様が岩屋よりお出ましになり、再び明るい平和な天下になりました。各神社に使用しております神楽鈴はこの実が起源と伝えられています。招霊は神を招く意で繁栄幸福を招くと言われていました。平成6年戊年」となっている。

写真 ⑳東村山市諏訪神社



写真⑳

諏訪神社（東村山市）のオガタマノキ

撮影日 95.12.22

(12) ツガ（マツ科）

武蔵村山市の熊野神社は狭山丘陵の裾野にある神社である。南向きの神殿の左手前にあるツガ（DBH75cm、H17m）が神木とされている。今回の調査でもツガは少なく、青梅市の常盤樹神社、武蔵村山市の神明社にそれぞれ1本ずつ生育しているのみである。台地上には全くなく、丘陵地でも珍しい。ただし、あきる野市の加住丘陵にある^{あめむしじんじ}雨武主神社の境内にはスギ、モミ、ツガの高木群がそびえ立っていて、丘陵地ではまれにみる規模の大きい森厳な境内林があることが報告されている。（「秋川の自然」）

写真 ㉑武蔵村山市熊野神社

(13) ウメ（バラ科）

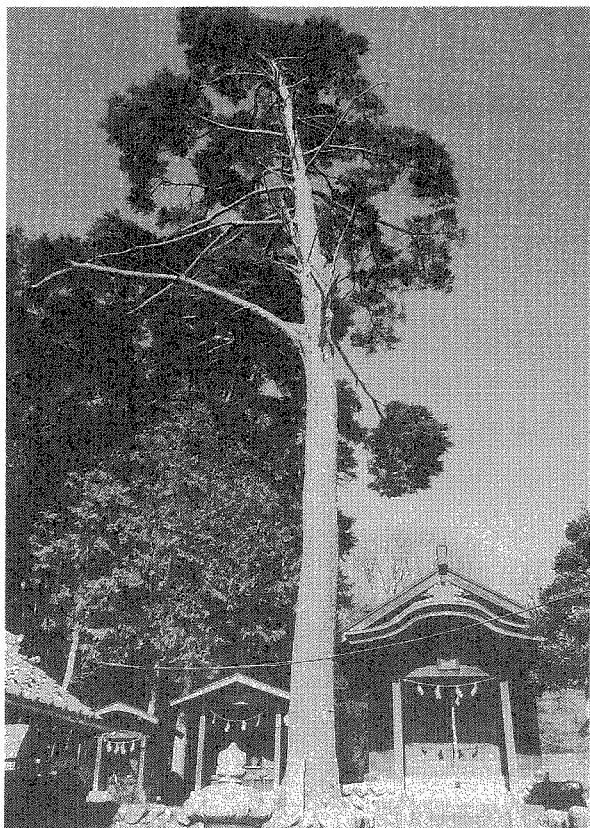
福生市の神明社では紅梅が神木とされている。ごく最近（平成8（1996）年7月）指定されたものである。それ以外に特にウメを神木としている神社はない。菅原道真公をお祭りしている、天神社、天満宮、北野神社などには必ずウメが沢山植えられている。

写真 ㉒福生市神明社

写真⑳

熊野神社（武蔵村山市）のツガ

撮影日 97. 1. 23



写真㉑

神明社（福生市）のウメ

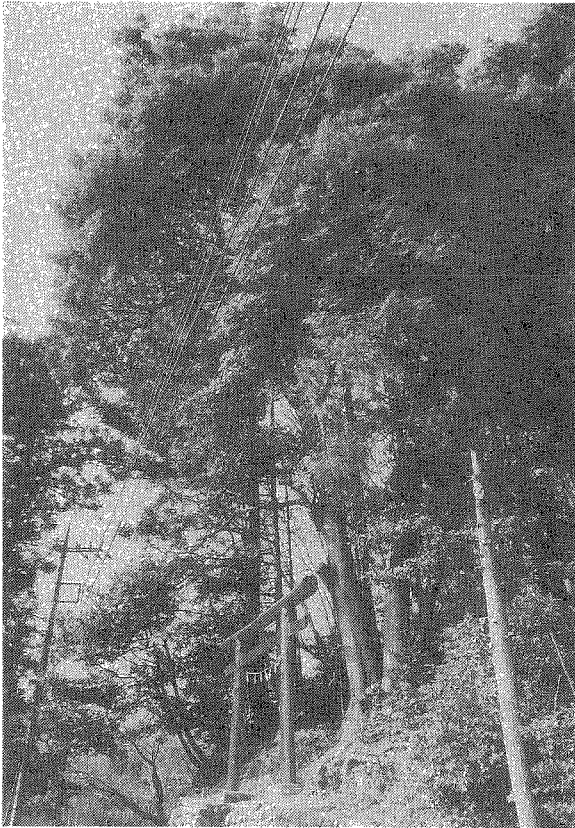
撮影日 97. 2. 23

(14) タブノキ (クスノキ科)

本来の生育地は暖地の沿海地にある。武蔵野では台地上にはほとんどなく、多摩川上流域の段丘崖上、山地の谷筋などに大木が散見できる。今回調査対象域とはしていないが、奥多摩町古里附の春日神社は青梅街道沿いにおいて多摩川の段丘崖斜面上に位置している神社であるが、タブノキの巨木が生育している。DBH257cm、H15mに達する。

青梅市加治丘陵の尾根部にある吹上神社は神殿の周囲はヒノキ植林地、イヌシデーコナラ林、コナラ林に囲まれている。裾野の道路から急斜面を上り詰めたところに位置している。道路際の鳥居のそばにタブノキの株がある。中で最大の個体はDBH55cm、H12mで神木的な役割を保っている。他には国分寺市の八幡神社、調布市の若宮八幡神社、府中市の熊野神社に若い個体がそれぞれ1本ずつ見られるだけである。

写真 ②青梅市吹上神社



写真②

吹上神社 (青梅市) のタブノキ

撮影日 97. 1. 16

(15) 境内における御神木・大木の方位別分布

表5に拝殿・神殿(本殿)を円の中心にして、境内のどの方角に御神木や大木が位置しているかを検討した。対象として22種類を選んだ。神木が2本以上ある場合はそれらをすべて集計したが、大木のみ場合はDBH最大のものを選んで集計した。総数168本について検討した。

まず、南側に大部分の75.5%が位置していることがわかる。特に裏鬼門の南西側に神木などが多く配置されていることは注目される点である。北西側には最も少ない。

ケヤキはSW面、イチョウ、シラカシ、アラカシはSE面が第1位、スダジイ、クロマツ、クスノキなどがNE面に多い。南向きの建物が多く、その前に神木などが配置されることが普通なのでこのような結果になったものと思われる。

表5 境内における御神木・大木の方位別分布

	種名	NW面	NE面	SW面	SE面	計
1	ケヤキ	5	5	22	17	49
2	イチョウ	4	5	8	17	34
3	スギ	1		9	13	23
4	シラカシ	2	2	3	9	16
5	アラカシ		1	3	4	8
6	スダジイ	1	3	2	2	8
7	クスノキ		2	1	2	5
8	エノキ	1	1		2	4
9	クロマツ		2	1	1	4
10	カヤ			1	1	2
11	ツガ			2		2
12	ヤマザクラ		1		1	2
13	ヒノキ			1	1	2
14	アカマツ	1				1
15	イヌシデ		1			1
16	ウバメガシ				1	1
17	ウメ		1			1
18	オガタマノキ		1			1
19	コナラ			1		1
20	サワラ				1	1
21	タブノキ				1	1
22	ムクノキ		1			1
	計	15	25	54	73	168
	%	8.9	15.5	32.1	43.5	100

(16) 御神木・大木の境内における分布

今度は方位を無視して境内の建物の配置と御神木・大木の分布はどう関係しているかを検討した。(図8)

大木の場合、参道を間にして対に植えられていることが多いので、今回は大きさにそれ程の差がなければその2本をカウントした。驚いたことに参道を境にして拝殿に向かって左側が17種類、90本、右側が19種類、91本とほとんど同じであった。拝殿と狛犬の間の部分が左右ともに種類数、個体数ともに最大であった。鳥居付近が最も少ないことがわかる。神木などはできるだけ拝殿・本殿の近くに配置されていることが理解できる。

3. 特徴種の境内における分布

境内に生育する樹木全138種について、種類別に現存数、出現頻度をまとめたものが表6である。最も高い頻度で見られるのがイチョウである。イチョウは日本には自生がないので、すべて植えられたものである。ヒノキは拝殿・神殿（本殿）の後方に林を作り植えられている。ケヤキ、シラカシ、サカキ、サクラも多く植えられていることがわかる。武蔵野で同じようにつくられた林として屋敷林がある。その構成樹種を見ると、ケヤキ、シラカシ、カキノキ、ヒノキ、スギ、シュロなどが多い。境内林に大変多いイチョウなどは、なかなか葉が分解されず、肥料にもならず、実は臭いなどの理由から植えられる場合も、屋敷地の隅の方に植えられる。カキノキは食物としての利用、シュロは昔は皮を売って現金収入としていた。屋敷には多くの場合屋敷神様を祀っている。そこには、サカキなどを植えることもあるが、神社ほど多くはない。

境内にあって、出現頻度の高い樹種、現存数の多い樹種、神木などとして特別に扱われている樹種の中から代表的な15種類を選び、神社の拝殿・神殿（本殿）や参道・鳥居などを中心にどの位置に存在（自生、植栽は区別しない）するのかを調べて、それぞれの樹種が神社においてどのような役割を持っているのか理解しようと考えた。

まず図9のように境内を11区画に分けた。樹種ごとに、神社別にどの区画に配置されているのかを集計した。境内において複数のポイントに生育する場合はすべてカウントした。全11区画を100%として、区画ごとの配置ポイント数から区画ごと、種類別に%を計算した。その結果を示したのが表7である。

この表を基にして区画ごとの(%)を円の大きさで表現したものが図10と11である。図中で黒く塗りつぶしてあるのは、11区画の中で(%)の多い順に第1位と第2位を示したものである。3個あるのは同じ(%)のものが存在したためである。

この図からその樹種が武蔵野の神社の場合、境内のどの位置に主に植えられ、または自生により成長したものを保存しているかを一目で理解することができる。

拝殿・神殿（本殿）などの建物を包み込むようにその後方に植えられているのがエノキ、ヒノキ、シラカシ、スダジイ、スギ、クスノキの6種類である。エノキを除けば、他は常緑樹である。特にスギとヒノキはまとまって植えられ、林をつくっていることも多い。いずれも年間を通じて、建物を厳かな雰囲気を中心におくため、全体を暗くしておくことが目的ではなかろうか。シラカシやスダジイやクスノキは建物の周囲に列状に植えられていることが多い。

同じマツでも、アカマツとクロマツでは明らかにその配置パターンが異なるようである。アカマツは拝殿の左手前が15.4%と最大で、右側は14.1%と続いている。本殿の裏側にも割合多く見られる。それに対してクロマツは拝殿前に対をなして見られる、さらに参道沿いにも植えられることが多いが本殿の裏側には少ない、この理由として、アカマツは武蔵野ではアカマツ林やコナラークヌギ林の雑木林のなかに普通に混生していて、神社を造る場合それらを取り込んで造営される場合も多いので、現在見られるような配置ができたと思われる。

表 6 境内樹木の種類別出現頻度と現存数 (175神社)

	種名	現存数	出現数	出現頻度(%)	種名	現存数	出現数	出現頻度(%)
1	イチヨウキ	554	136	77.3	マユミ	4	3	1.7
2	ヒノキ	3145	130	73.9	ウワミズグクラ	3	3	1.7
3	ケヤキ	1069	130	73.9	コウヨウザン	3	3	1.7
4	シラカシ	658	118	67.0	シダレヤナギ	3	3	1.7
5	サカキ	348	114	64.8	タラヨウ	3	3	1.7
6	ソメイヨシノ	886	111	63.1	ツガ	3	3	1.7
7	イロハカエデ	264	97	55.1	トチノキ	3	3	1.7
8	スギ	1373	91	51.7	ヤマボウシ	10	2	1.1
9	エノキ	277	71	40.3	シキ	9	2	1.1
10	ヒサカキ	316	68	38.6	フジ	6	2	1.1
11	イヌツゲ	138	65	36.9	アカガシ	3	2	1.1
12	ムクノキ	284	58	33.0	スズカケノキ	3	2	1.1
13	イヌシデ	605	51	29.0	ドウダンツツジ	3	2	1.1
14	クスノキ	162	47	26.7	ネムノキ	3	2	1.1
15	スダジイ	237	46	26.1	マサキ	3	2	1.1
16	ヤブツバキ	83	46	26.1	ウバメガシ	2	2	1.1
17	カヤ	84	45	25.6	カラマツ	2	2	1.1
18	ウメ	263	43	24.4	クワリ	2	2	1.1
19	アカマツ	252	42	23.9	ビワ	2	2	1.1
20	クロマツ	115	41	23.3	ヤマハシノキ	2	2	1.1
21	アラカシ	441	40	22.7	ラカンマキ	2	2	1.1
22	シユロ	91	40	22.7	オガタマノキ	3	1	0.6
23	ヤマザクラ	116	35	19.9	コノテガシワ	3	1	0.6
24	コナラ	1033	34	19.3	カゴノキ	2	1	0.6
25	モチノキ	53	34	19.3	ニシキギ	2	1	0.6
26	カンワラ	373	33	18.8	アカメガシワ	1	1	0.6
27	キンモクセイ	54	32	18.2	アスナロ	1	1	0.6
28	モッコク	53	31	17.6	イタヤカエデ	1	1	0.6
29	マテバシイ	103	28	15.9	イチイ	1	1	0.6
30	ヒマラヤスギ	86	28	15.9	イトヒバ	1	1	0.6
31	コブシ	38	28	15.9	イヌガヤ	1	1	0.6
32	モミ	45	27	15.3	イヌマキ	1	1	0.6
33	エゴノキ	271	24	13.6	ウラジロガシ	1	1	0.6
34	ヒヨクヒバ	35	20	11.4	エンコウカエデ	1	1	0.6

35	ヒイラギ	24	18	10.2	105	エンジュ	1	1	0.6
36	ミズギ	128	17	9.7	106	オニグルミ	1	1	0.6
37	クヌギ	150	16	9.1	107	カシノキ	1	1	0.6
38	シロダモ	26	15	8.5	108	カシワ	1	1	0.6
39	サザンカ	18	15	8.5	109	カツラ	1	1	0.6
40	ゲッケイジュ	16	14	8.0	110	カリン	1	1	0.6
41	アオギリ	25	13	7.4	111	カンヒザクラ	1	1	0.6
42	シダレザクラ	20	11	6.3	112	キヅタ	1	1	0.6
43	トウカエデ	15	11	6.3	113	キアラボク	1	1	0.6
44	カキノキ	12	11	6.3	114	ケリ	1	1	0.6
45	カイズカイブキ	23	10	5.7	115	クサギ	1	1	0.6
46	ネズミモチ	15	10	5.7	116	ダクミ	1	1	0.6
47	メタセコイア	12	10	5.7	117	ザクロ	1	1	0.6
48	ホウノキ	20	9	5.1	118	サンシユユ	1	1	0.6
49	ヤマダクワ	12	9	5.1	119	シダレウメ	1	1	0.6
50	カナメモチ	11	9	5.1	120	センダン	1	1	0.6
51	ハナミズキ	29	8	4.5	121	ソテテ	1	1	0.6
52	サルスベリ	8	8	4.5	122	ダイオウマツ	1	1	0.6
53	モウソウチク	600	6	3.4	123	タイサンボク	1	1	0.6
54	アカシデ	106	6	3.4	124	チャボヒバ	1	1	0.6
55	トウネズミモチ	26	6	3.4	125	トウヒ	1	1	0.6
56	イヌザクラ	9	6	3.4	126	トベラ	1	1	0.6
57	ヤマモモ	7	6	3.4	127	ナギ	1	1	0.6
58	コウヤマキ	6	6	3.4	128	ナツツバキ	1	1	0.6
59	ムクロジ	10	5	2.8	129	ニガキ	1	1	0.6
60	ユズリハ	7	5	2.8	130	ヌルデ	1	1	0.6
61	サンゴジュ	12	4	2.3	131	ハクウンボク	1	1	0.6
62	タブノキ	6	4	2.3	132	ハリギリ	1	1	0.6
63	モクレン	5	4	2.3	133	ビヤクシン	1	1	0.6
64	トネリコ	4	4	2.3	134	ボダイジュ	1	1	0.6
65	サトザクラ	10	3	1.7	135	マンサク	1	1	0.6
66	ミカン	9	3	1.7	136	モモ	1	1	0.6
67	ゴヨウマツ	8	3	1.7	137	ヤブニッケイ	1	1	0.6
68	ツクバネガシ	7	3	1.7	138	ユリノキ	1	1	0.6
69	ハリエンジュ	5	3	1.7					
70	ヒイラギモクセイ	5	3	1.7					
							合計	15306	

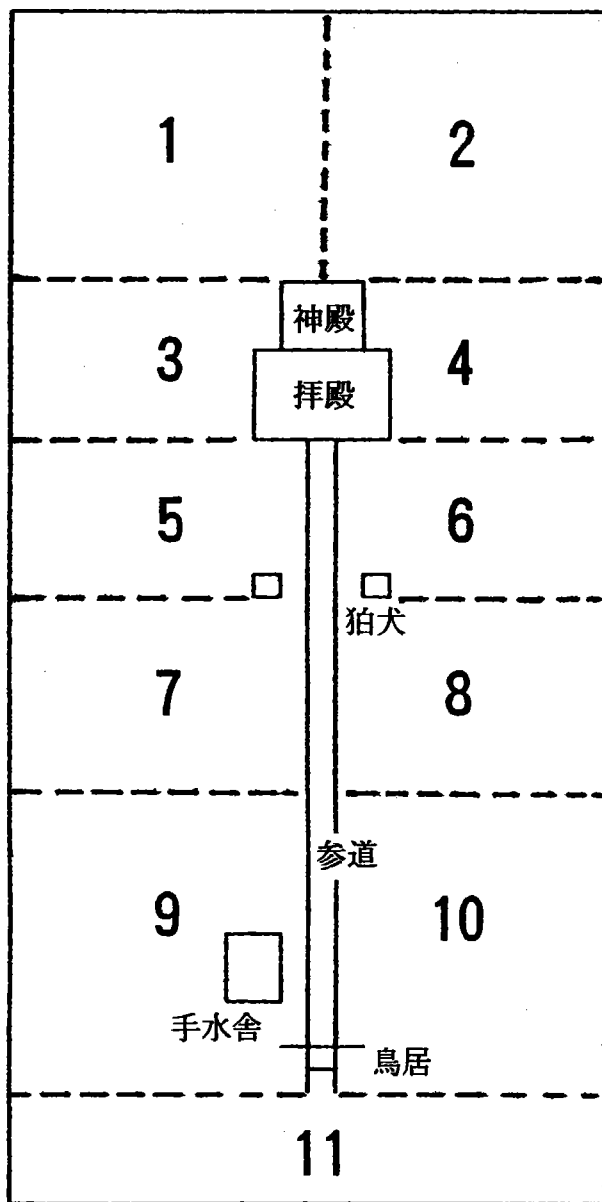


図9 境内区画図

一方、クロマツの本来の自生地は海岸近くであり、今回の調査地周辺にはない。境内にはほとんどが持ち込まれ植えられたものであり、拜殿前、参道周辺などの場所を選んで配置されたと考えられる。

サカキは神木の代表的樹種で神社の各種行事などにも、その枝が使われることが普通である。やはり武蔵野には普通は自生していない。拜殿前・神殿（本殿）と狛犬の間に参道を挟んで対に植え

表7 境内における樹木の配置（樹種別）

（表内の数値は%を示す）

位 置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	調査材外数
エ ノ キ	15.7	16.7	8.8	8.8	9.8	3.9	10.8	4.9	11.8	5.9	2.9	102
ヒ ノ キ	15.1	13.7	12.3	12.3	8.2	8.8	7.9	4.7	9.6	7.4	0	365
シ ラ カ シ	12.6	10.7	12.6	14	9.3	8.4	7.5	9.8	5.6	8.4	0.9	214
ス ダ ジ イ	10.4	10.4	14	9.3	10.4	8.1	7	7	8.1	9.3	5.8	86
ス ギ	13.6	12.6	12.6	10.6	9.5	9	7.5	11.1	6	7	0.5	199
ク ス ノ キ	8.6	13.8	12.1	15.5	10.3	8.6	5.2	10.3	6.9	5.2	3.4	58
ア カ マ ツ	11.5	11.5	6.4	14.1	15.4	12.8	7.7	3.8	7.7	6.4	2.6	78
イロハカエデ	5	6.6	7.2	9.9	14.4	13.3	13.3	8.8	6.6	9.4	5.5	181
ヒ サ カ キ	14	4	19	20	10	6	3	8	6	9	1	100
サ カ キ	4.7	3.1	12	14.7	20.4	17.3	6.8	11	5.8	4.2	0	191
ク ロ マ ツ	11.3	3.2	6.5	8.1	14.5	16.1	12.9	4.8	11.3	6.5	4.8	62
ウ メ	5	3.8	8.8	12.5	17.5	15	8.8	10	8.8	7.5	2.5	80
イ チ ョ ウ	5	6.3	3.8	5.9	10.9	11.3	8.4	8.8	18	17.2	4.6	239
サ ク ラ	5.4	5.4	6.4	10.3	5.4	9.3	7.8	7.8	17.6	21.1	3.4	204
ケ ヤ キ	7.2	7.8	7.8	8.4	8.1	5.7	11	10.4	13.7	15.8	4.2	335
	145	130	150	174	174	154	126	121	141	140	42.1	2494
平 均	9.7	8.6	10.0	11.6	11.6	10.2	8.4	8.1	9.6	9.4	2.8	

られている。左側に20.4%、右側に17.3%と大きな値になっている。建物の両側を含めて65%が建物の近くにあるのも特徴的である。

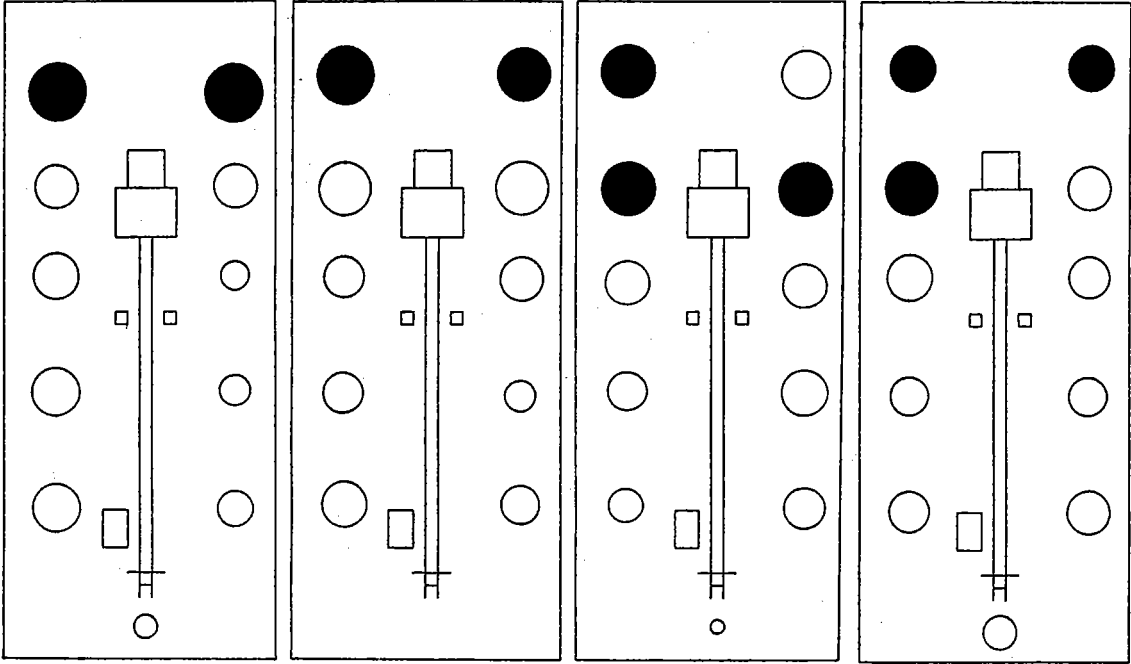
ウメもサカキとよく似た配置になっている。さらに鳥居の近くの参道沿いにもよく植えられている。

そして、神社の境内の入り口周辺、鳥居の近くなどに多く植えられているのがサクラ、ケヤキ、イチョウなどである。3種ともに落葉広葉樹で、明るい雰囲気をつくっている。 武蔵村山市の日枝神社で、近所のおじいさんに聞いたところ、自分の病気の全快のお礼に、ソメイヨシノを10本神社に寄贈した。それらは境内の入り口近く、鳥居の左右に境内の縁に沿って植えたという。

さらに、イチョウの場合は、拝殿のすぐ前に両側に対をなして存在する。これは建物を火災から守るための役割を持っているのではないか。

墨田区押上にある飛木稲荷神社の御神木大イチョウは1945年3月10日の東京大空襲を物語る「生き証人」として紹介されている。（1998.8.12の新聞）

当時、神社の本殿、ご神刀や御神輿も燃え、イチョウも真っ黒だったそうで、周囲の家もすっかり焼けたそうです。その大イチョウは今、青々としげり、境内から路上へと広い影を落として大変元気であると書かれている。このような例は多く、イチョウが建物を火災から守った例も多い。

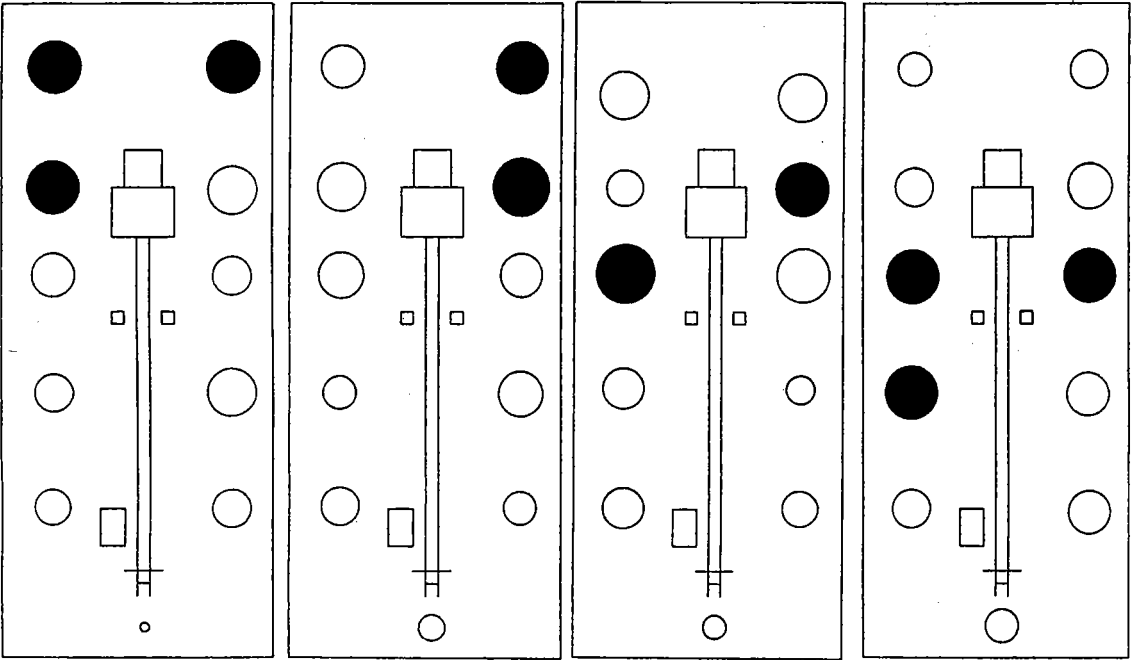


エノキ
(落葉広葉樹-にれ科)

ヒノキ
(常緑針葉樹-ひのき科)

シラカシ
(常緑広葉樹-ぶな科)

スダジイ
(常緑広葉樹-ぶな科)



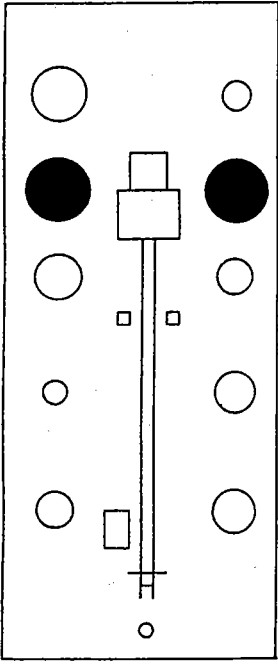
スギ
(常緑針葉樹-すぎ科)

クスノキ
(常緑広葉樹-くすのき科)

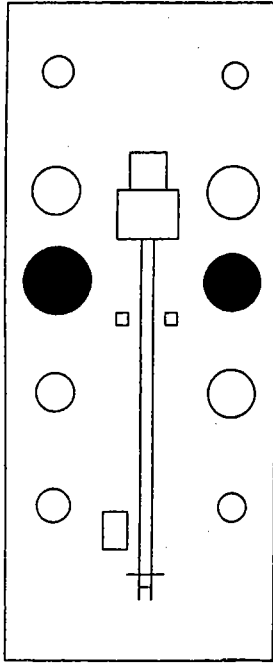
アカマツ
(常緑針葉樹-まつ科)

イロハカエデ
(落葉広葉樹-かえで科)

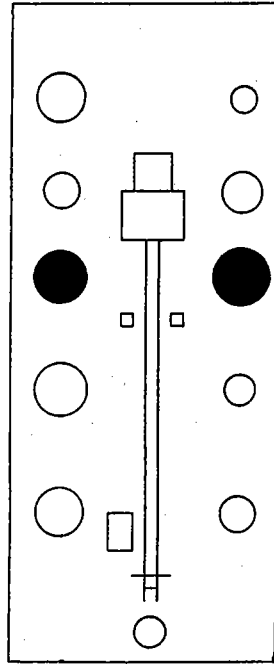
図10 境内における樹木の配置



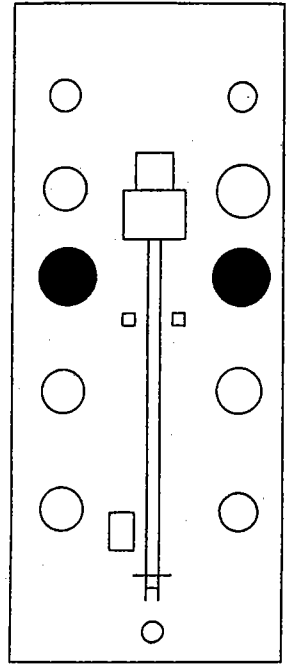
ヒサカキ
(常緑広葉樹-つばき科)



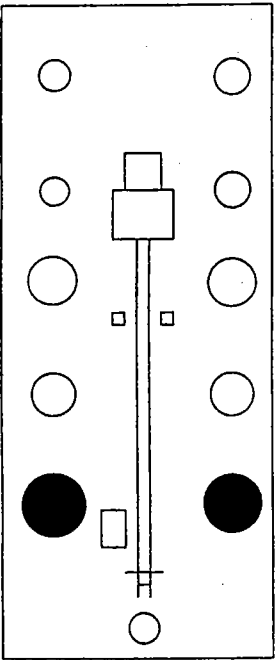
サカキ
(常緑広葉樹-つばき科)



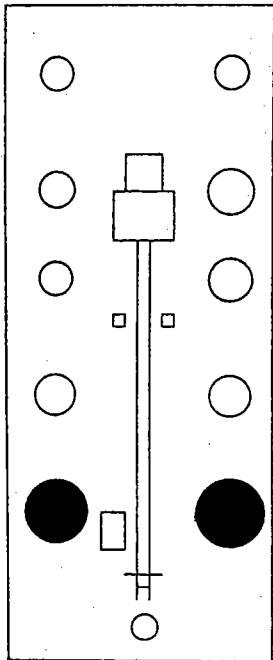
クロマツ
(常緑針葉樹-まつ科)



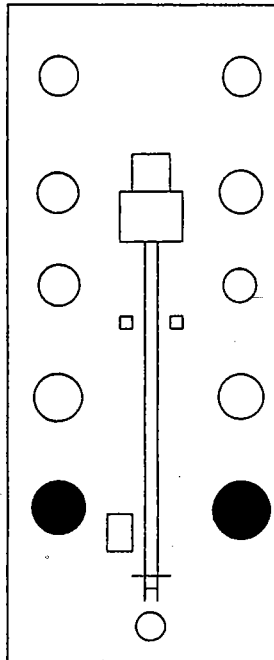
ウメ
(落葉広葉樹-ばら科)



イチョウ
(落葉広葉樹-いちよう科)



サクラ
(落葉広葉樹-ばら科)



ケヤキ
(落葉広葉樹-にれ科)

図11 境内における樹木の配置

4. 主な神社の境内における樹木配置について

(1) 御嶽神社（青梅市新町）

【神社の由来】

創建は元和2年9月29日（1616年）新町開拓の折、始祖吉野織部之助が新町村開拓の完成と同時に、大和國金峰山権現を勧請し、御嶽大権現と称して村内鎮守として祀った。維新の際御嶽神社と改称した。

【境内の樹木の特徴】

境内の西側に道路が走っているが、かつて、御輿蔵の横付近にスギの大木（DBH70-80cm）が3本生育していたが、伊勢湾台風で折れた。御神木的な役割をもっていた。現在の狛犬の両側に、以前サカキが一对植えられていた。これを東側に移植した。参道沿いのシダレザクラは樹齢40-50年になるが、西側の道路沿いにあったものを、移植したものである。その東側のシラカシは実生から育てたもので、かなり古い。このように、1本1本歴史をもって存在している。

（図の説明、図-12）

境内の樹木配置図の記号と植物名の説明
























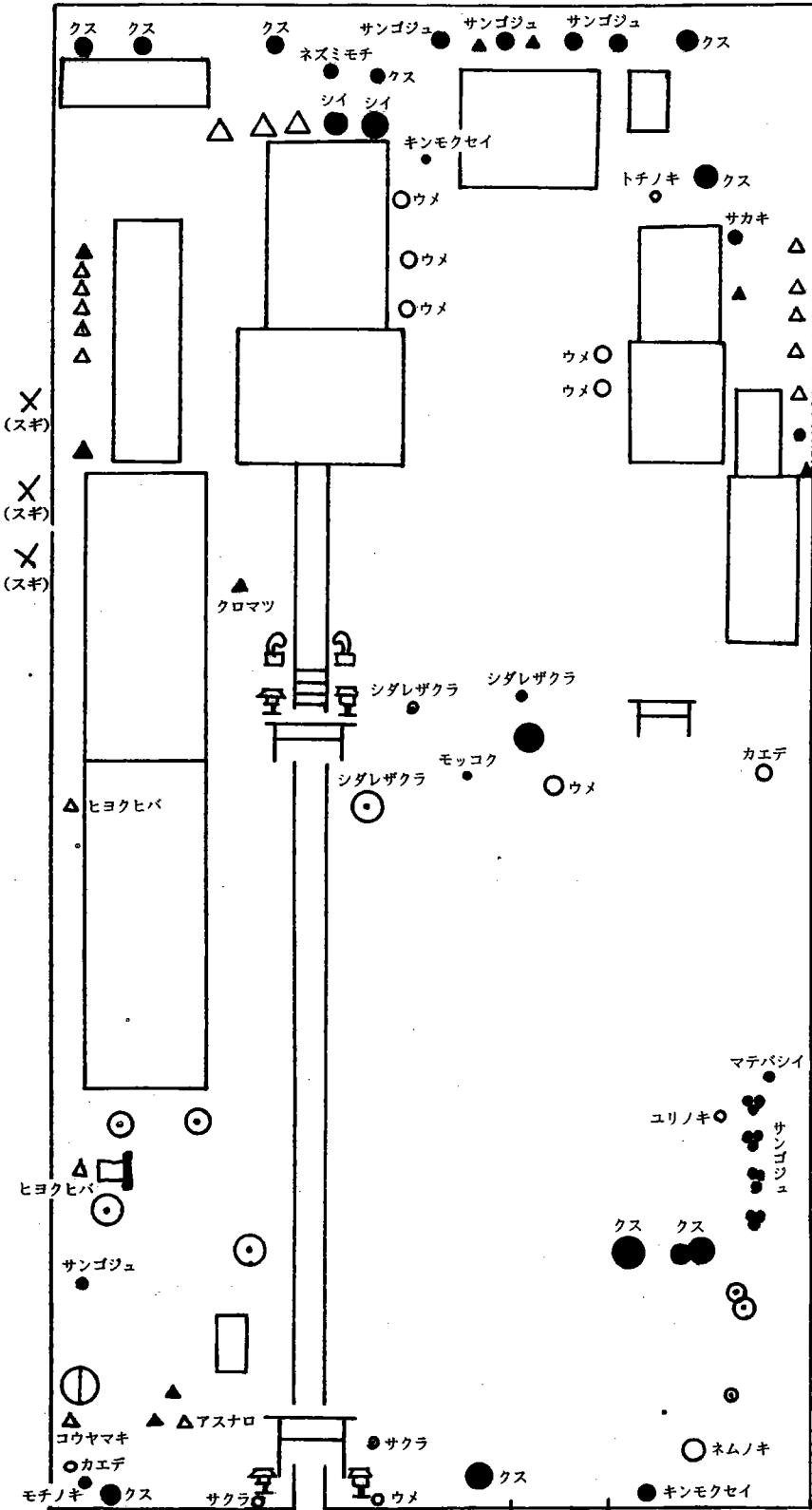
	無記名-シラカシ		無記名-スギ
	シイ スダジイ		無記名-ヒノキ
	ヒサ ヒサカキ		アカマツ
	クス クスノキ		クロマツ
	マテ マテバシイ		ヒマラヤスギ
	無記名-ケヤキ		ヒマ
	イチョウ		枯株
	サクラ		狛犬
	ヤマザクラ		灯笼
	シダレザクラ		手水舎
	ムクノキ		
	エゴノキ		

図-12



種名	現存数
ヒノキ	13
クスノキ	11
サクラ	9
ウメ	8
サンゴジュ	8
スギ	6
シダレザクラ	3
キンモクセイ	2
シラカシ	2
スダジイ	2
アスナロ	1
イチョウ	1
イロハカエデ	1
クロマツ	1
コウヤマキ	1
サカキ	1
トチノキ	1
ネズミモチ	1
ネムノキ	1
ヒバ	1
マテバシイ	1
モチノキ	1
モッコク	1
ユリノキ	1
24種類	78

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ △
60cm	○ △
80cm	○ △
100cm	○ △

(2) 松本神社（羽村市羽西）

【神社の由来】

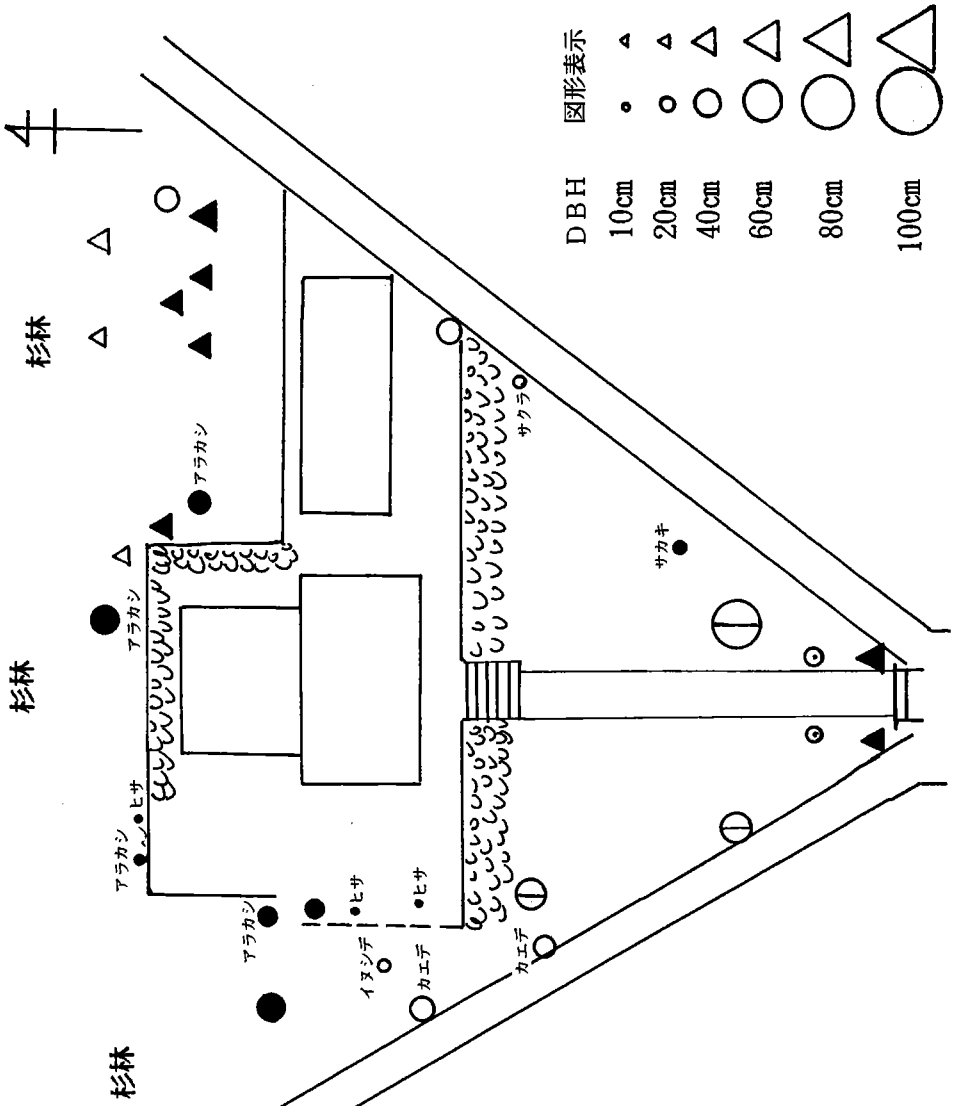
鎌倉時代の建久年間（1190－1199年）に伊豆下田より移住した人の子孫が山城国紀伊郡の稲荷社（現在の京都の伏見稲荷）から分社して創建したものと伝えられている。江戸時代には、稲荷社と呼ばれていたが、明治2年（1869年）社号を松本神社と改称した。

【境内の樹木の特徴】

多摩川の段丘崖斜面上に位置している神社である。鳥居からの参道は平坦であるが、階段が取り付けられ、高くなった部分に拝殿・神殿（本殿）がある。斜面を崩して平らにして建てられている。後方は急な斜面になっていて、スギ林が密生した群落をつくっている。建物はアラカシ、シラカシ、スギで囲まれ、落ち着いた雰囲気を持っている。ほぼ三角形の境内の南端にイチョウの大木が2本ある。

（図－13）

図-13



種名	現存数
スギ	多
アラクシ	4
ヒサカキ	3
ヒノキ	3
イチョウ	3
サクラ	3
シラカシ	3
ケヤキ	2
イロハカエデ	2
イヌシデ	1
10種類	24

(3) 狭山神社（瑞穂町箱根ヶ崎）

【神社の由来】

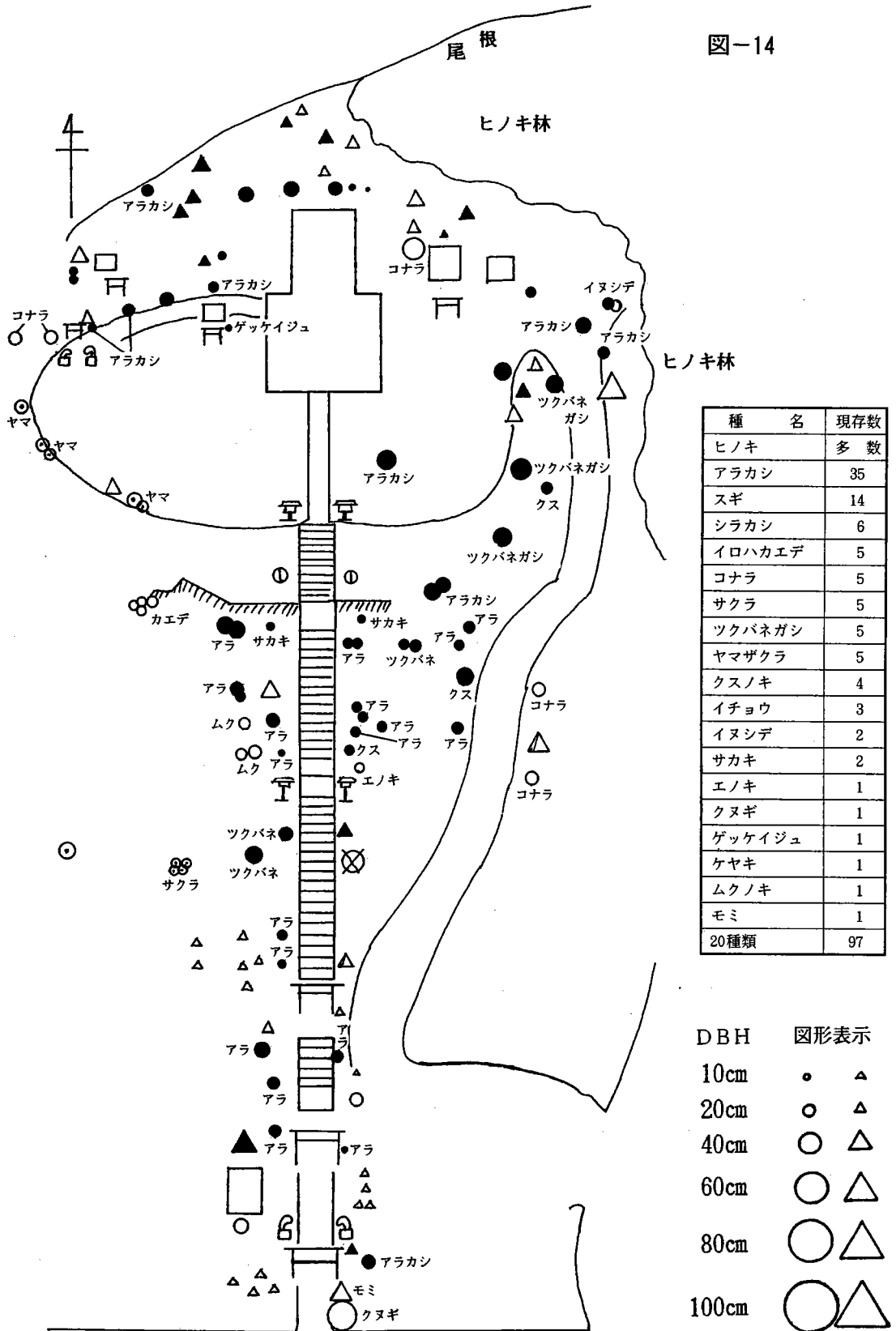
創建年代不詳。箱根大神は永承年間（1046－1053年）源義家の奥州征伐の折、狭山池辺りに陣営し、箱根権現の霊夢に感じ、当地に勧請、凱旋の時に奉斎したと言われている。

【境内の樹木の特徴】

狭山丘陵の西端に位置して、丘陵の尾根部近くに拝殿・神殿（本殿）がある。旧16号線から急な階段を上りようやく平坦な広場に到着する。建物の周囲はシラカシ、アラカシ、クスノキ、ツクバネガシ、スギ、ヒノキなどの常緑樹で密に囲まれていて、昼でも暗い。右手前にはアラカシの御神木が見られる。西側はヤマザクラやコナラなどの落葉樹が散生していてやや明るい。参道の階段の両側には常緑樹が多い。入り口の鳥居の右側には、モミとクヌギの大木があり参詣に訪れる人たちを迎えてくれる。

（図－14）

図-14



種 名	現存数
ヒノキ	多 数
アラカシ	35
スギ	14
シラカシ	6
イロハカエデ	5
コナラ	5
サクラ	5
ツクバネガシ	5
ヤマザクラ	5
クスノキ	4
イチョウ	3
イヌシデ	2
サカキ	2
エノキ	1
クヌギ	1
ゲッケイジュ	1
ケヤキ	1
ムクノキ	1
モミ	1
20種類	97

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	◯ ▲
60cm	○ ◻
80cm	○ ▲
100cm	◯ ▲

(4) 福生神明社 (福生市福生)

【神社の由来】

明治7年(1874年)に加美の金比羅神社、神明社、天神社、永田の関上明神、長沢の神明社、茅戸の熊野権現、中福生の神明宮、原ヶ谷戸の稲荷様が神寄せにより、合祀され、福生神明社として村社格を与えられたものである。戦前改修される前の神明社は西向きで、道路との境にはこんこんと湧き出る清水が流れ、村人はこれを堂川と呼んでいた。ただし、昭和37年の排水工事の時に水脈がたたれたという。

【境内の樹木の特徴】

ウメの多い神社である。神木も拝殿右手前の狛犬のそばの緋紅梅とされている。

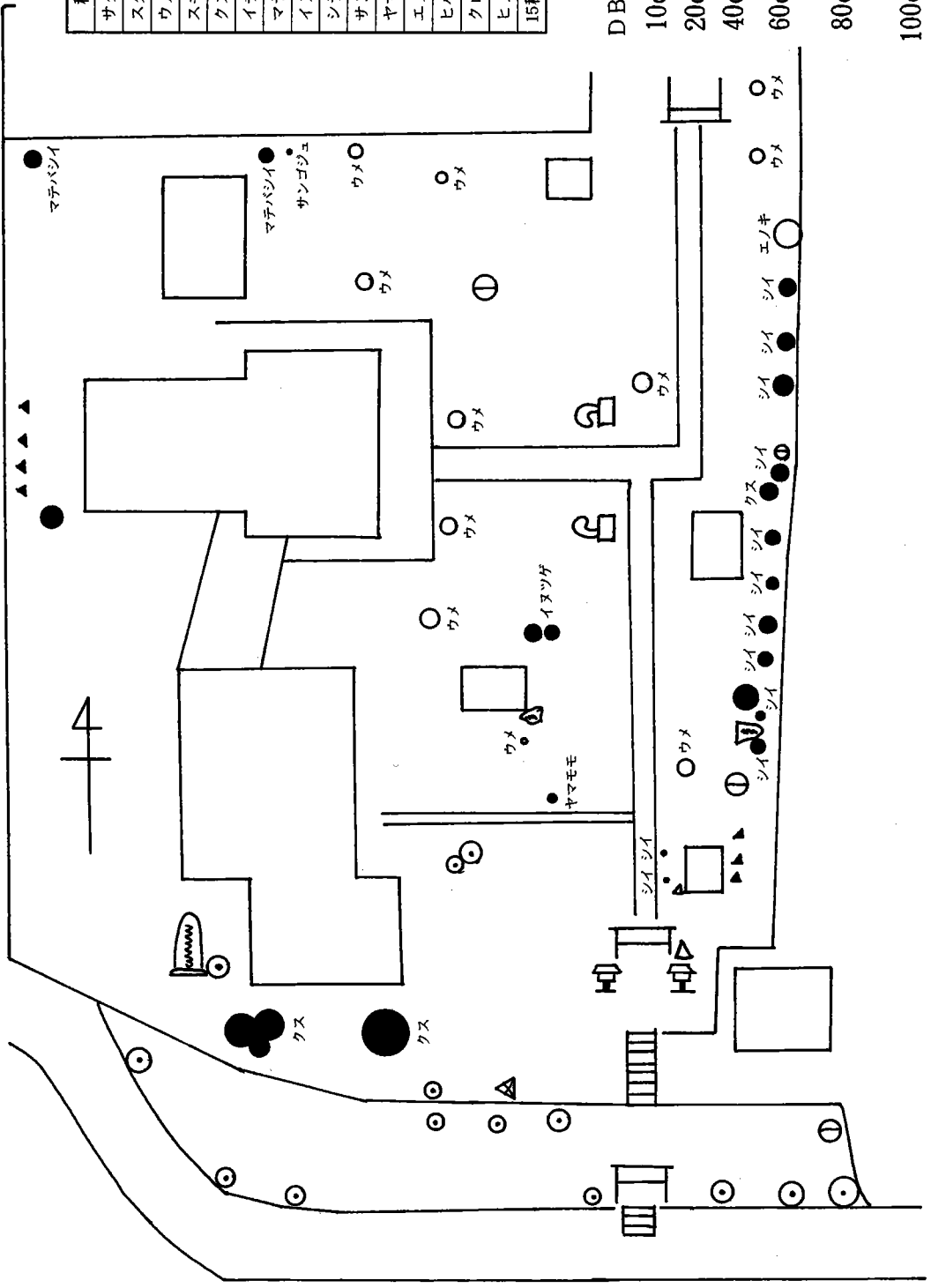
(図-15)

図-15

種名	頭存数
サクラ	14
スダジイ	12
ウメ	10
スギ	6
クスノキ	4
イチョウ	4
マテバシイ	2
イヌツゲ	2
シラカシ	1
サンゴジュ	1
ヤマモモ	1
エノキ	1
ヒバ	1
クロマツ	1
ヒノキ	1
15種類	61

図形表示

- DBH
- 10cm ○
 - 20cm △
 - 40cm ○
 - 60cm ○
 - 80cm ○
 - 100cm ○



(5) 神明社（武蔵村山市中藤）

【神社の由来】

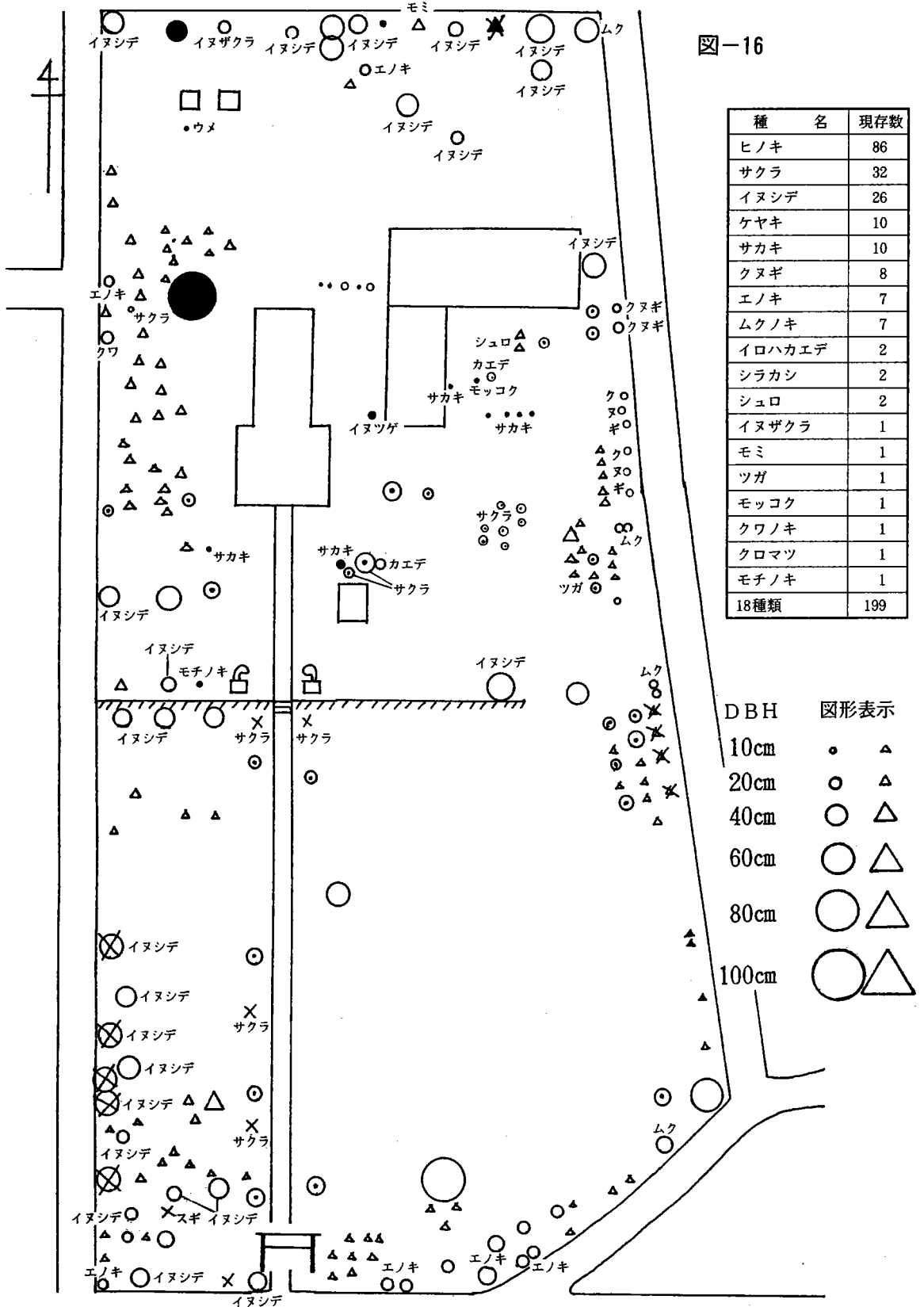
お宮ができたのは、いまから230年ほど昔の江戸時代中頃のこと。そのころこのあたりは中藤字御伊勢地と呼ばれ、広い神社の中に樹齢百年以上もたっているといわれる杉の木があって、昼でも暗く、うっそうとして神様のお住まいをお守りするようで、「お伊勢の森」あるいは、「お伊勢様」として親しまれていた。

【境内の樹木の特徴】

大木が目立つ神社である。神木としてのシラカシ、落雷で傷ついてはいるが今なお元気なケヤキ、参道沿いの桜並木、境内の南西部と北東部に広がるイヌシデの大木群が見られる。一部伐採されていたり、新青梅街道沿いという悪環境下にあるが、全体に良好な状態に維持されている。

(図-16)

図-16



(6) 阿豆佐味天神社（立川市西砂町）

【神社の由来】

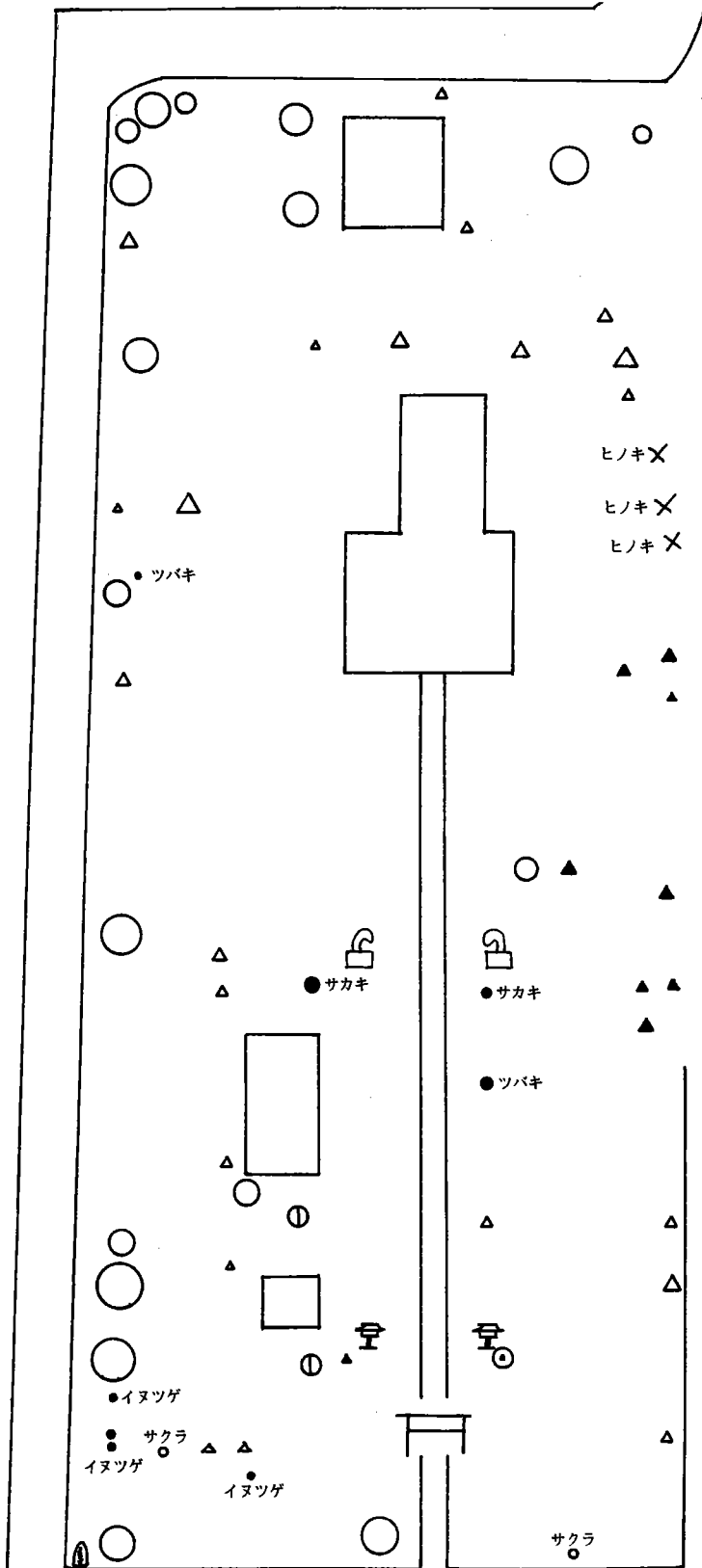
殿ヶ谷新田は殿ヶ谷村（瑞穂町）の人々によって開発された。開発に当たった人々は殿ヶ谷村の阿豆佐味天神社を勧請して、氏神様とした。

【境内の樹木の特徴】

ケヤキとヒノキでその大部分を占める。とくにケヤキの大木が目立つ。この辺りはまだスギの生育も良好である。

（図-17）

図-17



種名	現存数
ヒノキ	22
ケヤキ	17
スギ	9
サクラ	4
イヌツゲ	4
サカキ	2
イチヨウ	2
ヤブツバキ	1
8種類	61

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(7) 諏訪神社（昭島市宮沢町）

【神社の由来】

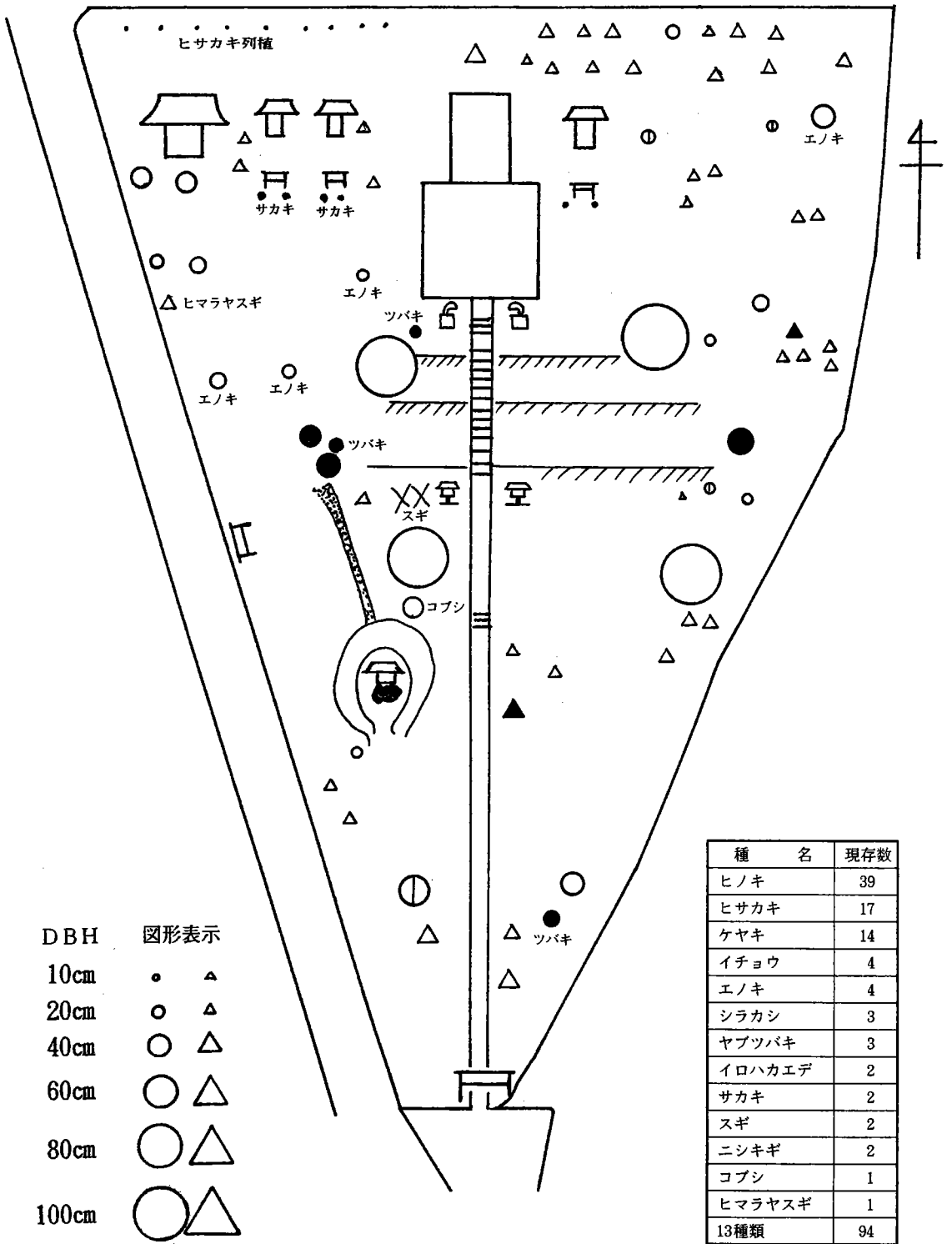
旧宮沢村の鎮守、平安時代の創建。

【境内の樹木の特徴】

多摩川段丘崖斜面上に位置している。境内には湧水もあり、その場所には境内社として巖島神社が祀られている。ケヤキの巨木が4本対をなして植えられている、見事な風景である。

（図-18）

図-18



(8) 玉湖神社（東大和市多摩湖）

【神社の由来】

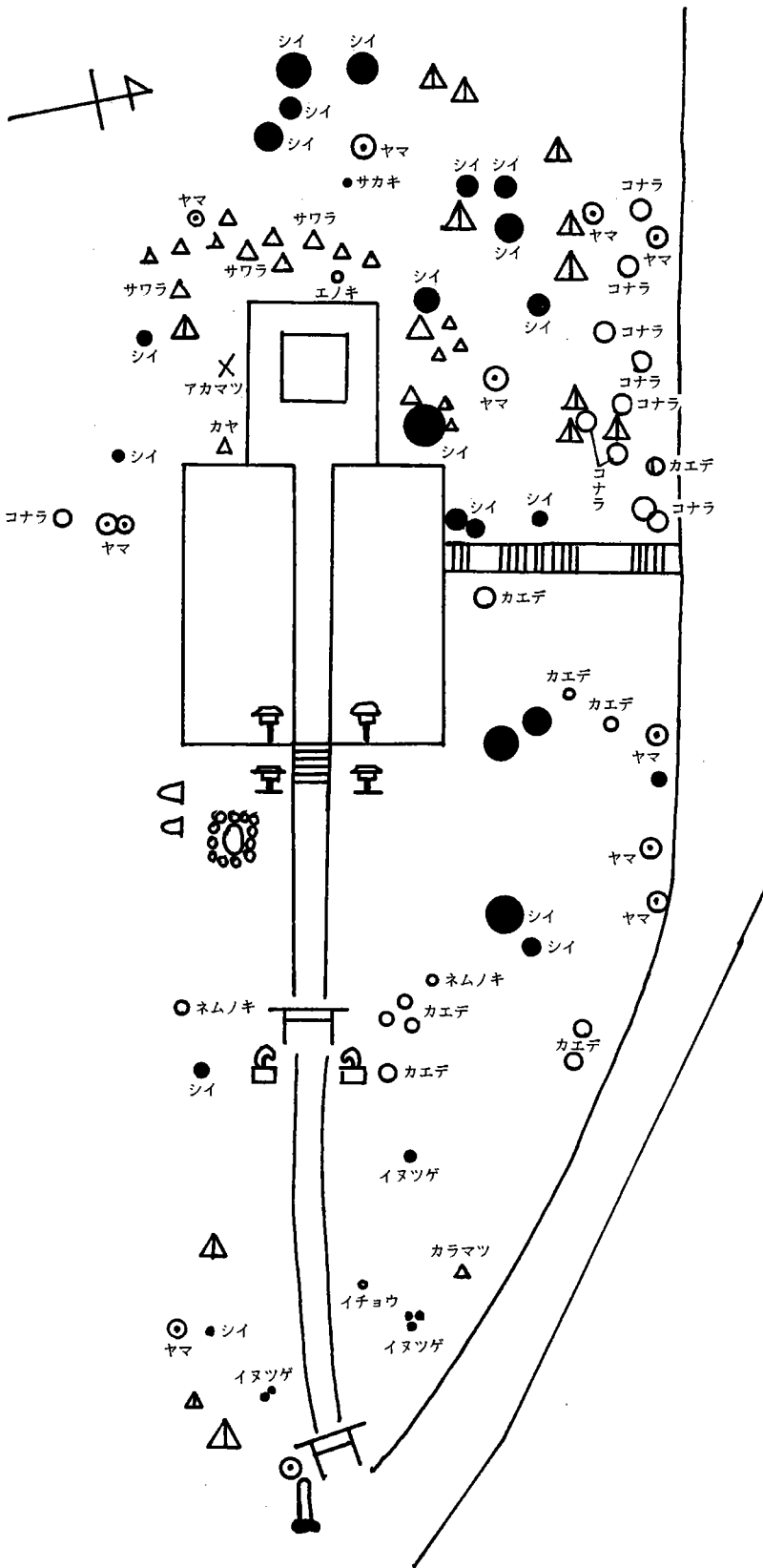
不明

【境内の樹木の特徴】

狭山丘陵の尾根部に位置している。北側を道路が走っている。周辺はコナラ、アカマツなどの雑木林になっている。境内地はその範囲が明確ではないが拝殿・神殿（本殿）と参道沿いに限って調査した。建物の西側と北側はスダジイ、ヒノキが2重に植えられている。その外側にコナラ、アカマツが残されている。鳥居側にむかってはカエデやサクラが多い。

(図-19)

図-19



種名	現存数
スダジイ	22
ヒノキ	15
アカマツ	13
ヤマザクラ	11
コナラ	10
イロハカエデ	10
イヌツゲ	3
ネムノキ	2
サワラ	2
サカキ	1
カラマツ	1
サクラ	1
シラカシ	1
カヤ	1
イチョウ	1
エノキ	1
16種類	95

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(9) 秋津神社（東村山市秋津）

【神社の由来】

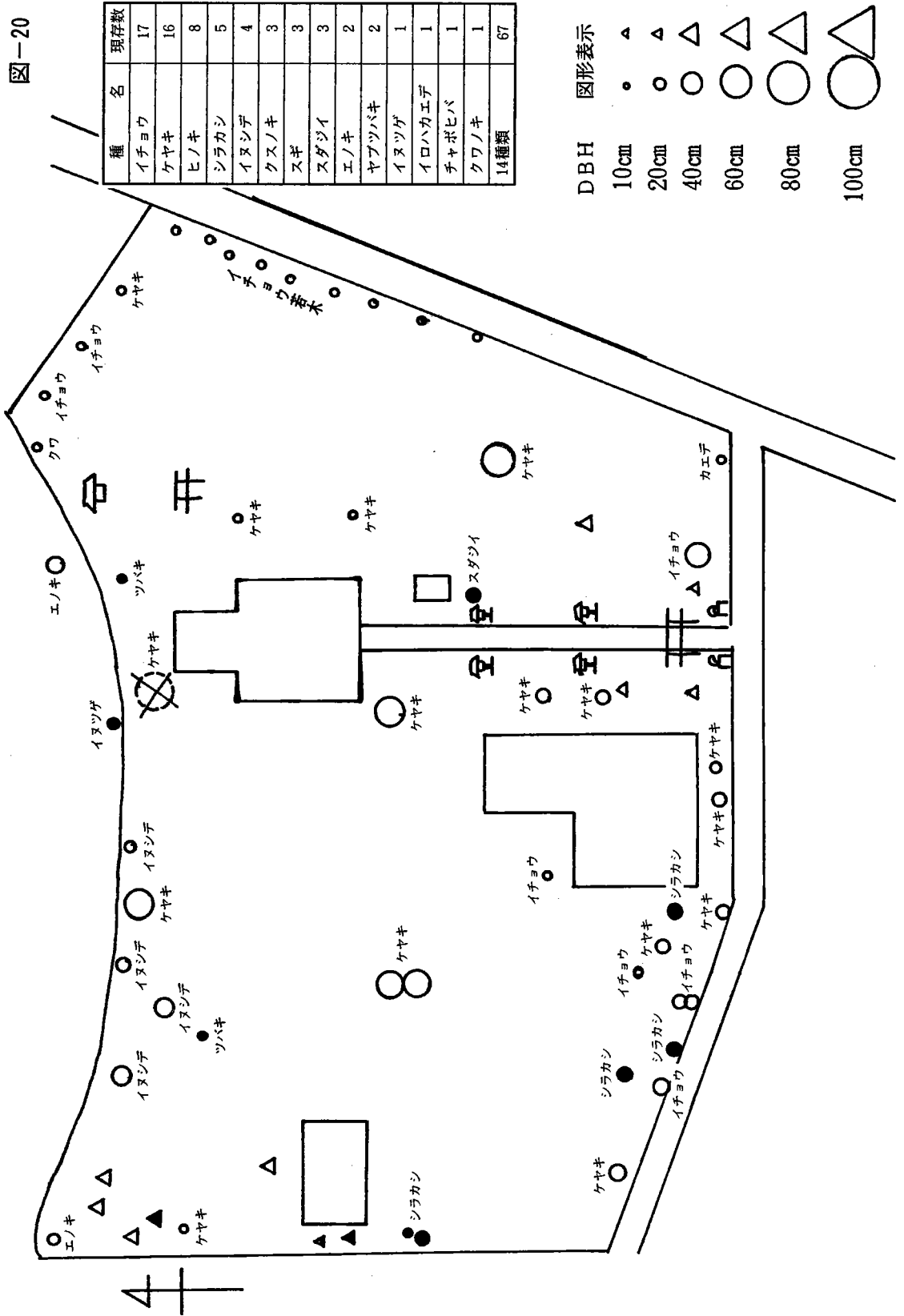
秋津の不動様として、古くから近郷近在の人たちの信仰をあつめて、崇敬されている。創立由緒は明らかではないが、本殿本尊の不道明王像（石像舟形・高さ56cm）の銘に元禄12年(1699年)安松（所沢市）長源寺の僧実応が像を寄進とあり、そのころすでに鎮座していたと思われる。明治以降は日本武尊を祭神とする。この辺りは、新田地で、隣地の安松の人たちもここを開拓し、居住した。

【境内の樹木の特徴】

境内は平坦になっているが、建物の後方は急な崖（柳瀬川の段丘崖）になっていて斜面林が発達している。境内にはケヤキが多く、16本生育している。大木も5本ある。その他、鳥居そばのイチョウ、建物の西側のイヌシデの高木群などが特徴的である。

(図-20)

図-20



(10) 山王稲穂神社（小金井市本町）

【神社の由来】

承応3年（1654年）五百石の開墾にあたり、新田の守護神として江戸麹町山王宮より勧請、創建した。爾来山王権現と称し、下小金井の産土神として崇敬される。維新の際、社名を稲穂神社と改称した。

【境内の樹木の特徴】

境内に生育する樹木が25種類と豊富である。拝殿・神殿（本殿）の後方には若い杉林がつくられている。右側にはクヌギ林が、左側にはクスノキ、マテバシイなどの常緑樹が植えられ、暗くしている。なんと言っても珍しいのはウバメガシが神木であることである。これに関して1997年5月17日の朝日新聞に次のような内容の記事が載っていた。（阪神大震災で猛火を浴びた神戸市の公園の樹木が、驚異的な生命力で樹勢を回復、新緑に輝いている。社団法人・国土緑化推進機構が樹木医に依頼して行った「被災樹木のカルテづくり」で大半の被害樹が移植に耐えると診断された。特に火災に対する抵抗性は、ウバメガシ、カナリーヤシが強く、クスノキ、ケヤキ、イチョウが中程度、ナンキンハゼ、サトザクラ、シラカシは低いと診断されたという。ただ、シラカシは常緑樹で火に強いとされているが、今回は燃えた建物のすぐそばにあり、痛みが激しかったという。稲穂神社ではウバメガシは建物の左手前に植えられその役割が想像できる。

（図-21）

(1) 鈴木稲荷神社（小平市鈴木町）

【神社の由来】

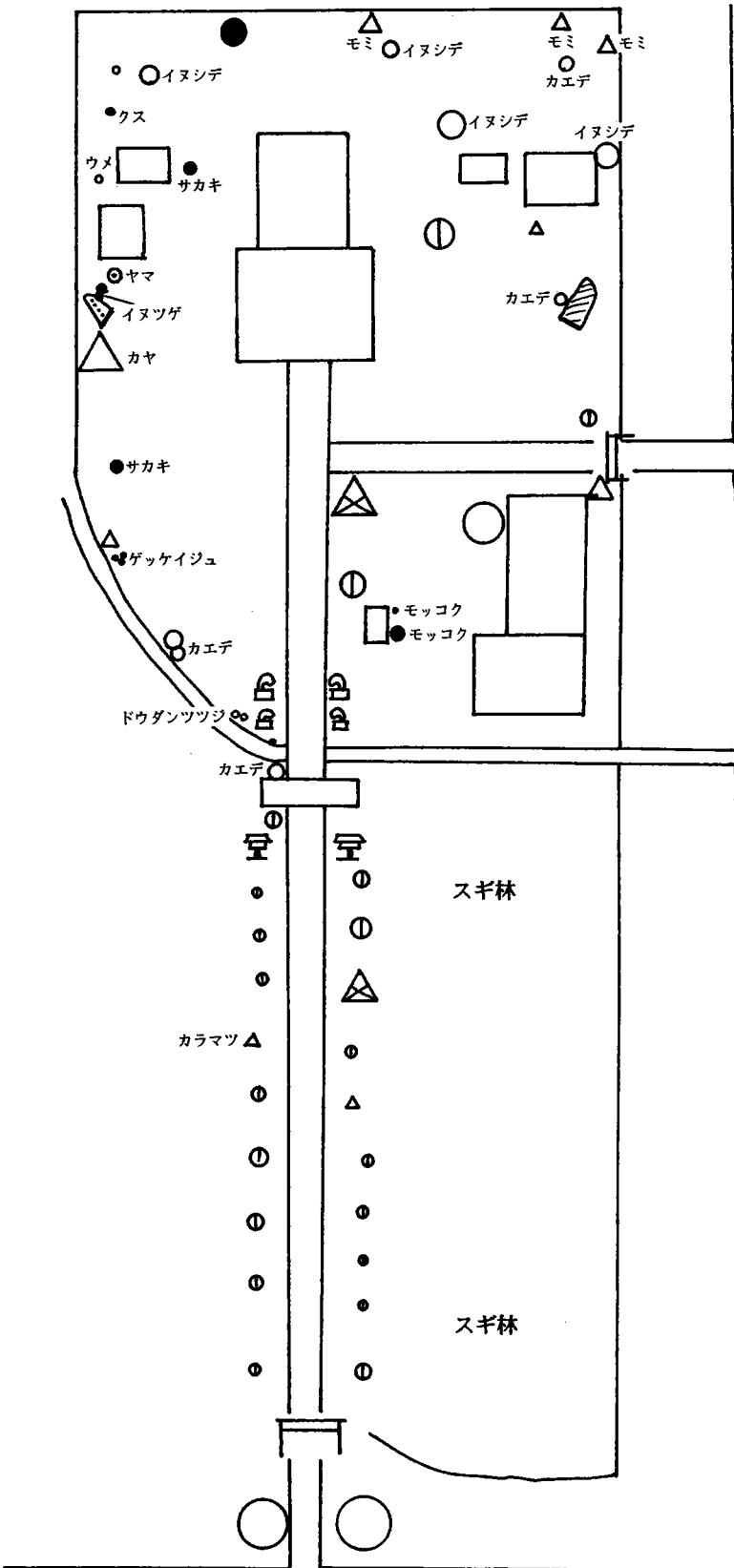
鈴木新田（武州多摩郡貫井村（現小金井市）の名主鈴木利左衛門の発願によって開発された新田）の開発許可は享保9年（1724年）で、開発地は貫井村願場と呼ばれ、割り渡された面積は2.96平方キロメートルであった。そこで、開発宰領人である利左衛門は、境内地として約25,000平方メートルを寄進して、本村の貫井村に鎮座していた稲荷神社を新田の鎮守として、勧請し、同年9月22日に遷祀奉斎した。

【境内の樹木の特徴】

東西に細長くのびた境内地である。拝殿・神殿（本殿）はカヤ、イヌシデ、モミ、シラカシ、イチョウなどの高木で囲まれている。御神木はクロマツ、玉川上水の分水が境内の中央部を南北に流れている。長い参道沿いにはイチョウが、鳥居のそばにはケヤキの巨木が2本対に植えられている。参道の北側には若い杉林が広がっている。

（図-22）

図-22



種名	現存数
イチョウ	20
イロハカエデ	5
イヌシデ	4
ヒノキ	4
モミ	3
ケヤキ	3
クロマツ	2
モッコク	2
ドウダンツツジ	2
サカキ	2
イヌツゲ	2
ゲッケイジュ	2
カヤ	1
ネズミモチ	1
クスノキ	1
ウメ	1
ヤマザクラ	1
カラマツ	1
シラカシ	1
19種類	58

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ △
60cm	○ △
80cm	○ △
100cm	○ △

(12) 本多八幡神社 (国分寺市本多)

【神社の由来】

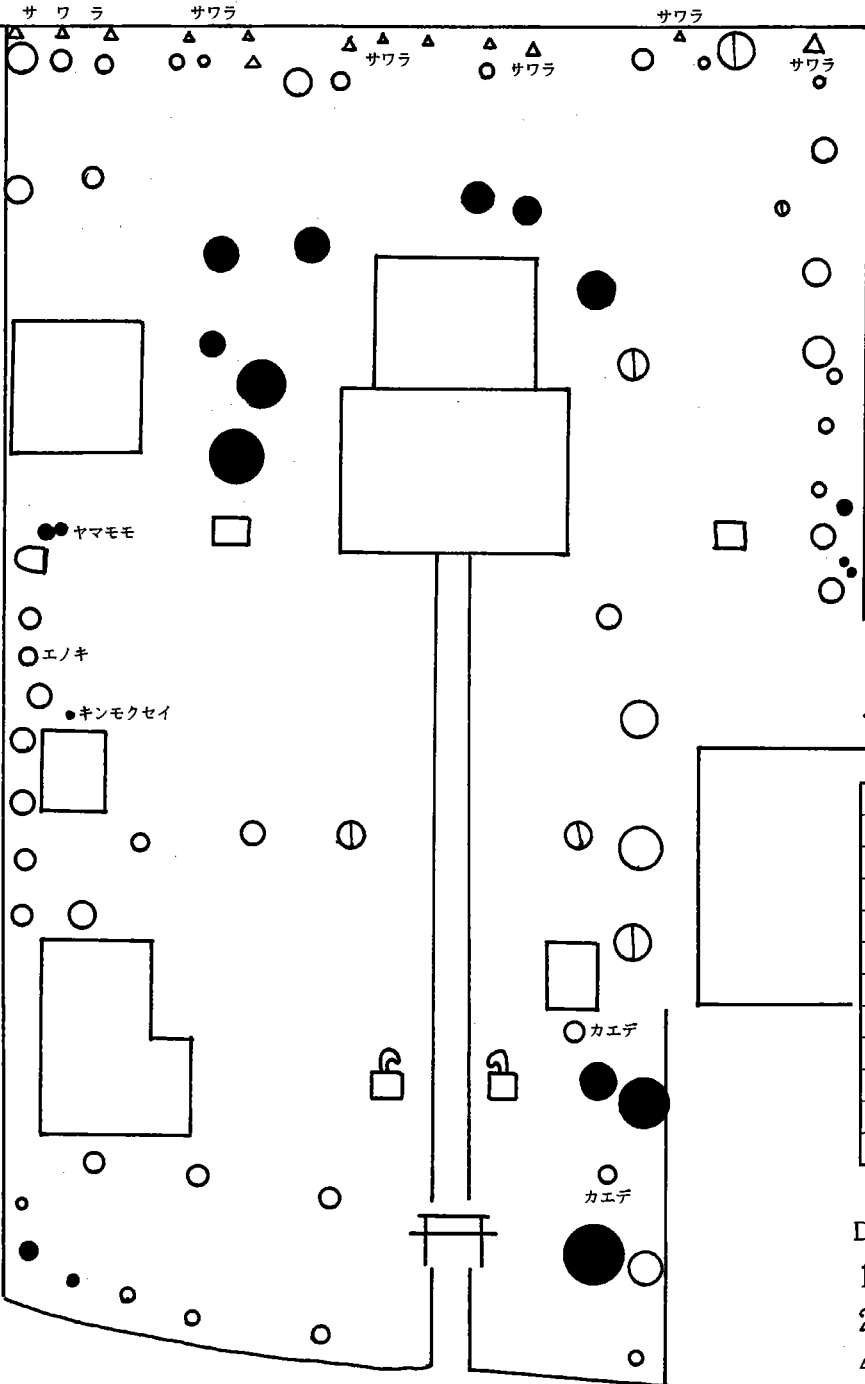
享保9年(1724年)本多新田が開発された時、この里の鎮守として同19年(1734年)石清水八幡宮より勧請し、翌元文元年9月15日に創建したと伝えられている。

【境内の樹木の特徴】

ケヤキが41本と大変多い。境内地の周辺に列状に植えられている。建物の近くにはシラカシの高木が8本3方を囲んでいる。鳥居付近にはシラカシの大木が1本、樹冠を広げている。

(図-23)

図-23



種名	現存数
ケヤキ	41
サワラ	13
シラカシ	13
イチョウ	6
イロハカエデ	2
サカキ	2
ヤマモモ	2
サザンカ	1
エノキ	1
キンモクセイ	1
10種類	82

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(13) 青柳稲荷神社（国立市青柳）

【神社の由来】

青柳と石田は、明治22年の谷保村との合村までは、それぞれ村として、独立していた。現在は「大字」として、その地名を残している。青柳はその昔、今日の府中本宿の多摩川南岸の青柳島にあった。寛文11年（1671年）の大洪水により青柳島は流失、現在地に移住し、青柳村を開拓した。石田も青柳と時を同じくして、今日の日野市石田から移住したものである。青柳稲荷神社は青柳、石田の鎮守である。

【境内の樹木の特徴】

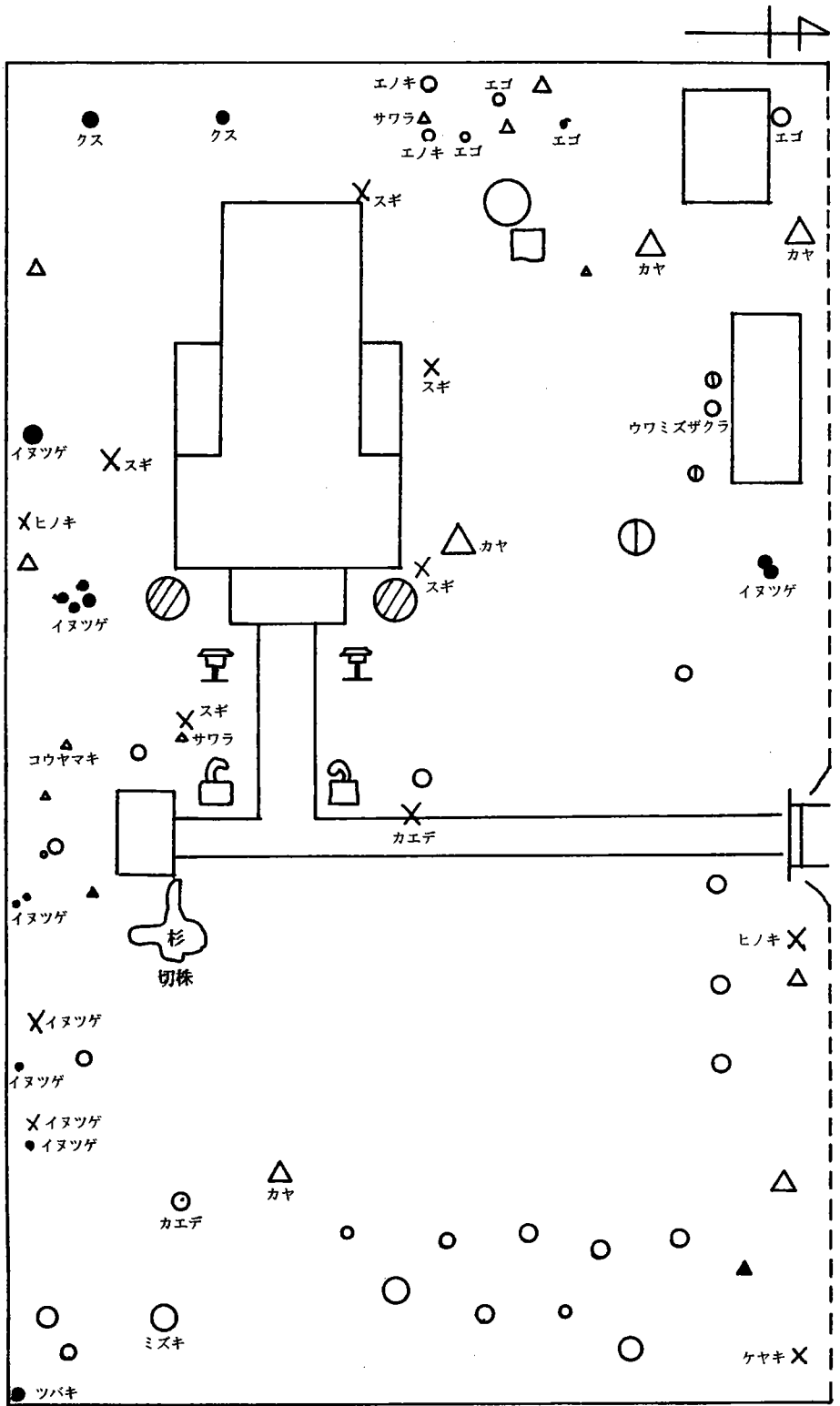
手水舎の東側にスギの大木があった。終戦後に枯れて、現在は枯株が残っている。神木的な役割をもっていた。狛犬の北側には大きなカエデがあった。ミミズクが巣を作るほどで、DBHは50cmくらいあったという。40数年前に枯れた。現在、境内ではケヤキ、イチョウ、カヤなどの大木が目立つ。東側のケヤキは樹齢20-30年の若い木である。

（図-24）

図-24

種名	現存数
ケヤキ	20
イヌツゲ	10
ヒノキ	8
エゴノキ	4
カヤ	4
エノキ	3
イチョウ	3
クスノキ	2
サワラ	2
イロハカエデ	1
ウワミズザクラ	1
コウヤマキ	1
ミズキ	1
ヤブツバキ	1
アラカシ	1
15種類	62

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ △
40cm	○ △
60cm	○ △
80cm	○ △
100cm	○ △



(14) 日枝神社（清瀬市中清戸）

【神社の由来】

天正7年（1579年）中島筑後守信尚が神社を造ってお祭りを始めたという記録がある。別の古い書物には、日本の国が大和朝廷によって、つくられていた1700年ほど昔の頃、日本武尊が、今の神社の場所にあったヒイラギの木の根元で休んでいたとき、「清き土なり」とおっしゃったので、この村を清土としたそうで、その後「清土」と村の名前が変わった。そのときのヒイラギは枯れてしまったが、その根株から新たな木が生えてきた。と書かれている。日本武尊がお祭りはじめたとも伝えられている。

【境内の樹木の特徴】

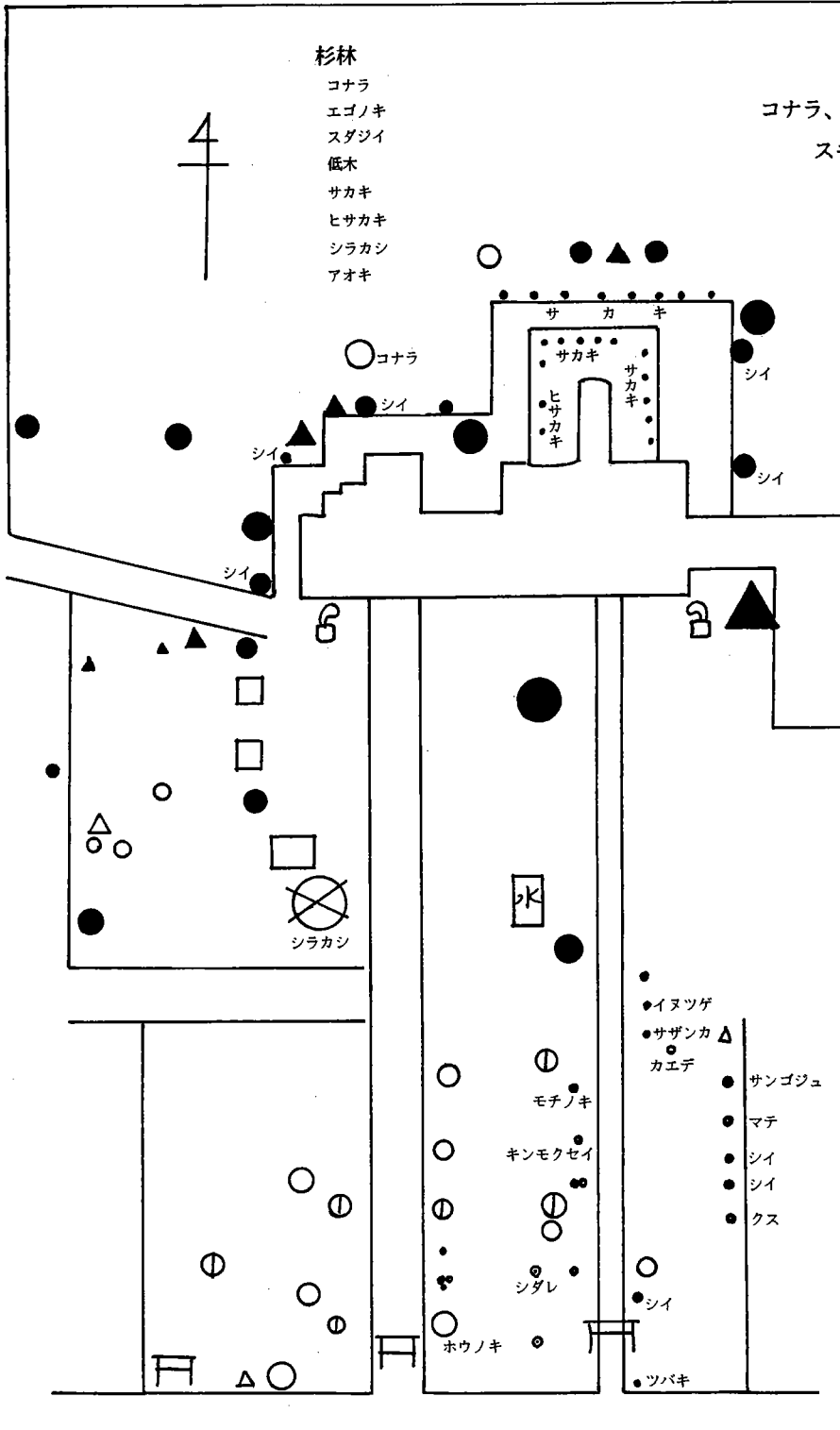
広い境内に樹木が多い。特に拝殿・神殿（本殿）の後方には大きな杉林が広がっている。建物のすぐ近くはシラカシ、サカキ、スダジイ、アラカシなどの常緑樹で囲まれている。

（図-25）

杉林

- コナラ
- エゴノキ
- スダジイ
- 低木
- サカキ
- ヒサカキ
- シラカシ
- アオキ

コナラ、イヌシデ林
スギ混生



種名	現存数
イヌシデ	
アラカシ	
イチョウ	
イヌツゲ	
イロハカエデ	
エゴノキ	
キンモクセイ	
クスノキ	
ケヤキ	
コナラ	
サカキ	
サクラ	
サンゴジュ	
シラカシ	
スギ	
スダジイ	
シダレザクラ	
ヒノキ	
マテバシイ	
メタセコイア	
モチノキ	
ヤブツバキ	
サザンカ	
ホウノキ	
24種類	

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(15) 子ノ神社（東久留米市小山）

【神社の由来】

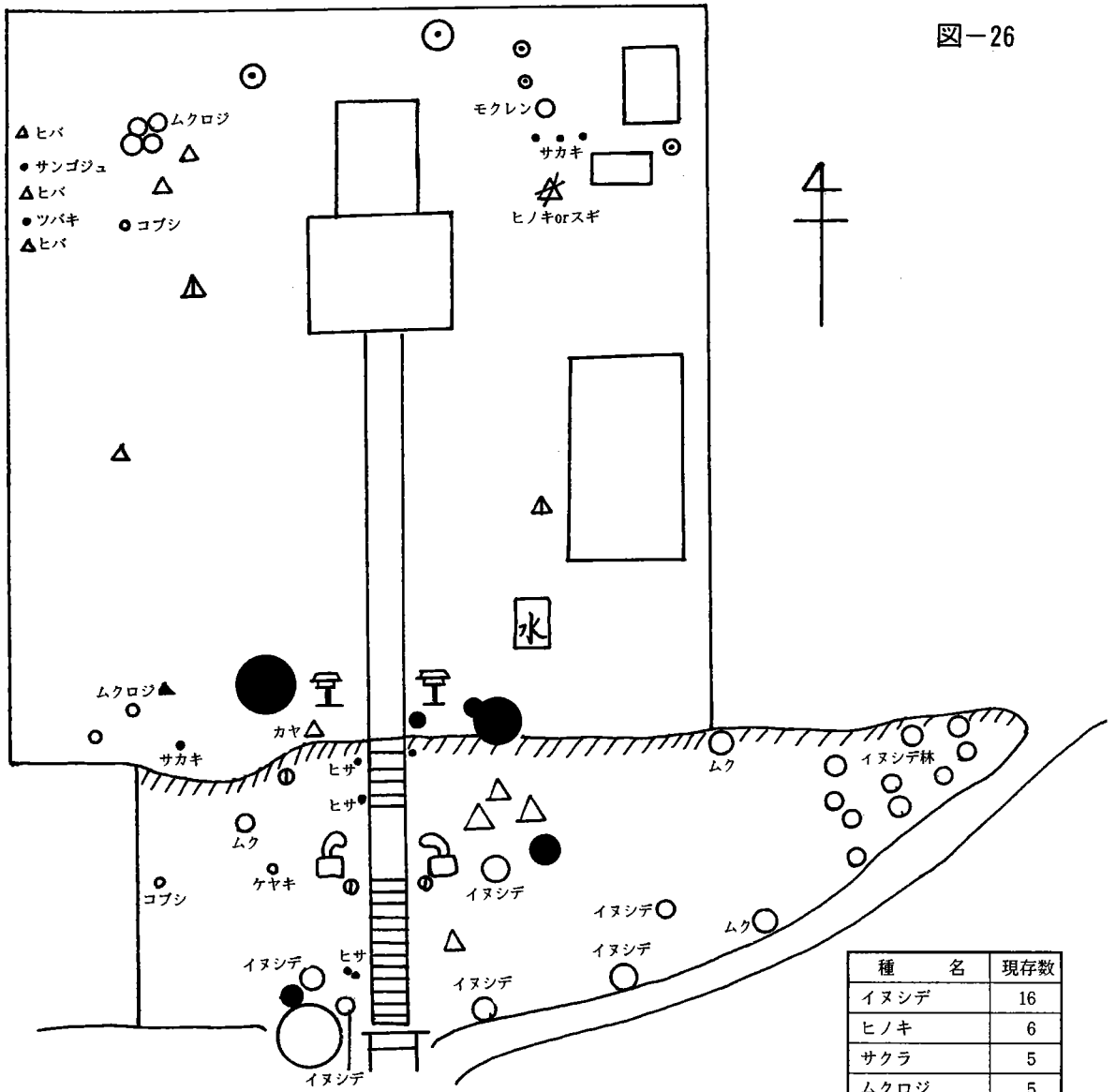
小山村の鎮守、文禄元年（1592年）8月、領主矢部藤九郎により本地仏は地蔵の勧請と伝えられている。社地には槻（ケヤキ）・杉雑樹など繁茂していたと言われる。神社名はもと「根神明神」と称したが、後世にいたり十二支の子を用い、「子ノ神社」と変更された。

【境内の樹木の特徴】

黒目川の段丘崖斜面とその上部の平坦地とに区分され、建物は平坦地に位置している。周辺は樹木が少なく、明るい。灯籠の付近はシラカシの大木が両方にあり、昔の境内の様子を知ることができる。斜面上にはイヌシデ林、ヒノキなどが広がり、鳥居のそばにはケヤキの巨木が1本偉容を誇っている。

（図-26）

図-26



DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

種名	現存数
イヌシデ	16
ヒノキ	6
サクラ	5
ムクロジ	5
シラカシ	4
ムクノキ	3
イチョウ	3
アカマツ	2
ケヤキ	2
コブシ	2
コウヨウザン	1
カヤ	1
モクレン	1
モッコク	1
スギ	1
サカキ	1
ヒサカキ	1
17種類	55

(16) 押立神社（府中市押立）

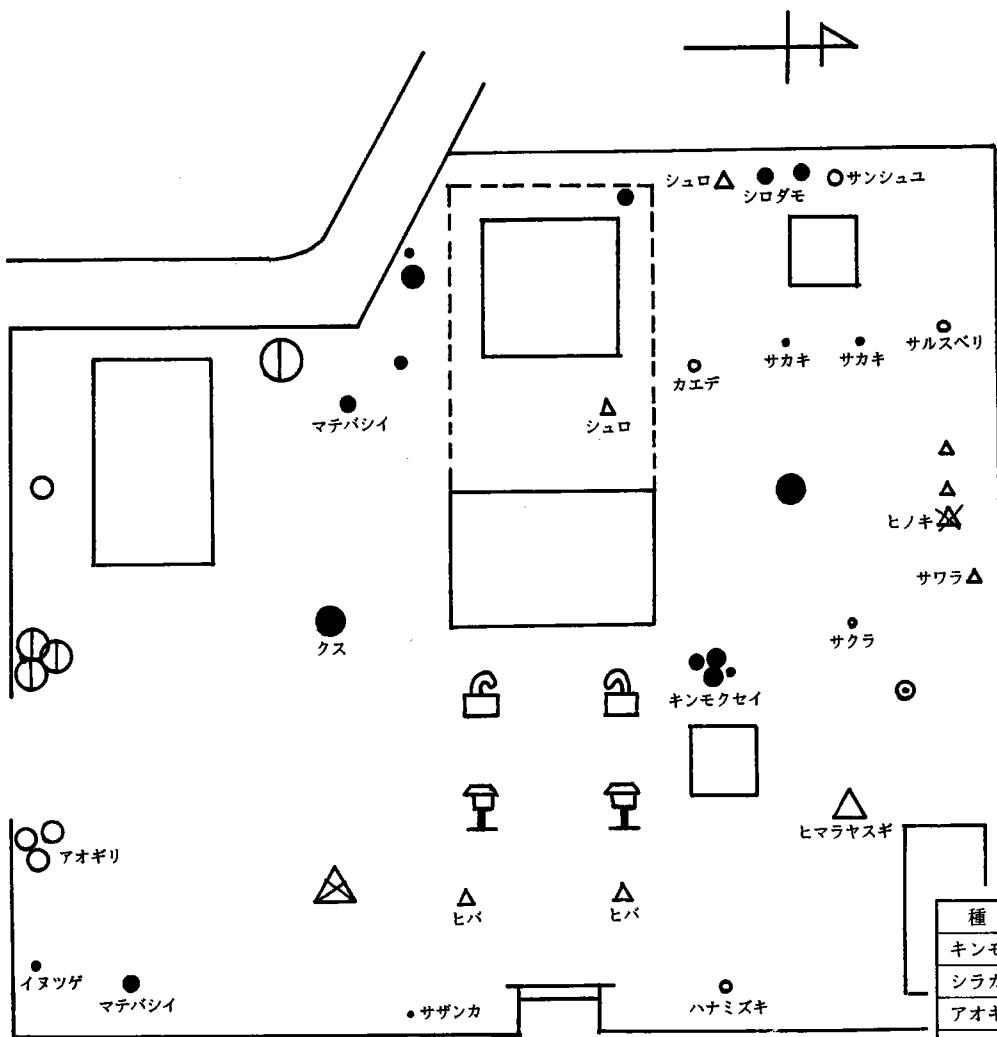
【神社の由来】

旧称手津久里稲荷、慶長年間に、山城国稲荷大神（現在の京都伏見稲荷大社）の分霊を鎮座したのが創建。現在の多摩川の辺に鎮座していたが、大洪水のため、現在の社地に遷座したという。明治14年に押立神社と改称した。

【境内の樹木の特徴】

拝殿前のクロマツが府中市の名木百選に選ばれている。南側のイチョウも府中の名木である。建物はマテバシイとシラカシで囲まれている。

（図-27）



種名	現存数
キンモクセイ	
シラカシ	5
アオギリ	5
イチョウ	3
サカキ	2
サクラ	2
シュロ	2
ヒノキ	2
ヒバ	2
マテバシイ	2
クロマツ	2
イヌツゲ	1
イロハカエデ	1
サルスベリ	1
クスノキ	1
サンシュユ	1
ケヤキ	1
サワラ	1
シロダモ	1
ハナミズキ	1
ヒマラヤスギ	1
21種類	

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(17) 天神社（保谷市北町）

【神社の由来】

前身は天正期（1573－1591年）のはじめと推定される創建の時代から、江戸時代終わりの慶応4年（1868年）まで、日蓮宗の法華神道にもとづく三十番神として、下保谷村の鎮守社に祀られていた。これが天神社に変わったのは、維新政府が明治元年（1868年）神仏分離令について発令した「法華三十番神禁止」による。

【境内の樹木の特徴】

樹種豊かで、特に東側に密度高く生育している。道沿いにイチョウが列状に植えられていたが、伐採された。拜殿・神殿（本殿）の後方にもイチョウがあったが伐採された。伐採後に、クスノキの低木を列状に植えた。後に同じような状況にならなければよいと思う。イチョウの神木は樹勢よく樹冠を広げている。シラカシの大木も勢いがよい。

（図－28）

種名	現存数
ヒノキ	32
ケヤキ	28
イチョウ	7
サクラ	7
イロハカエデ	6
シラカシ	5
キンモクセイ	4
ヒイラギモクセイ	3
モチノキ	3
イヌツゲ	2
サカキ	2
ムクノキ	2
モッコク	2
コブシ	2
ウメ	2
クロマツ	1
サザンカ	1
シュロ	1
ヒサカキ	1
ミズキ	1
ヤブツバキ	1
イヌザクラ	1
ソテツ	1
23種類	115

DBH 図形表示

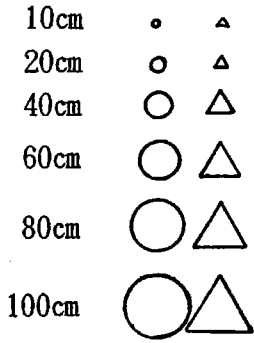
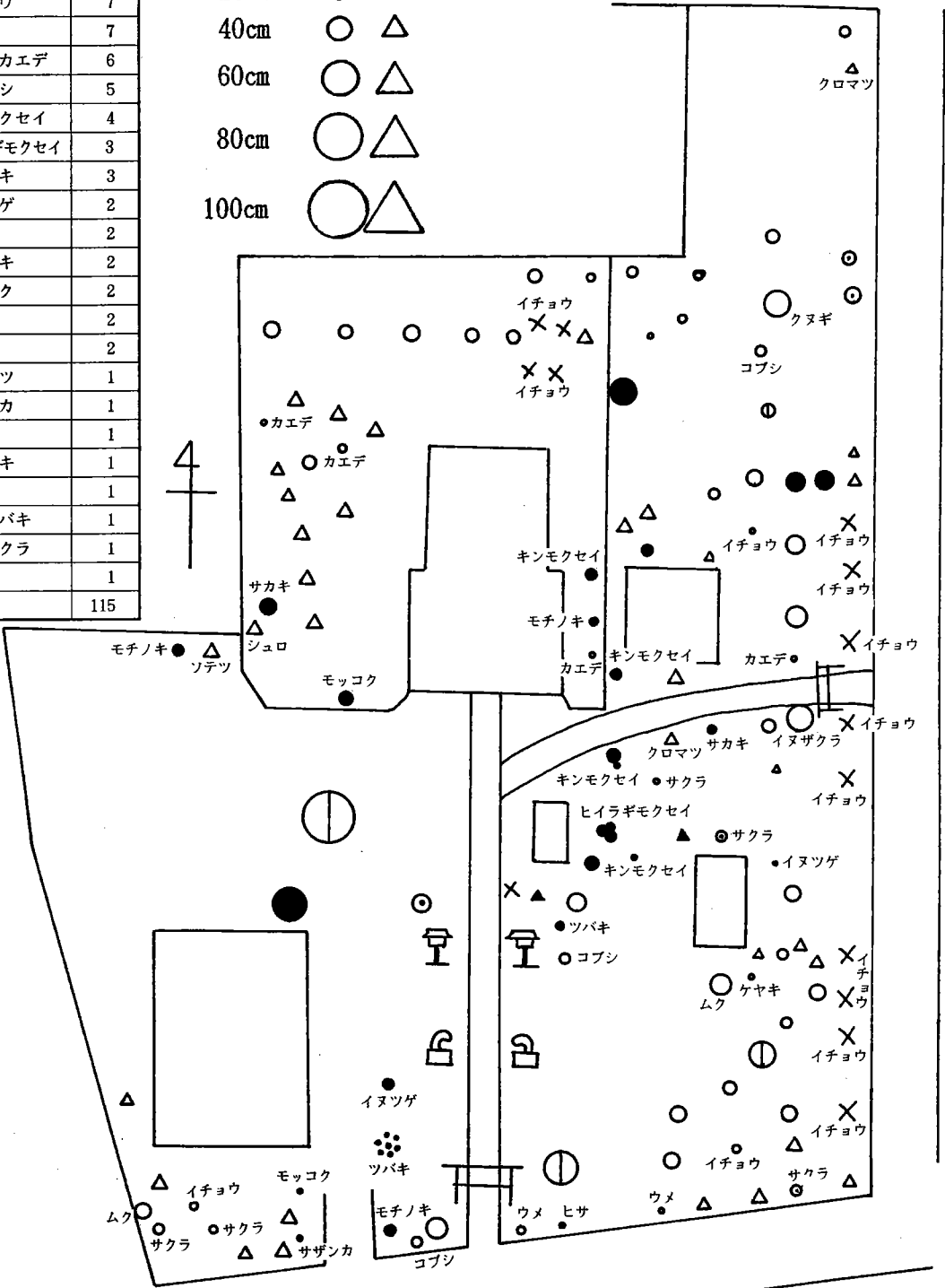


図-28



⑱ 田無神社（田無市本町）

【神社の由来】

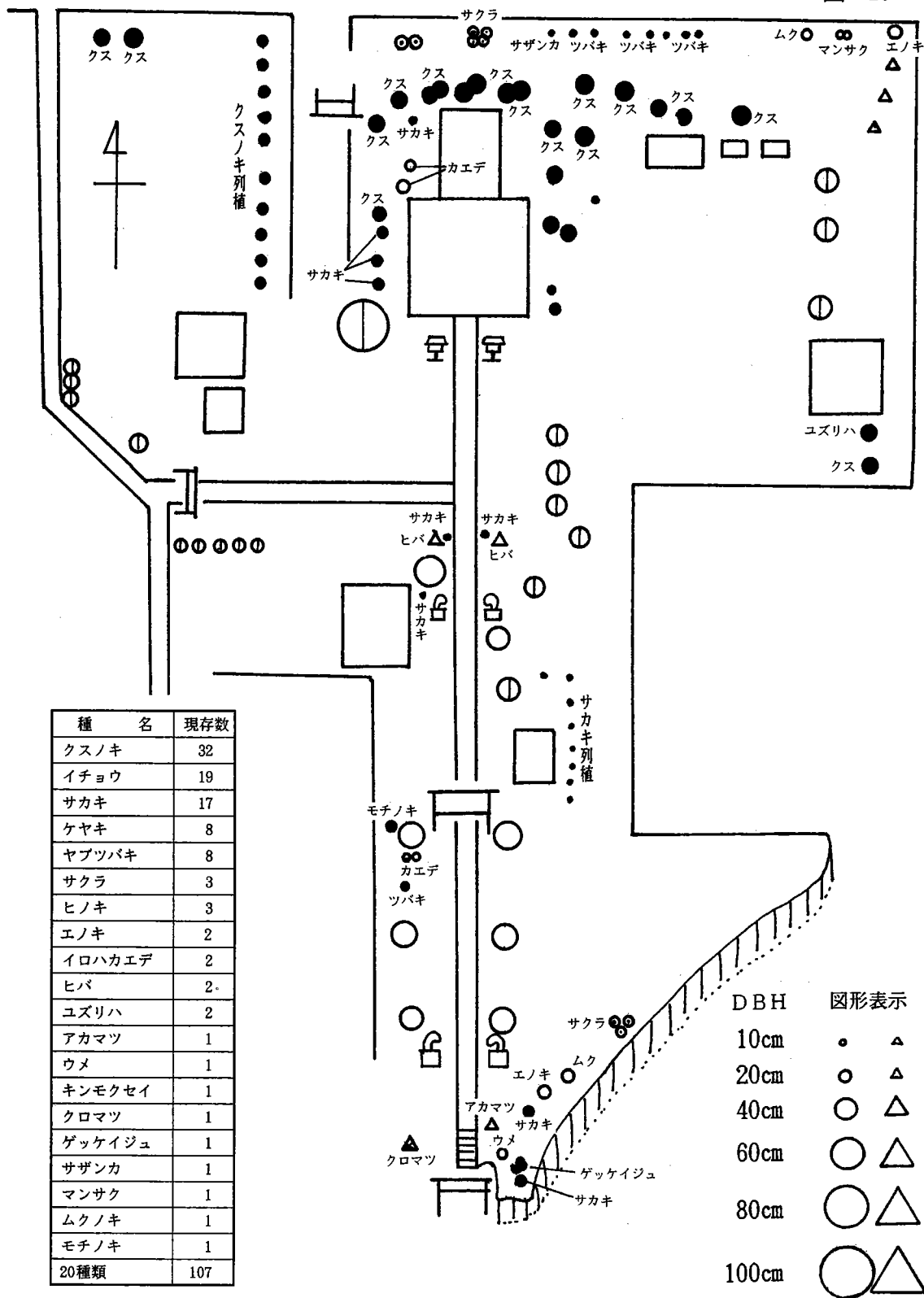
創立は不詳。本宮はすでに正応年間（鎌倉期、13世紀末）にそのころの村落の中心であった谷戸の宮山に鎮座し、尉殿権現社と呼ばれていた。寛文10年（1670年）現在の場所に遷座した。

【境内の樹木の特徴】

神木のイチョウは雄木で、天保年間（1830-1844年）にここに植栽されたという。拜殿・神殿（本殿）の後方には青梅街道が走り、けっして環境はよくないが建物の周囲はクスノキ、スダジイ、サカキ、ユズリハなどで厚く囲み、厳かな雰囲気をつくっている。参道沿いにはイチョウとケヤキの高木が並木を作り、心地よい参道になっている。

（図-29）

図-29



種名	現存数
クスノキ	32
イチョウ	19
サカキ	17
ケヤキ	8
ヤブツバキ	8
サクラ	3
ヒノキ	3
エノキ	2
イロハカエデ	2
ヒバ	2
ユズリハ	2
アカマツ	1
ウメ	1
キンモクセイ	1
クロマツ	1
ゲッケイジュ	1
サザンカ	1
マンサク	1
ムクノキ	1
モチノキ	1
20種類	107

DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

(19) 杵築神社（武蔵野市境南町）

【神社の由来】

今からおよそ350年前、徳川家光のころ、徳川家康の孫松平直政が武蔵境に4万坪の下屋敷をつくった。その屋敷地のなかに、杵築神社と稲荷社をつくった。

【境内の樹木の特徴】

樹種が27種類と豊かである。境内は平坦地に位置しているが、池あり、富士山ありと変化に富んでいる。参道沿いの千本イチョウも見事である。昔、相当樹齢のイチョウがあり、何らかの原因（落雷など）により、地上部は枯れた。（約150年前）その根際より生じたひこばえが成長して現在の主幹になったものと推定されている。さらに、境内にはケヤキ、コナラ、スダジイ、シラカシ、ムクノキなどの大木もある。また、この辺の神社には珍しいナギが1本見られる。

（図-30）

DBH 図形表示

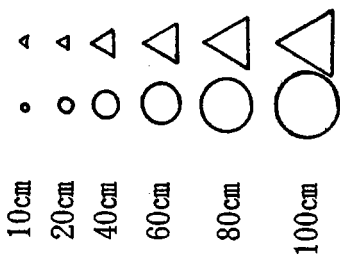
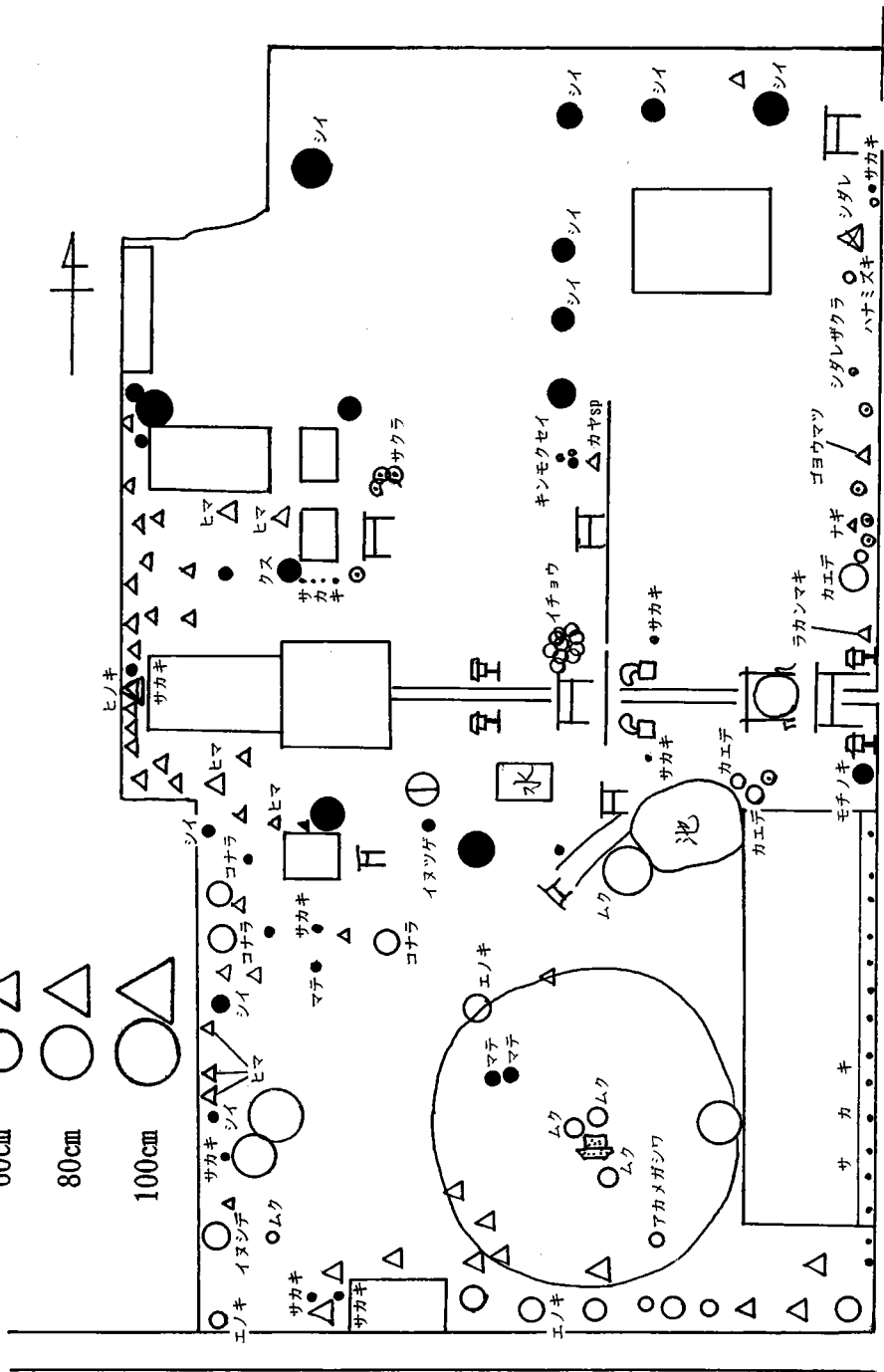


図-30



種名	現存数
ヒノキ	36
スダシイ	14
ケヤキ	7
ヒマラヤスギ	7
サクラ	6
サカキ	6
シラカシ	5
ムクノキ	5
イロハカエデ	3
マテバシイ	3
コナラ	3
エノキ	3
イチョウ	2
カヤ	2
シダレザクラ	2
ミズキ	1
イヌツゲ	1
ラカンマキ	1
クロマツ	1
スギ	1
モチノキ	1
イヌシデ	1
キンモクセイ	1
ゴヨウマツ	1
ハナミズキ	1
クスノキ	1
アカメガシワ	1
27種類	116

20 野崎八幡神社（三鷹市野崎）

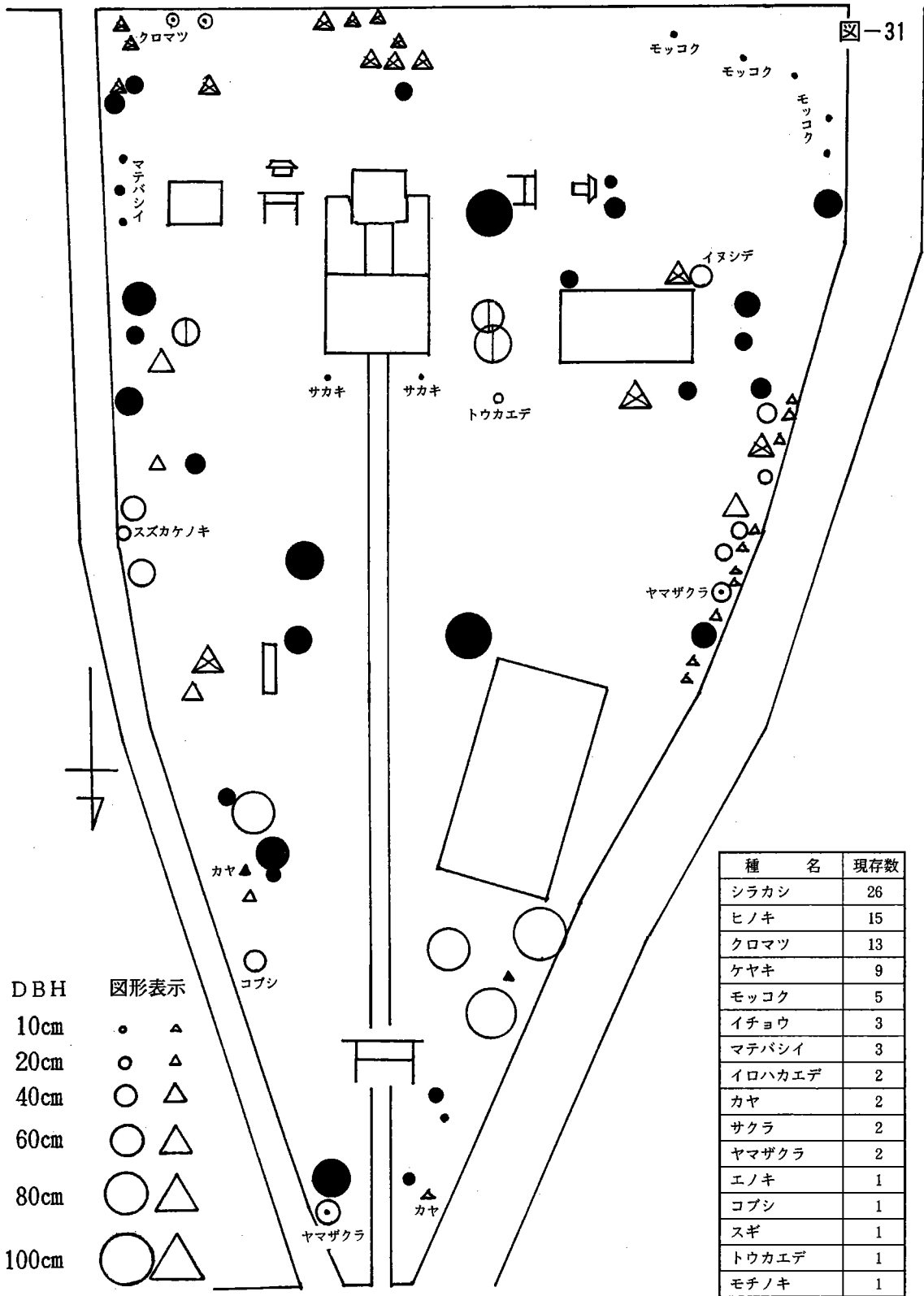
【神社の由来】

創建は元禄2年（1689年）、野崎村の創設（元禄8年）の六年前にこの社地は開拓者から調布市にある深大寺の末寺池上院に寄進され、同院が八幡社を勧請した。

【境内の樹木の特徴】

神木のイチョウは2本の主幹からなっている。拜殿・神殿（本殿）の後方は樹木が割合少ないがクロマツなどがまとまって生育している。北向きの建物の参道側には大木が多い。特にシラカシやケヤキが目立つ。

（図-31）



種名	現存数
シラカシ	26
ヒノキ	15
クロマツ	13
ケヤキ	9
モッコク	5
イチョウ	3
マテバシイ	3
イロハカエデ	2
カヤ	2
サクラ	2
ヤマザクラ	2
エノキ	1
コブシ	1
スギ	1
トウカエデ	1
モチノキ	1
16種類	87

②) 布多天神社（調布市調布ヶ丘）

【神社の由来】

延喜式神明帳（第60代醍醐天皇の延長5年（927年）につくられた書物）にも記されている。多摩郡でも有数の古社である。もと多摩川河畔の古天神というところにあったが、文明年間（1469-87年）、多摩川の洪水を避けて、現在地に遷座された。

【境内の樹木の特徴】

梅が多い。ケヤキの大木もあるが、上部が枯れて途中で伐られている。鳥居から拝殿・神殿（本殿）にいたる参道沿いに樹木が多い。クロマツ、クスノキ、シラカシ、ヒノキなどが混生している。

（図-32）

㉓ 八幡神社（狛江市西野川）

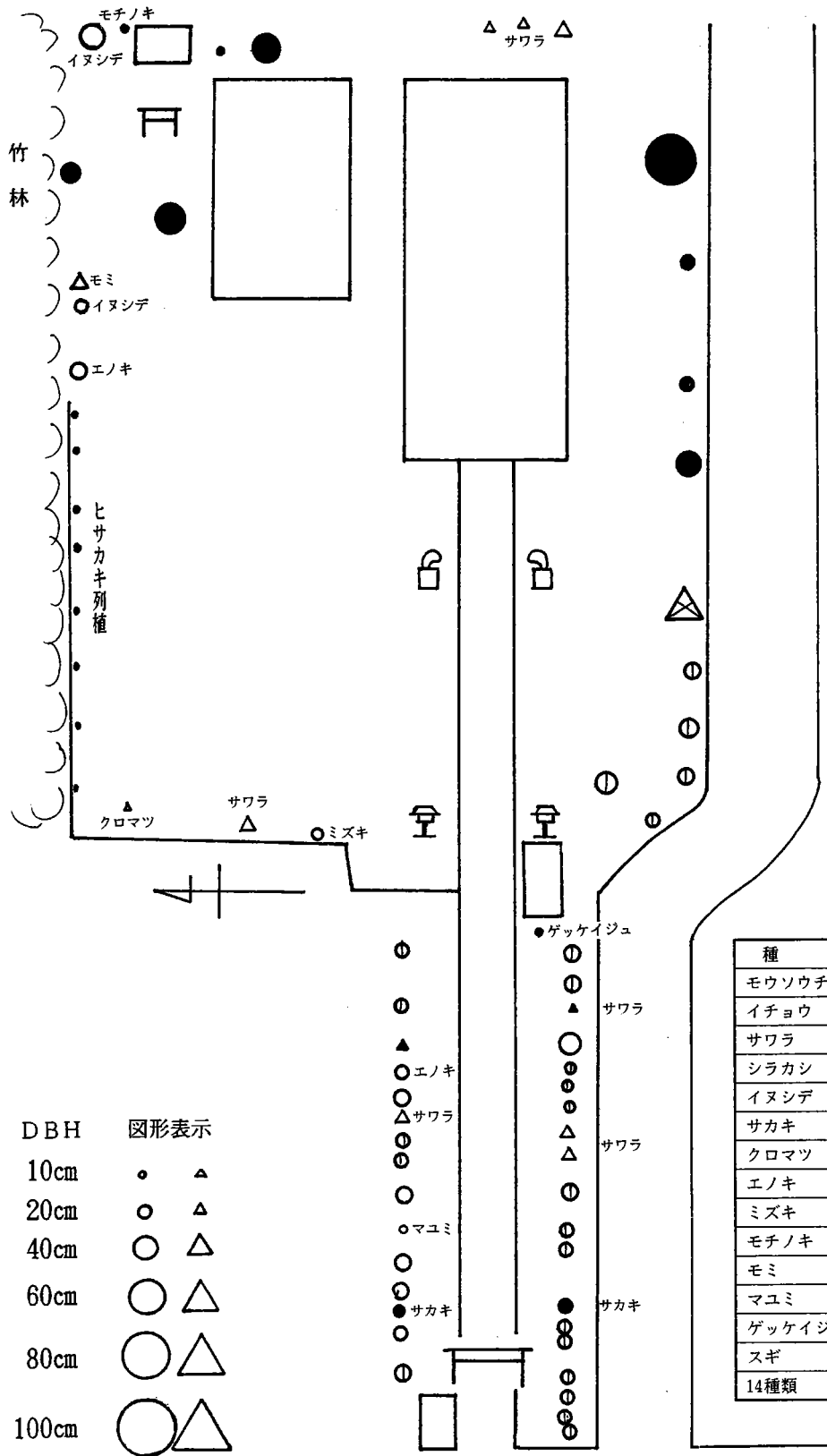
【神社の由来】

創建は永禄元年(1558年)。

【境内の樹木の特徴】

平坦地に位置している西向きの神社である。建物はシラカシ、サワラで薄く囲まれている。大木としてはシラカシとクロマツが目につく。参道沿いにはイチョウとケヤキが多く植えられている。

(図-33)



種名	現存数
モウソウチク	多数
イチョウ	24
サワラ	8
シラカシ	8
イヌシデ	2
サカキ	2
クロマツ	2
エノキ	2
ミズキ	1
モチノキ	1
モミ	1
マユミ	1
ゲッケイジュ	1
スギ	1
14種類	54

5. 神社をめぐるさまざまな問題

各地の神社での聞き取り調査の際、神社に関する様々な問題点があることがわかった。ここにいくつかを紹介したい。

A社（小平市）樹木はできるだけ残していきたいと考えている。近隣との関係で落ち葉が問題になることが多い。落ち葉ぐらいは我慢してもらいたい、と思っている。

B社（国分寺市）は府中街道から連雀通りにつながる通りの拡幅工事に伴い、最近、境内の北側の一部が削られる事になった。スギなどの林があったが失われた。現在は空き地になっていて、雑草が茂っている。（97年4月24日）

社務所も移したため、鳥居周辺の林がすべて消えた。林に包まれていた頃は、境内のどこにいても社務所の電話が鳴れば聞こえたものだが、今は全く聞こえない。振動もよく感じるようになったという。本殿の裏のケヤキの大木に来ていたミミズクも今では姿を見せなくなった。ヒキガエルも来なくなってしまった。これから広い道路になり大型車が通行するようになったら、さらに環境が悪化するだろう。

拝殿・神殿（本殿）の裏のケヤキの大木2本の中で、北側の道路沿いにあるケヤキの葉がほとんど出ていない。南側ものは開葉、展開し、青々としているのに比べ対照的である。この冬雨が少なかったことも原因しているらしいとのこと。1本の道路が周辺環境を激変させた例といえる。

C社（武蔵村山市）は拝殿が普通の住居になっている。その裏側に少し離れて本殿の小さな祠がある。どうも普通の神社と違っている。近隣に住んでいる方に教えていただいて理解できた。

戦争中火の元の安全のために、ある人物にお願いして管理をしてもらった時代があるという。拝殿に生活していたという。その後管理の必要がなくなり、引き渡しをお願いしたところ、その方は居住権を主張し、現在に至っているという。地域としては早急な解決を要求し、裁判になっている。結論が出て引き渡すことに決まったそうだが、現在でも状況は変わらない。神社としては拝殿が普通の住まいになっていて、お参りもままならず、神社の役割をほとんど果たしていない。

D社（調布市）は、神社をめぐるあらゆる問題がすべてここにあるといってもよい。今管理を任されている方にお聞きした。最初に来た時は伐採された樹木がそのままの状態で放置されていた。その樹木を穴を掘って燃やしたところ、近所からの苦情がものすごかったという。何故樹木を伐採したのかというと、落ち葉が多すぎて迷惑だとのこと。

イヌシデ、コナラ、エゴノキなどの落葉樹を伐採した。根までを起こして大量に放置してあったらしい。以前はイヌシデなどによって拝殿・神殿（本殿）などが包み込まれていたらしい。ヒノキ、アカマツなどの高木は残している。

イヌの糞害も以前は大変だったという。ほとんど拾わないで、そのままに捨てていく。管理人室の窓から見ている、知らん振り、鎖をはずして、自由に遊ばせている。あまりにひどいので境内に犬を入れさせないようにしたが、抵抗がずいぶんあった。かなり強い調子で対応し、ようやく最近はよくなったらしい。

賽銭泥棒も多い、最初は賽銭箱ごと盗まれた。警察からの連絡によりようやく戻ってきた。鎖でつないでおくことにしたら、今度はベンチやポールなどを使ってこじ開けて盗む。昼間堂々と盗みにくることもある。あまり強く対応すると反発が怖いので心配しているとのこと。

E社（武蔵村山市）では境内の西南側にあるイヌシデの大木を5本96年秋に伐採した。理由は境内からはみ出した枝から多量の落ち葉が西側のお宅に落ちて迷惑だと、住民から市役所に苦情が寄せられ、市から神社側に要請があったという。最終的に伐採という結論になった。

F社（保谷市）境内の東側で道路沿いに列状にあったイチョウの大木が殆ど伐採された。理由は落ち葉、暗い、実が臭いなどである。

G社（東大和市）は以前拝殿・神殿（本殿）の周囲はスギ林で囲まれていた。DBHは30-40cmで、戦後植えたものであったという。94年にほとんど伐採した。理由は近隣の方のお話では、花粉症対策だという。スギの幹は内部ががさがさになっていて空洞のものも多かったとのこと。

H社（国分寺市）では、神殿（本殿）の裏のヒノキの大木を95年に伐採した。理由は暗い、落ち葉がきたないとのこと。周辺からの要望らしいが、以前夜中に無断でイチョウの枝を落としたり、ヒノキの枝も切り落とされたとのこと、そこまでやるのかという気持ちだ。鳥居近くの樹木も間引きしたという。やはり暗いからが理由である。

このように例はいくらでもある。聞き取りを行った神社のほとんどで同じような問題を聞くことができた。

V ま と め

1. 多摩川中流域の左岸側に位置する神社188社を対象として、境内の樹木に関する調査を行った。
2. 神社の位置している地形を見ると、武蔵野台地の平坦地に91社（48.4%）、多摩川などの河川の段丘面上の平坦地に36社（19.1%）、段丘崖の斜面上に位置しているのが36社（19.1%）、狭山丘陵や加治丘陵などの丘陵地の斜面や尾根に位置しているのが25社（13.3%）であった。
3. 拝殿・神殿（本殿）などの境内の建物の向きは南向きが56.9%と最も多く、北向きや西向きが少なかった。
4. 境内に生育しているDBH（胸高直径）10cm以上の樹木は188社全体で、138種類であった。生活型で分類すると、落葉広葉樹70種（50.7%）、常緑広葉樹44種（31.9%）、常緑針葉樹22種（15.9%）、落葉針葉樹2種（1.4%）であった。平均すると神社1社あたり13.8種類が生育している。
5. 境内にある特別な樹木として、御神木がある。今回の調査ではケヤキ、イチョウ、スギ、スダジイ、アラカシ、シラカシ、クスノキ、クロマツ、カヤ、ウバメガシ、オガタマノキ、ツガ、ウメ、タブノキの計14種類が確認された。
6. 御神木・大木の方位別分布や境内における分布を見ると、拝殿・神殿（本殿）などの境内の建物の南側に多く分布していること。拝殿と狛犬の間の建物に割合近い場所に主として分布していることがわかった。
7. 境内にあって、出現頻度の高い樹種、現存数の多い樹種、御神木などの中から15種類を選び、境内のどの位置に存在するかを検討した。拝殿・神殿（本殿）などの建物を包み込むように配置されているのが、エノキ、ヒノキ、シラカシ、スダジイ、スギ、クスノキの6種で、ほとんどが常緑樹で年間を通じて、建物を暗く包み、厳かな雰囲気を作り出している。神殿の近くに配置されているのがサカキとウメである。境内への入り口である鳥居の近くに配置されているのがサクラ、ケヤキ、イチョウなどの落葉樹で明るい雰囲気をつくっている。
8. 武蔵野の神社の境内にある樹木はそのほとんどが植えられ、大事に育てられて、今日の姿がある。周辺環境の悪化により、長い歴史をもつ巨木・大木たちの枯死化が目立っている。さらに、神社に対する人々の思いも大きく変化しつつあり、さまざまな問題があるが、神社関係者の鎮守の森を守ろう、残していこうという気持ちにはつよいものがある。今後もさらに調査を進めて境内の樹木の姿を明らかにしていきたいと考えている。

謝 辞

本研究にあたり、とうきゅう環境浄化財団からは多大な援助をいただきました。心からお礼申し上げます。

現地調査、データ整理などで次の方々には大変お世話になりました。深く感謝いたします。

青砥慧子、秋山小南、岩井礼子、菊地真幸、高島恵子、さらに、各神社関係者の方々には、神社への立ち入りと樹木調査を許していただき、境内の樹木や神社の歴史、その他について貴重な情報を教えていただきました。

深く感謝の意を表します。

参考文献

府中市	1974年	府中の風土記	
武蔵野郷土刊行会	1976年	多摩の歴史3	
秋川市教育委員会	1985年	秋川の自然	
都情報連絡室情報公開部	1990年	樹－東京の巨樹	
東村山市教育委員会	1990年	東村山の文化財・史跡	
清瀬市郷土博物館	1990年	改訂清瀬の史跡散歩	
少年社	1992年	神道の本	学習研究社
調布市教育委員会	1993年	調布の文化財案内	
府中市教育委員会	1993年	大国魂神社社叢の研究	
立川市教育委員会	1994年	立川を歩く	
牧野和春	1994年	鎮守の森再考	春秋社
武蔵村山市教育委員会	1995年	むさしむらやま歴史散策コース案内	
岡田米夫	1995年	日本史小百科 神社	東京堂出版
昭島市教育委員会	1996年	あきしまの史跡めぐり	

資 料

資料 1

神社樹木調査表

1998. 8. 3

神	社	社名	所在	地	本殿の向き	地	形	御	神	木	出現種数	調査日
1	住吉	神	社	青梅市青梅	南	小高い丘		ス	ダジイ		11	96. 4. 25
2	御岳	神	社	青梅市大門	南	平坦地		-			24	96. 9. 12
3	八雲	神	社	青梅市藤橋	北	霞川右岸上部		イ	チヨウ		6	96. 9. 12
4	村社	仙保	葛神社	青梅市木野下	南	平坦地		ス	ギ		11	96. 9. 12
5	蔵主	神	社	青梅市谷野	南	霞川左岸段丘崖上小高い丘		ス	ギ		10	97. 1. 4
6	村社	木野下	神社	青梅市木野下	南	霞川左岸段丘崖上山の斜面下部		ス	ギ		10	97. 1. 4
7	浮島	神	社	青梅市今井	東	霞川左岸沿い平坦地		ケ	ヤキ		15	97. 1. 4
8	三柱	神	社	青梅市今井	西	霞川左岸沿い平坦地		-			7	97. 1. 4
9	常盤	樹	神	社	青梅市今寺	南	霞川右岸段丘崖上平坦地	-			12	97. 1. 4
10	春日	神	社	青梅市野上町	南	霞川左岸段丘崖上小高い丘		ス	ギ		9	97. 1. 4
11	神	明	社	青梅市塩船	南	丘陵の斜面上		ヒ	ノキ		8	97. 1. 4
12	八雲	神	社	青梅市河辺町	南	多摩川左岸段丘崖上部斜面上		ア	ラカシ		7	97. 1. 6
13	村社	春日	神社	青梅市河辺町	南	多摩川左岸段丘崖上部斜面上		-			10	97. 1. 6
14	千ヶ	瀬	神	社	青梅市千ヶ瀬	南	多摩川左岸段丘崖上部斜面上	ス	ダジイ		13	97. 1. 6
15	吹上	神	社	青梅市吹上	南	丘陵の小高い山の上		タ	ブノキ		10	97. 1. 16
16	師岡	神	社	青梅市東青梅	南	丘陵下部の小高い山の中腹		ス	ダジイ		9	97. 1. 16
17	五ノ	神	社	羽村市五ノ神	東	平坦地		イ	チヨウ		16	95. 11. 27
18	稲荷	神	社	羽村市羽東	南	多摩川左岸段丘崖上小高い丘		ス	ダジイ		10	95. 11. 27
19	阿蘇	神	社	羽村市羽加美	南	多摩川左岸段丘崖上小高い丘		ス	ダジイ		17	95. 11. 27
20	玉川	神	社	羽村市羽中	東	多摩川左岸段丘崖上平坦地		-			8	95. 11. 27
21	松本	神	社	羽村市羽西	南	多摩川左岸段丘崖上部斜面上		ア	ラカシ		10	97. 1. 6
22	神明	神	社	羽村市神明台	南	多摩川左岸段丘崖上		-			12	97. 3. 2
23	八幡	稻荷	神	社	羽村市羽中	南	多摩川左岸段丘崖上部斜面上	-			8	97. 8. 21
24	護国	神	社	羽村市羽東	南	多摩川左岸段丘崖上小高い丘		-			17	97. 8. 21
25	加藤	神	社	瑞穂町箱根ヶ崎	東	平坦地		-			9	96. 10. 17
26	狭山	神	社	瑞穂町箱根ヶ崎	南	狭山丘陵の小高い丘		ア	ラカシ		20	96. 10. 17
27	浅間	神	社	瑞穂町箱根ヶ崎	南	狭山丘陵上部、周囲は雑木林		-			12	96. 10. 17
28	石畑	御	嶽	神	社	瑞穂町石畑	平坦地	ケ	ヤキ		8	96. 10. 17
29	郷社	阿豆	佐味	天神	社	瑞穂町殿ヶ谷	狭山丘陵下部斜面上部	ア	ラカシ		14	96. 10. 26
30	須賀	神	社	瑞穂町殿ヶ谷	南	狭山丘陵斜面上部周囲は雑木林		-			5	96. 10. 26

31	愛宕	岩神	社	瑞穂町長岡長谷部	東	平坦地	スギ	19	97. 1. 16
32	熊川	神	社	福生市熊川	南	多摩川左岸段丘崖上平坦地	アラカシ	19	96. 3. 10
33	福生	神明	社	福生市福生	東	多摩川左岸段丘崖上小高い丘	ウメ	15	97. 2. 23
34	熊野	神	社	武蔵村山市本町	南	平坦地	-	9	96. 7. 11
35	日吉	神社(ひえ)	社	武蔵村山市中央	南	狭山丘陵下部	スギ(二代目)	18	96. 7. 11
36	七所	神	社	武蔵村山市本町	東	狭山丘陵下部	(元スギ)	16	96. 7. 11
37	十二	所	社	武蔵村山市三ツ木	南	狭山丘陵下部斜面上部	-	12	96. 10. 26
38	伊勢	神	社	武蔵村山市三ツ木	南	狭山丘陵斜面上部周囲は雑木林	-	7	96. 10. 26
39	八坂	神	社	武蔵村山市中藤	南	空堀川左岸側斜面上部	シラカシ	12	97. 1. 23
40	熊野	神	社	武蔵村山市中藤	南	狭山丘陵下部	ツガ	9	97. 1. 23
41	天満	宮	社	武蔵村山市中藤	東	空堀川右岸側斜面上部	-	18	97. 1. 23
42	神明	明	社	武蔵村山市中藤	南	平坦地	シラカシ	18	95. 11. 17
43	阿豆	味天神	社	立川市砂川町	南	平坦地	-	15	96. 1. 13
44	熊野	神	社	立川市高松町	南東	平坦地	-	17	96. 1. 13
45	愛宕	神	社	立川市栄町	東	平坦地	-	15	96. 1. 13
46	阿豆	味天神	社	立川市西砂町	南	平坦地	-	8	97. 2. 23
47	諏訪	神	社	立川市柴崎町	南	平坦地	-	27	97. 7. 23
48	浅間	神	社	立川市富士見町	南	平坦地	-	11	97. 9. 30
49	諏訪	神	社	昭島市宮沢町	南	多摩川左岸段丘崖上	ケヤキ	13	96. 1. 15
50	熊野	神	社	昭島市中神町	南	多摩川左岸段丘崖上	イチヨウ	15	96. 1. 15
51	拝島	天神	社	昭島市拝島町	南	平坦地	-	6	97. 2. 23
52	稲荷	神	社	昭島市田中町	南	平坦地	-	9	97. 3. 2
53	駒形	神	社	昭島市大神町	南	平坦地	-	12	97. 3. 2
54	日吉	神	社	昭島市拜島町	南	多摩川左岸段丘崖上	-	13	97. 3. 2
55	日枝	神	社	昭島市上川原町	南	傾斜地(南向き斜面)	-	14	97. 8. 25
56	福島	神	社	昭島市福島町	南	多摩川左岸段丘崖上	-	12	97. 9. 30
57	十二	神	社	昭島市玉川町	南東	多摩川左岸緩い傾斜地	-	2	97. 9. 30
58	稲荷	神	社	昭島市郷地町	東	多摩川左岸段丘崖上	ケヤキ	11	97. 9. 30
59	清水	神	社	東大和市清水町	東	平坦地	-	15	95. 12. 22
60	高木	神	社	東大和市高木	南	奈良橋川左岸段丘崖上、小丘上	-	18	95. 12. 22
61	八幡	神	社	東大和市奈良橋	南	狭山丘陵上 周囲は雑木林	アラカシ(元スギ)	13	95. 12. 22
62	豊鹿	島神	社	東大和市芋窪	南	狭山丘陵斜面上部	シラカシ、スギ	13	97. 1. 23

神	社	名	所	在	地	本殿の向き	地	形	御	神	木	出現種数	調査日	
63	村	熊野宮	東大和市	蔵敷	狭山丘陵斜面上部	南	狭山丘陵斜面上部		ス	ギ		10	97. 1. 26	
64	蔵	島神社	東大和市	蔵敷	狭山丘陵斜面上部	南	狭山丘陵斜面上部		-			15	97. 1. 26	
65	玉	湖神社	東大和市	多摩湖	狭山丘陵斜面上部	東	狭山丘陵斜面上部		-			16	97. 12. 4	
66	諏	訪神社	東大和市	諏訪町	柳瀬川支流右岸、小高い丘	東	柳瀬川支流右岸、小高い丘		オ	ガ	タ	マ	ノ	キ
67	金	山神社	東大和市	廻田町	北	北	前川(柳瀬川支流)左岸		ケ	ヤ	キ	14	95. 12. 22	
68	秋	津神社	東村山市	秋津	南	南	柳瀬川右岸段丘崖上		ケ	ヤ	キ	14	96. 1. 2	
69	八	坂神社	東村山市	栄町	東	東	平坦地		ス	ギ		16	97. 1. 12	
70	村	熊野神社	東村山市	久米川町	南	南	平坦地		ケ	ヤ	キ	21	97. 1. 12	
71	水	川神社	東村山市	秋津	南	南	平坦地		ケ	ヤ	キ	10	97. 1. 26	
72	村	稻荷神社	東村山市	恩多町	北	北	平坦地野火止用水左岸		-			18	97. 5. 22	
73	永	代神社	東村山市	青葉町	南	南	平坦地		-			8	97. 11. 6	
74	山	王稲穂神社	小金井市	本町	東	東	平坦地		ウ	バ	メ	ガ	シ	
75	八	幡神社	小金井市	閼野町	南	南	平坦地		-			25	97. 3. 9	
76	稲	荷神社	小金井市	梶野町	東	東	平坦地		-			17	97. 3. 9	
77	小	金井神社	小金井市	中町	南	南	野川左岸段丘面		-			4	97. 5. 31	
78	上	宮大澤神社	小金井市	貫井南町	北西	北西	野川右岸側段丘崖上部平坦地		-			25	97. 5. 31	
79	貫	井神社	小金井市	貫井南町	南	南	野川左岸側段丘崖斜面上		-			10	97. 8. 18	
80	日	枝神社	小平市	小川町	東	東	平坦地		-			20	97. 8. 18	
81	神	明宮	小平市	小川町	南	南	平坦地		ケ	ヤ	キ	(元モミ)	13	95. 12. 17
82	武	蔵野神社	小平市	花小金井	南	南	平坦地		イ	チ	ヨ	ウ	21	95. 12. 17
83	多	摩野神社	小平市	天神町	南	南	平坦地		-			10	96. 10. 30	
84	熊	野宮	小平市	仲町	北	北	平坦地	ケ	ヤ	キ		15	97. 2. 13	
85	鈴	木稲荷神社	小平市	鈴木町	東	東	平坦地		エ	ノ	キ	(ムクノキ)	12	97. 2. 13
86	弁	天八幡宮	国分寺市	西町	東	東	平坦地		ク	ロ	マ	ツ	19	97. 3. 9
87	村	社神明社	国分寺市	西町	西	西	小高い丘		-			8	96. 1. 13	
88	神	明宮	国分寺市	北町	南	南	平坦地		-			13	96. 1. 13	
89	愛	宕神社	国分寺市	北町	南	南	平坦地		-			15	96. 1. 29	
90	戸	倉神社	国分寺市	戸倉	北	北	平坦地		ケ	ヤ	キ	11	96. 1. 29	
91	稲	荷神社	国分寺市	上水本町	東	東	平坦地		-			13	96. 1. 29	
92	稲	荷神社	国分寺市	上水南町	東	東	平坦地		-			10	96. 1. 29	
93	本	多八幡神社	国分寺市	本多	南	南	平坦地		-			11	96. 1. 29	
									-			10	97. 3. 9	

94	内藤	神	社	国分寺市日吉町	南	平坦地	シラカシ	18	97. 4. 24
95	熊野	神	社	国分寺市西恋ヶ窪	西	小高い丘	-	14	97. 4. 24
96	本町八幡	神	社	国分寺市本町	東	平坦地	-	13	97. 4. 24
97	八幡	神	社	国分寺市高木	南	平坦地	-	11	97. 4. 24
98	平安	神	社	国分寺市東元町	東	野川右岸側平坦地	-	11	97. 8. 18
99	本村八幡	神	社	国分寺市西元町	南	国分寺崖線斜面上	-	14	97. 8. 18
100	谷保	天満	宮	国立市谷保	東	多摩川左岸段丘崖下部	-	25	97. 7. 23
101	神	明	宮	国立市谷保	南	多摩川左岸段丘崖上部	-	17	97. 8. 16
102	青柳	稻荷	神	国立市青柳	東	多摩川左岸段丘崖上部	-	15	97. 8. 16
103	野塩	八幡	神	清瀬市野塩	北	多摩川右岸段丘崖上	-	18	96. 1. 3
104	上組	稻荷	神	清瀬市中里	東	平坦地	-	4	96. 1. 3
105	水	川	神	清瀬市中里	南	柳瀬川右岸段丘崖上、平坦地	-	13	96. 1. 3
106	中里	富士山	神	清瀬市中里	南	小高い丘、周囲は雑木林	-	15	96. 1. 3
107	松宮	稻荷	神	清瀬市旭が丘	西	柳瀬川右岸段丘崖上	-	9	97. 5. 1
108	上宮	稻荷	神	清瀬市下宿	南	柳瀬川右岸段丘面上小高い丘	スギ	10	97. 5. 15
109	下宿	八幡	神	清瀬市下宿	南	柳瀬川右岸段丘面上平坦地	ケヤキ	13	97. 5. 15
110	日枝	神社	天宮	清瀬市中清戸	南	平坦地	スギ	24	97. 5. 22
111	浅間	神	社	清瀬市竹丘	南	平坦地に盛土	-	9	97. 11. 6
112	浅間	神	社	東久留米市浅間町	西	落合川支流段丘崖上	イチヨウ	13	95. 12. 10
113	水	川	神	東久留米市神宝町	北	落合川左岸段丘崖上	ケヤキ	14	95. 12. 10
114	神	明	社	東久留米市南町	南	平坦地	-	10	95. 12. 15
115	水	川	神	東久留米市下里	東	黒目川右岸段丘崖上、小高い丘	-	18	95. 12. 15
116	八幡	神	社	東久留米市八幡町	東	落合川源流部左岸、平坦地	-	11	95. 12. 15
117	水	川	神	東久留米市南沢	南	落合川左岸段丘崖上	-	18	95. 12. 15
118	巖	島	神	東久留米市水川台	東	黒目川左岸	-	17	96. 1. 3
119	水	川	神	東久留米市水川台	東	黒目川左岸段丘崖上小高い丘	-	15	97. 2. 11
120	稲	荷	神	東久留米市新川町	西	平坦地	-	5	97. 2. 11
121	子	ノ	神	東久留米市小山	南	黒目川左岸段丘崖上小高い丘	-	17	97. 2. 11
122	天	神	社	東久留米市柳窪	東	黒目川右岸段丘面上	-	12	97. 5. 22
123	上染	谷	八幡	府中市白糸台	南	平坦地	-	23	96. 11. 21
124	常	久	八幡	府中市若松町	南	平坦地	ケヤキ	11	96. 11. 21
125	神	明	社	府中市白糸台	南	平坦地	-	6	96. 11. 28

神 社 名	所 在 地	本殿の向き	地 形	御 神 木	出現種数	調 査 日
126 諏訪神	府中市白糸台	南	府中屋線上部(はけた坂)	シラカシ	11	96.11.28
127 車返八幡神社	府中市白糸台	南	府中屋線上部	ケヤキ、スダジイ	7	96.11.28
128 押立神社	府中市押立町	東	平坦地	-	21	97.8.3
129 三谷神社	府中市多摩町	西	平坦地	-	11	97.8.3
130 神明	府中市四谷	東	平坦地	ケヤキ	10	97.8.16
131 小野神	府中市住吉町	南東	平坦地	(元ケヤキ)	9	97.8.16
132 八幡神	府中市南町	東	多摩川左岸段丘崖上部平坦地	-	6	97.8.16
133 八幡神	府中市分梅町	東	多摩川左岸段丘崖上部平坦地	-	6	97.8.16
134 浅間神	府中市美好町	東	多摩川左岸段丘崖上部平坦地	-	12	97.8.16
135 人見稲荷神社	府中市若松町	南	浅間山下部	-	19	97.8.18
136 浅間神	府中市若松町	南	浅間山山頂部	-	10	97.8.18
137 熊野神	府中市矢崎町	西	平坦地	-	5	97.9.11
138 日吉神	府中市宮町	南	傾斜地(南向き斜面)上	ケヤキ	18	97.9.11
139 熊野神	府中市西府町	南	平坦地	-	16	97.9.11
140 武蔵国府八幡宮	府中市八幡町	西	平坦地	-	15	97.9.11
141 八幡神	府中市是政	南	平坦地	ケヤキ	4	97.9.11
142 天 神	保谷市北町	南	白子川左岸小高い丘	イチヨウ	23	95.10.9
143 尉 殿	保谷市住吉町	南	平坦地	スギ(二代目)	22	95.10.9
144 阿波洲神	保谷市新町	東	平坦地	イチヨウ	20	96.11.24
145 東伏見稲荷神社	保谷市東伏見	南	石神井川左岸段丘崖上小高い丘	-	30	96.12.14
146 水 川 神	保谷市東伏見	南	石神井川左岸段丘崖上小高い丘	クロマツ	12	95.11.23
147 田 無 神	田無市本町	南	石神井川左岸段丘崖上平坦地	イチヨウ	20	95.12.15
148 八幡神	武蔵野市八幡町	南	平坦地	クスノキ	15	96.1.12
149 稲 荷 神	武蔵野市緑町	南	平坦地	-	13	96.1.12
150 武蔵野八幡宮	武蔵野市吉祥寺東町	南	平坦地	ケヤキ	17	96.4.21
151 杵 築 神	武蔵野市境南町	東	平坦地	イチヨウ	27	96.7.25
152 八 坂 神	武蔵野市境	南	平坦地	-	9	97.5.31
153 野 崎 八 幡 神	三鷹市野崎	北	平坦地	イチヨウ	16	96.10.10
154 井 口 八 幡 神	三鷹市井口	東	平坦地	-	11	96.10.10
155 神 明 神	三鷹市上連雀	北	平坦地	-	9	96.10.10
156 八 幡 大 神	三鷹市下連雀	南	平坦地	スダジイ	14	96.10.10

157	天	神	社	三鷹市新川	南	平坦地	-	18	97. 4. 26
158	勝	淵	神	三鷹市新川	南	仙川左岸側の少し高まった部分	-	14	97. 4. 26
159	中	嶋	神	三鷹市中原	東	平坦地(中央自動車道南側)	イチョウ	19	97. 4. 26
160	八	幡	神	三鷹市大沢	南	平坦地(野川の左岸側段丘面)	ケヤキ	15	97. 4. 26
161	神	明	社	三鷹市牟礼	西	神田川左岸	クスノキ(元カマツ)	25	97. 10. 19
162	八	幡	神	調布市緑ヶ丘	南	仙川左岸ゆるやかな斜面	-	21	96. 11. 17
163	布	田	神	調布市調布ヶ丘	南	平坦地	ケヤキ	25	96. 11. 28
164	青	淵	神	調布市深大寺元町	東	少し高まった部分東側凹地	ケヤキ	20	96. 12. 22
165	虎	狛	神	調布市佐須町	北	平坦地	クロマツ	17	96. 12. 22
166	諏	訪	神	調布市深大寺東町	南東	平坦地	カヤ	16	96. 12. 22
167	八	剣	神	調布市菊野台	北	平坦地	-	11	96. 12. 27
168	国	領	神	調布市国領町	北	平坦地(甲州街道南側)	-	8	96. 12. 27
169	池	ノ	上	調布市深大寺南町	北	野川左岸段丘崖上(中央道北側)	ケヤキ	7	96. 12. 27
170	富士	嶽	浅	調布市深大寺北町	西	平坦地	-	13	97. 4. 26
171	八	幡	神	調布市富士見町	南	平坦地	-	27	97. 8. 3
172	若	宮	八	調布市下石原	西	府中用水左岸段丘崖上部	-	29	97. 8. 3
173	道	生	神	調布市飛田給	東	平坦地	-	11	97. 8. 3
174	八	幡	神	狛江市岩戸南	南	少し高まった部分	カヤ	13	96. 12. 15
175	日	枝	神	狛江市駒井町	東	平坦地	イチョウ	6	96. 12. 15
176	伊	豆	美	狛江市中和泉	北	平坦地	-	21	96. 12. 15
177	白	幡	菅	狛江市猪方	東	平坦地	-	7	96. 12. 15
178	三	島	神	狛江市西野川	南	平坦地	-	9	96. 12. 27
179	八	幡	神	狛江市西野川	西	平坦地	シラカシ	14	96. 12. 27
180	水	川	神	新座市西堀	西	野火止用水南側平坦地	-	12	95. 12. 10
181	水	川	神	新座市馬場	南東	黒目川左岸、関越道の北側沿い	ケヤキ(元スギ)	20	95. 12. 10
182	若	宮	八	新座市野火止	南	平坦地	-	16	97. 5. 1
183	菅	沢	稻	新座市菅沢	南	平坦地	-	10	97. 5. 1
184	武	野	神	新座市野寺	北	黒目川右岸段丘崖上部	-	17	98. 3. 17
185	天	祖	若	練馬区関野北	東	石神井川右岸段丘崖上平坦地	-	15	95. 11. 23
186	北	野	神	練馬区東大泉	南	白子川右岸段丘崖上平坦地	-	10	95. 11. 26
187	諏	訪	神	練馬区西大泉	南	白子川左岸段丘崖上平坦地	-	25	95. 11. 26
188	稲	荷	神	練馬区大泉	南	平坦地	シラカシ	11	98. 4. 3

資料 2

御神木のDBHとH

神社名	所在地	御神木	DBH(cm)	H(m)	備考
八雲神社	青梅市河辺町	アラカシ	70	11	
浮島神社	青梅市今井	ケヤキ	120	25	
春日神社	青梅市野上町	スギ	120	30	
蔵主神社	青梅市谷野	スギ	115	30	
村社木野下神社	青梅市木野下	スギ	80	20	
千ヶ瀬神社	青梅市千ヶ瀬	スダジイ	180	18	
師岡神社	青梅市東青梅	スダジイ	170	14	
吹上神社	青梅市吹上	タブノキ	55	12	
神明社	青梅市塩船	ヒノキ	95	30	
八雲神社	青梅市藤橋	イチョウ	90	25	
村社仙保葛神社	青梅市木野下	スギ	110	35	
住吉神社	青梅市青梅	スダジイ	110	15	
松本神社	羽村市羽西	アラカシ	45	15	
五ノ神社	羽村市五ノ神	イチョウ	85	22	
阿蘇神社	羽村市羽加美	スダジイ	194	18	
稲荷神社	羽村市羽東	スダジイ	80	10	
狭山神社	瑞穂町箱根ヶ崎	アラカシ	50	15	
郷社阿豆佐味天神社	瑞穂町殿ヶ谷	アラカシ	45	13	
石畑御嶽神社	瑞穂町石畑	ケヤキ	130	12	
愛宕神社	瑞穂町長岡長谷部	スギ	100	28	
熊川神社	福生市熊川	アラカシ	80	11	
福生神明社	福生市福生	ウメ	35	6	
熊野神社	武蔵村山市中藤	ツガ	75	17	
八坂神社	武蔵村山市中藤	シラカシ	115	22	
神明社	武蔵村山市中央	シラカシ	110	25	
日吉神社(ひえ)	武蔵村山市中央	スギ(二代目)	30	15	
稲荷神社	昭島市郷地町	ケヤキ	222	10	
熊野神社	昭島市中神町	イチョウ	200	18	
諏訪神社	昭島市宮沢町	ケヤキ	130	20	
村社熊野宮	東大和市蔵敷	スギ	80	22	
八幡神社	東大和市奈良橋	アラカシ(元スギ)	未調査		
豊鹿島神社	東大和市芋窪	シラカシ	100	18	スギ(80-22)
村社熊野神社	東村山市久米川町	ケヤキ	130	4.5	枯死
氷川神社	東村山市秋津	ケヤキ	120	22	
八坂神社	東村山市栄町	スギ	70	12	
諏訪神社	東村山市諏訪町	オガタマノキ	6	5	
金山神社	東村山市廻田町	ケヤキ	130	16	
秋津神社	東村山市秋津	ケヤキ	110	20	
山王稲穂神社	小金井市本町	ウバメガシ	40	10	
鈴木稲荷神社	小平市鈴木町	クロマツ	115	28	






















神社名	所在地	御神木	DBH(cm)	H(m)	備考
武蔵野神社	小平市花小金井	イチョウ	90	25	
熊野宮	小平市仲町	エノキ(ムクノキ)	90	20	
熊野宮	小平市仲町	ケヤキ	130	28	
神明宮	小平市小川町	ケヤキ(元モミ)	150	20	
内藤神社	国分寺市日吉町	シラカシ	85	23	
愛宕神社	国分寺市北町	ケヤキ	130	22	
下宿八幡神社	清瀬市下宿	ケヤキ	190	26	
日枝神社水天宮	清瀬市中清戸	スギ	110	20	
上宮稲荷神社	清瀬市下宿	スギ	100	25	
浅間神社	東久留米市浅間町	イチョウ	46	11	
氷川神社	東久留米市神宝町	ケヤキ	30	10	株立
日吉神社	府中市宮町	ケヤキ	230	12	
常久八幡神社	府中市若松町	ケヤキ	150	30	
神明社	府中市四谷	ケヤキ	96	15	
八幡神社	府中市是政	ケヤキ	160	14	
諏訪神社	府中市白糸台	シラカシ	100	18	
車返八幡神社	府中市白糸台	ケヤキ	95	25	スダジイ(80-16)
阿波洲神社	保谷市新町	イチョウ	90	28	
氷川神社	保谷市東伏見	クロマツ	80	16	
天神社	保谷市北町	イチョウ	100	25	
尉殿神社	保谷市住吉町	スギ(二代目)	12	8	
田無神社	田無市本町	イチョウ	120	22	
武蔵野八幡宮	武蔵野市吉祥寺東町	ケヤキ	90	20	
杵築神社	武蔵野市境南町	イチョウ			株立
八幡神社	武蔵野市八幡町	クスノキ	75	16	
中嶋神社	三鷹市中原	イチョウ	130	28	
八幡神社	三鷹市大沢	ケヤキ	80	18	
野崎八幡社	三鷹市野崎	イチョウ	70	18	
八幡大神社	三鷹市下連雀	スダジイ	120	13	
神明社	三鷹市牟礼	クスノキ(元カマツ)	40	15	
諏訪神社	調布市深大寺東町	カヤ	90	20	
虎狛神社	調布市佐須町	クロマツ	140	30	
青渭神社	調布市深大寺元町	ケヤキ	175	22	
池ノ上神社	調布市深大寺南町	ケヤキ	120	18	
布田天神社	調布市調布ヶ丘	ケヤキ	110	8	
日枝神社	狛江市駒井町	イチョウ	75	13	
八幡神社	狛江市岩戸南	カヤ	95	13	
八幡神社	狛江市西野川	シラカシ	90	18	
氷川神社	新座市馬場	ケヤキ(元スギ)	55	20	
稲荷神社	練馬区西大泉	シラカシ	85	20	

資料 3

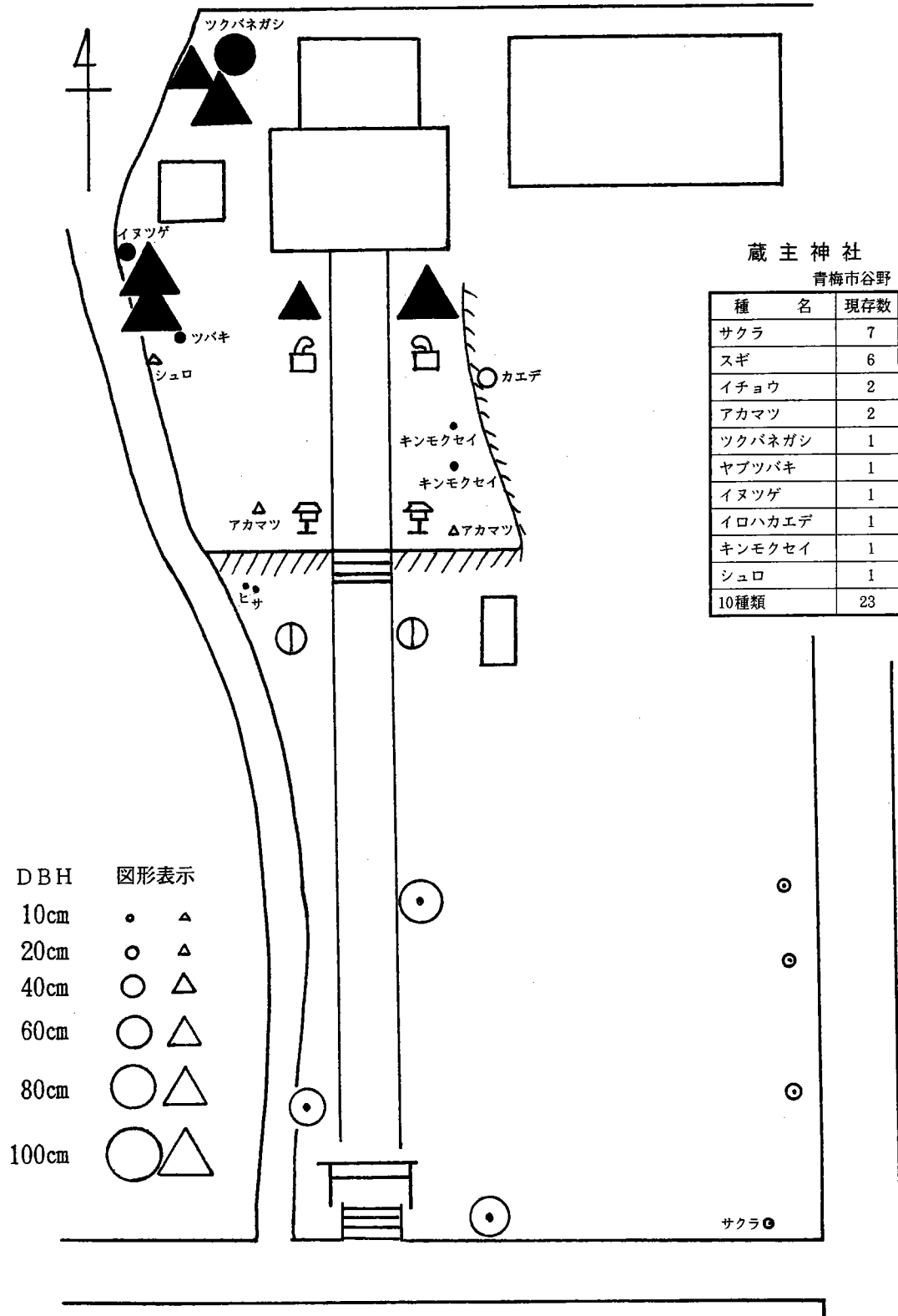
境内における樹木配置図

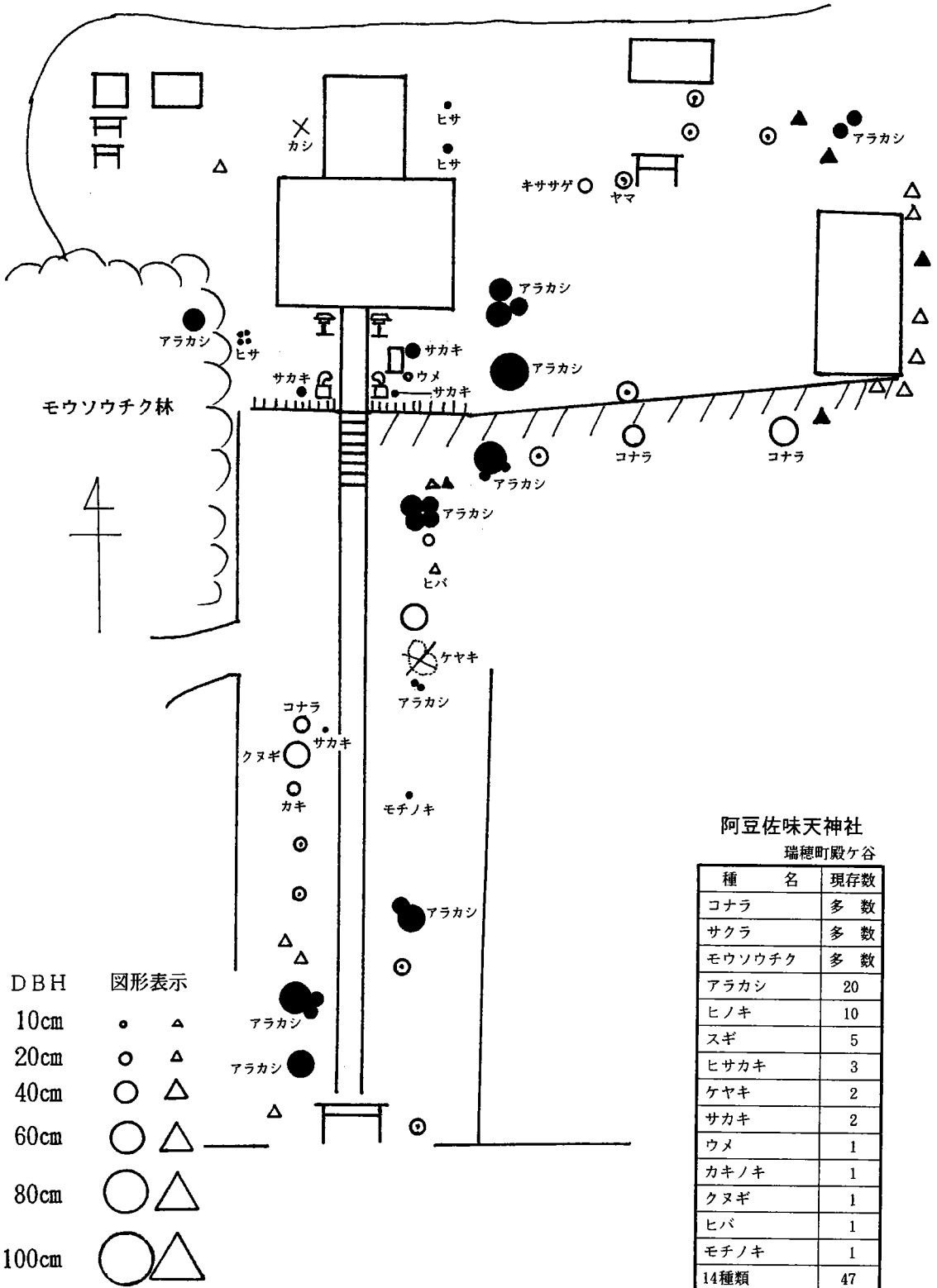
図No.	社 名	所 在 地
1	蔵主神社	青梅市谷野
2	郷社阿豆佐味天神社	瑞穂町殿ヶ谷
3	愛宕神社	瑞穂町長岡長谷部
4	日吉神社(ひえ)	武蔵村山市中央
5	熊野神社	昭島市中神町
6	日枝神社	昭島市上川原町
7	金山神社	東村山市廻田町
8	日枝神社	小平市小川町
9	熊野宮	小平市仲町
10	熊野神社	国分寺市西恋ヶ窪
11	谷保天満宮	国立市谷保
12	尉殿神社	保谷市住吉町
13	上染谷八幡神社	府中市白糸台
14	常久八幡神社	府中市若松町
15	人見稲荷神社	府中市若松町
16	八幡神社	武蔵野市八幡町
17	稲荷神社	武蔵野市緑町
18	神明社	三鷹市牟礼
19	八幡大神社	三鷹市下連雀
20	天神社	三鷹市新川
21	虎狛神社	調布市佐須町
22	諏訪神社	調布市深大寺東町
23	若宮八幡神社	調布市下石原
24	氷川神社	新座市馬場

境内の樹木配置図の記号と植物名の説明

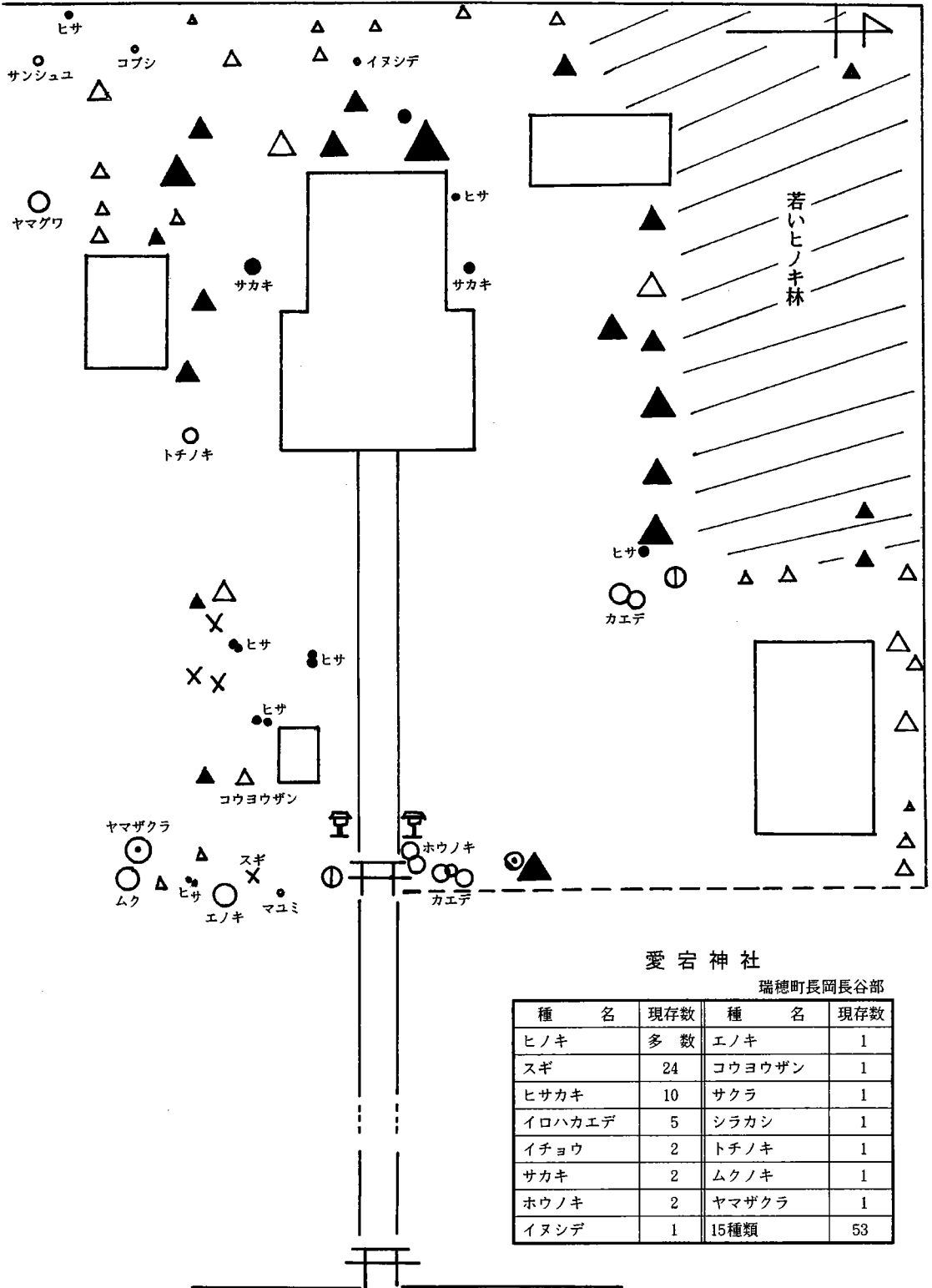
-  無記名-シラカシ
-  シイ スダジイ
-  ヒサ ヒサカキ
-  クス クスノキ
-  マテ マテバシイ
-  無記名-ケヤキ
-  イチョウ
-  サクラ
-  ヤマ ヤマザクラ
-  シダレ シダレザクラ
-  ムク ムクノキ
-  エゴ エゴノキ
-  無記名-スギ
-  無記名-ヒノキ
-  アカマツ
-  クロマツ
-  ヒマ ヒマラヤスギ
-  枯株
-  狛犬
-  灯籠
-  手水舎

資料3 図-1

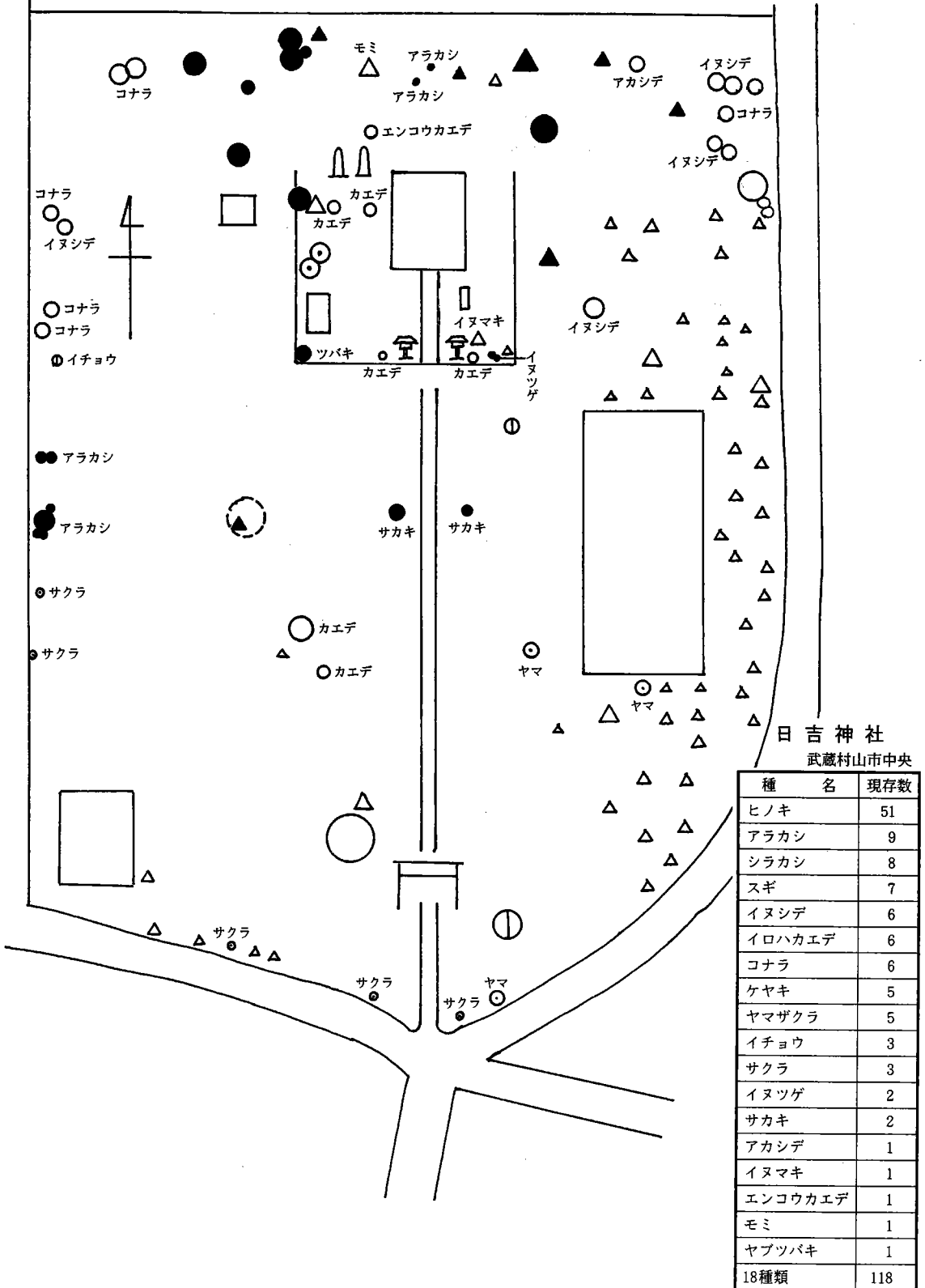




資料3 図-3



資料3 図-4



熊野神社

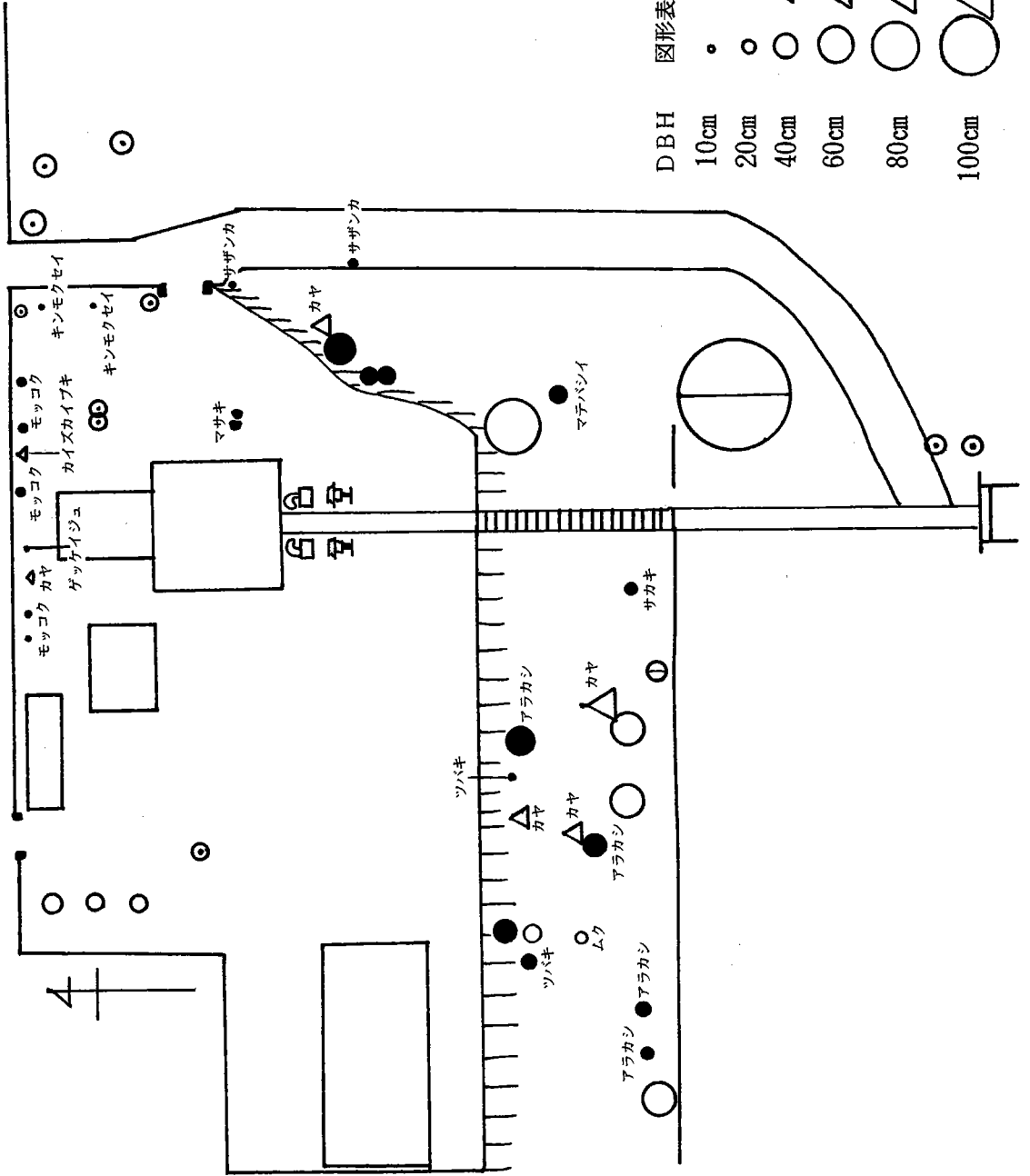
昭島市中神町

種名	現存数
サクラ	10
ケヤキ	8
アラカシ	5
カヤ	5
モッコク	4
シラカシ	3
イチョウ	2
カイズカイブキ	2
キンモクセイ	2
マサキ	2
ヤブツバキ	2
ゲッケイジュ	1
サカキ	1
サザンカ	1
マテバシイ	1
15種類	49

図形表示

DBH

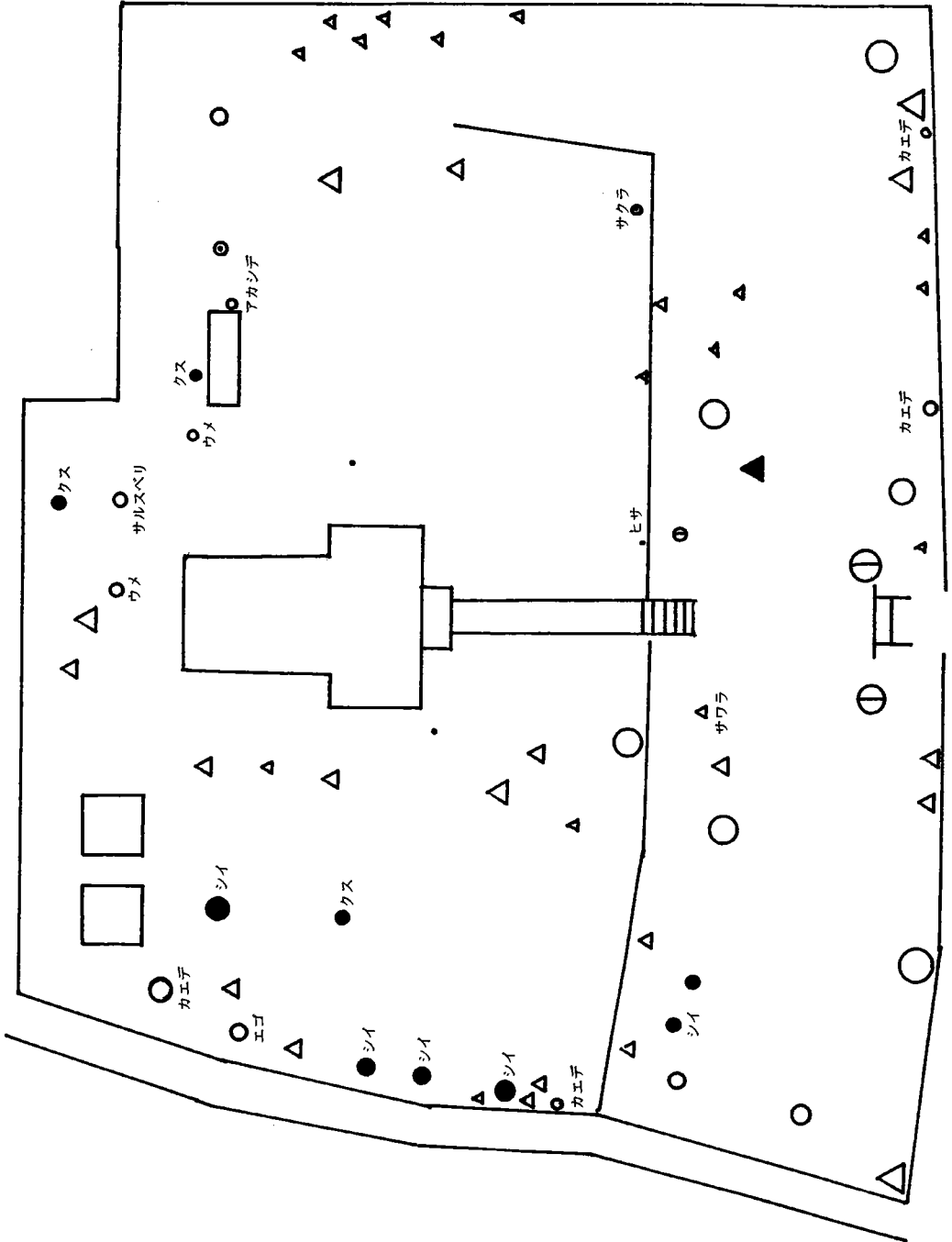
- 10cm
- 20cm
- 40cm
- 60cm
- 80cm
- 100cm



日枝神社

昭島市七川原町

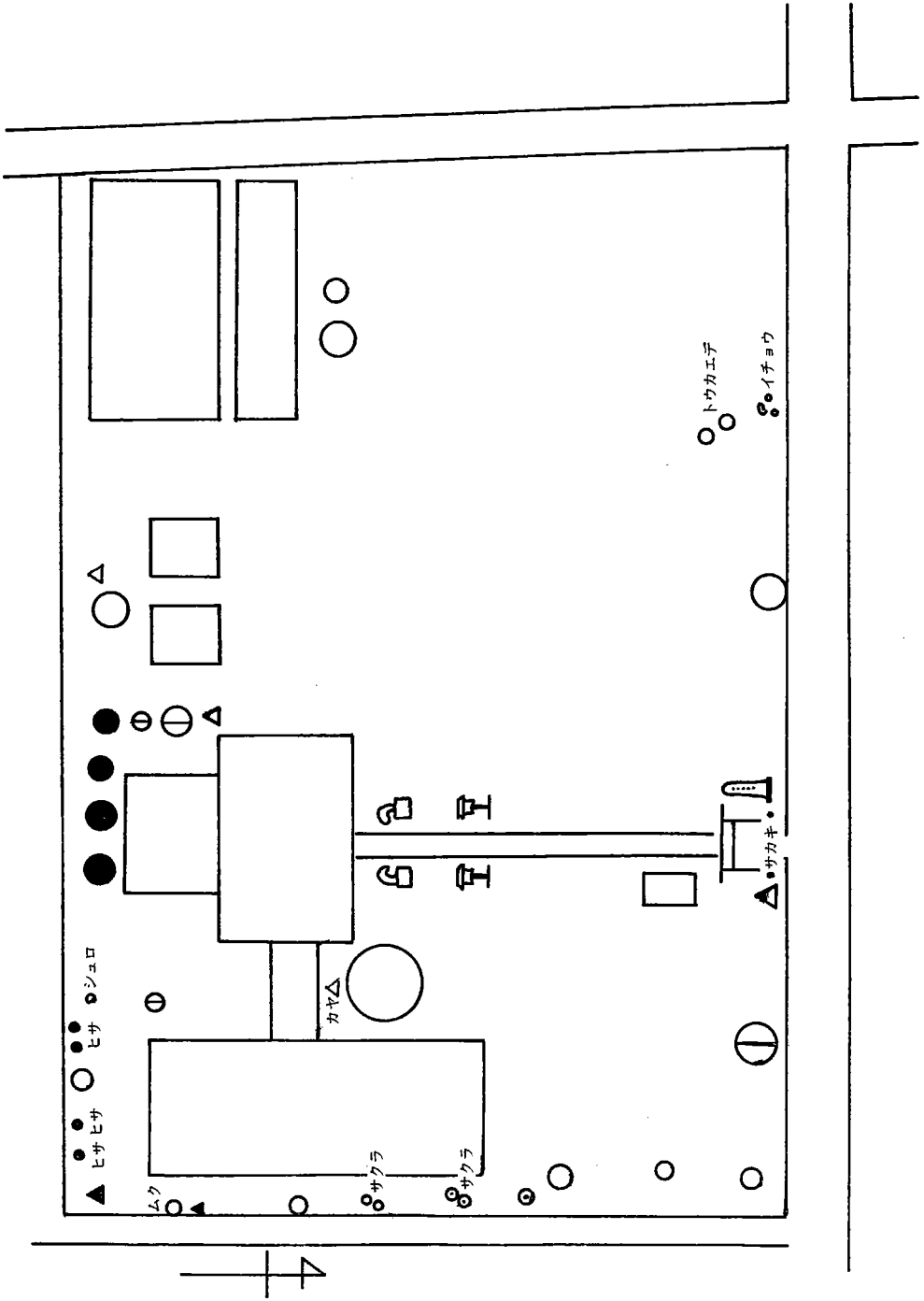
種名	現存数
ヒノキ	35
ケヤキ	9
スダジイ	5
イロハカエデ	4
イチヨウ	3
クスノキ	3
ウメ	2
サクラ	2
エゴノキ	1
サワラ	1
シラカシ	1
スギ	1
サルスベリ	1
アカシデ	1
14種類	69

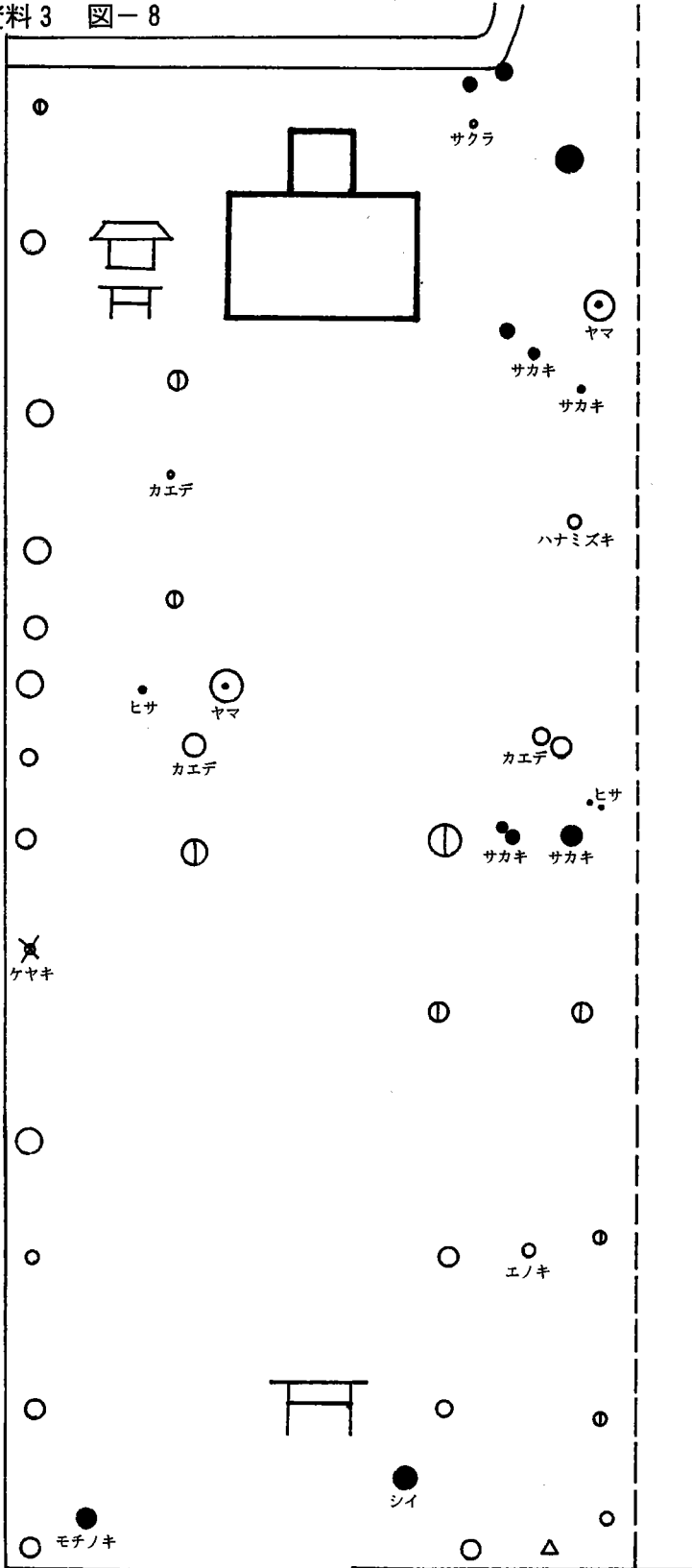


金山神社

東村山市廻町田

種名	現存数
ケヤキ	8
イチヨウ	7
サクラ	5
シラカシ	4
ヒサカキ	4
ヒノキ	4
トウカエデ	2
イロハカエデ	1
シユロ	1
スギ	1
ムクノキ	1
ネズミモチ	1
モミ	1
カヤ	1
14種類	41





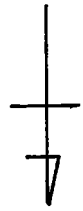
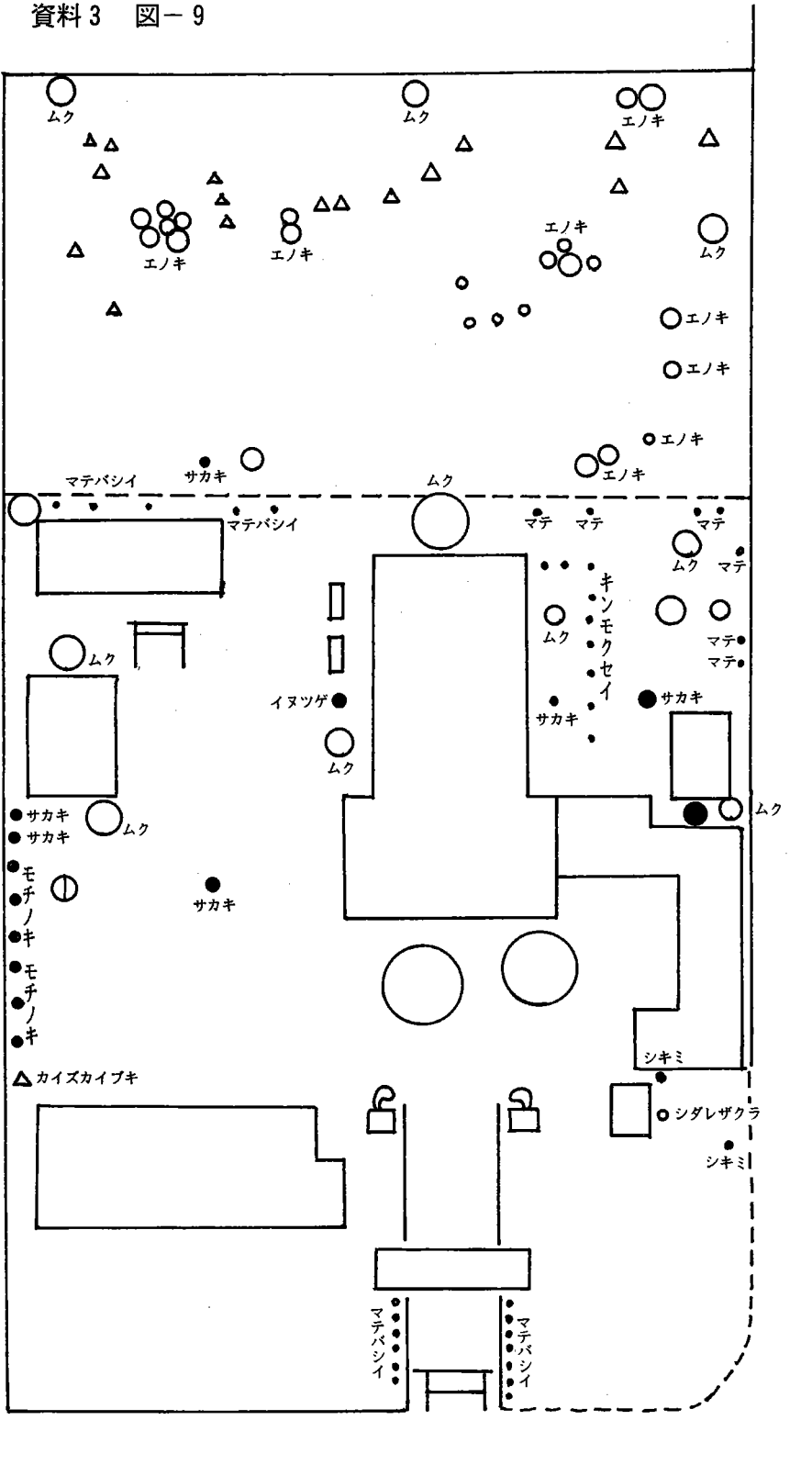
日枝神社

小平市小川町

種名	現存数
ケヤキ	15
イチョウ	9
サカキ	5
シラカシ	4
カエデ	3
ヤマザクラ	2
サクラ	1
ハナミズキ	1
ヒサカキ	1
エノキ	1
スタジイ	1
ヒノキ	1
モチノキ	1
13種類	45

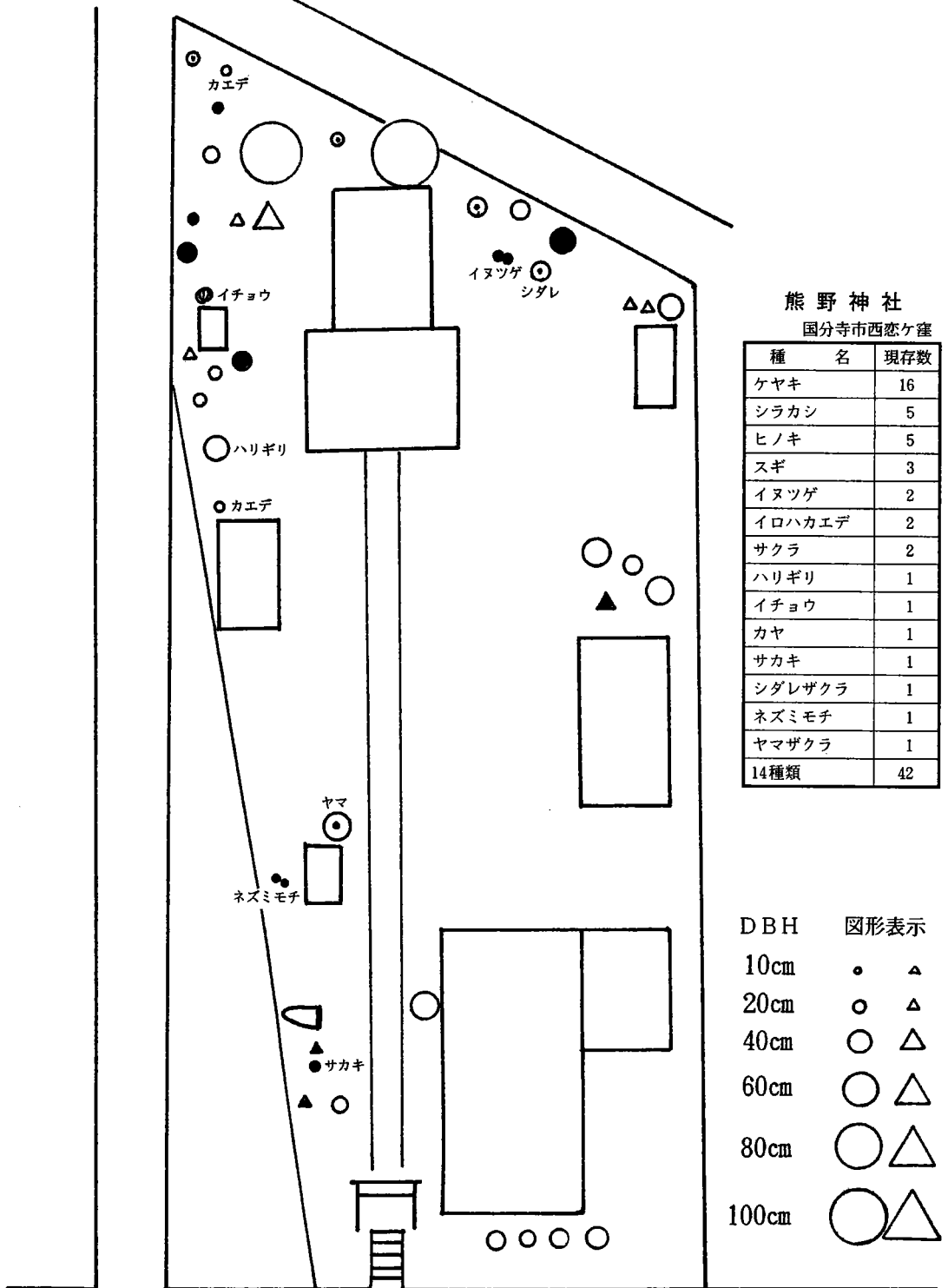
DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

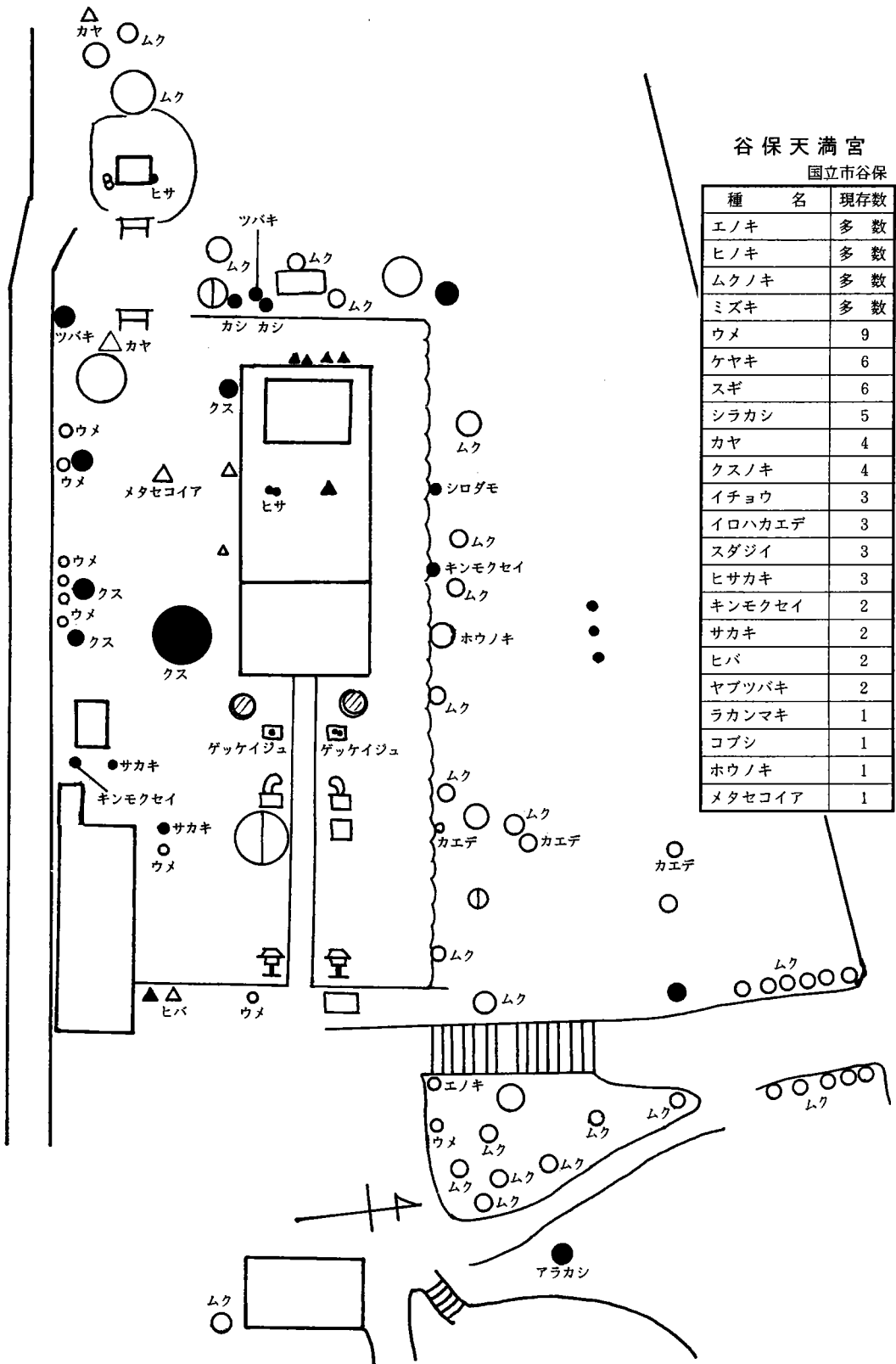


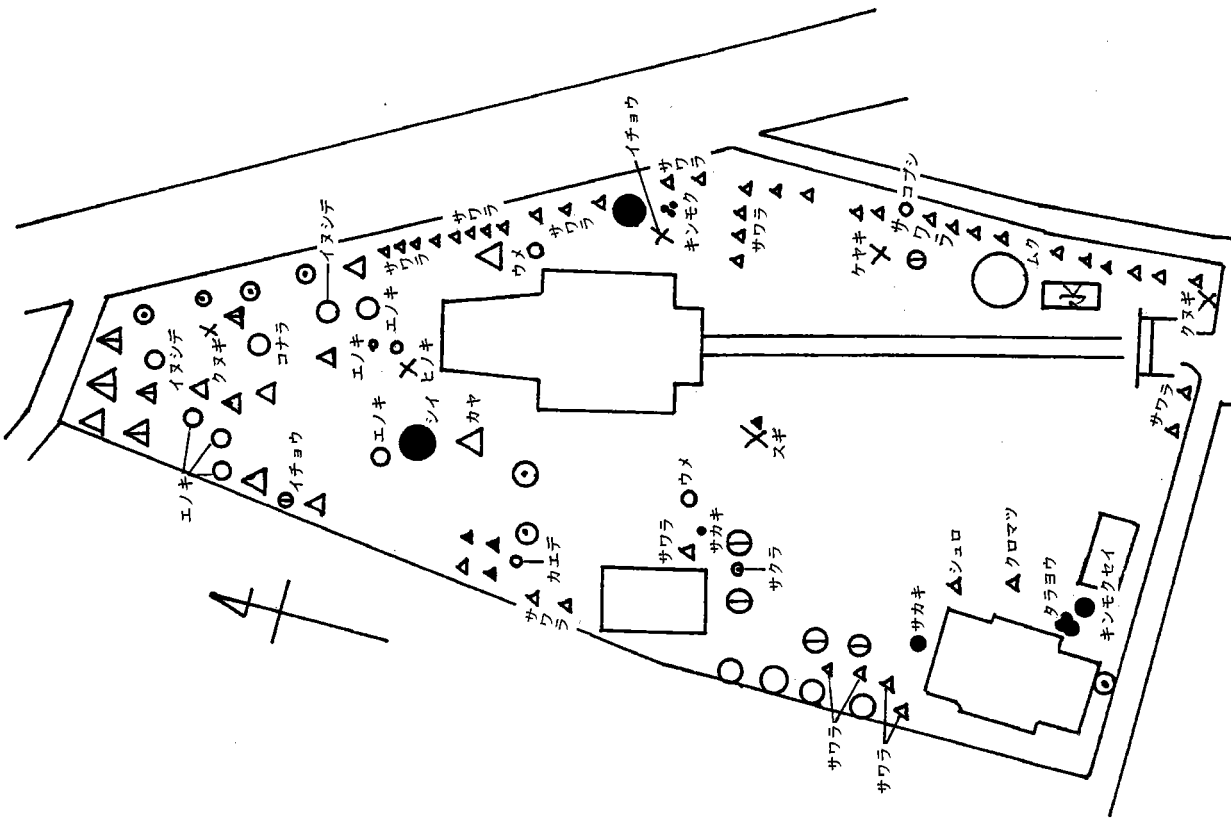
熊野宮
小平市仲町

種名	現存数
エノキ	19
ヒノキ	16
サカキ	12
ムクノキ	11
ケヤキ	9
シキミ	8
マテバシイ	1
イヌツゲ	1
カイズカイブキ	1
シダレザクラ	1
イチヨウ	1
シラカシ	1
12種類	81



資料3 図-11

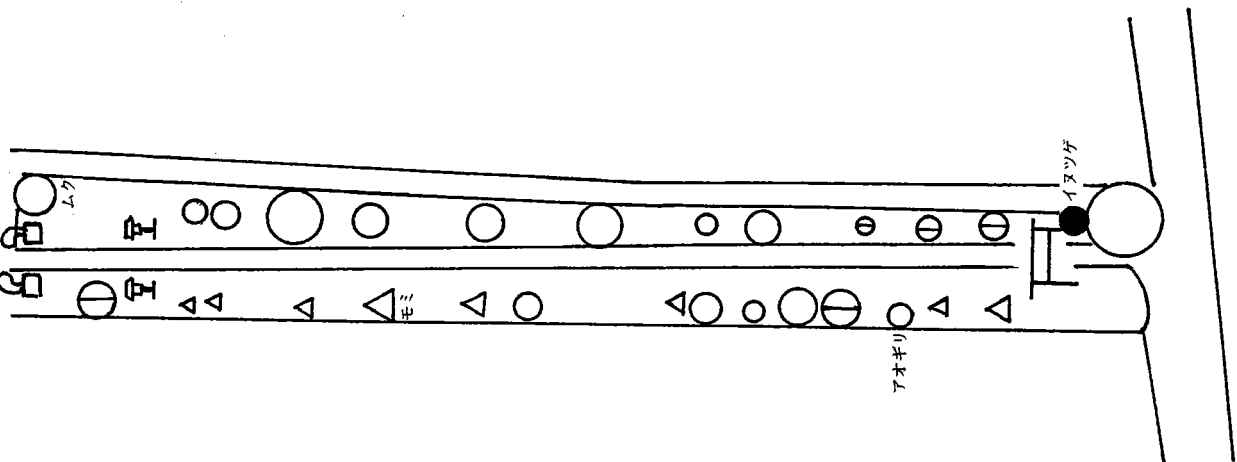




耐 殿 神 社

保谷市住吉町

種 名	現存数
サワラ	42
ケヤキ	18
ヒノキ	16
イチョウ	11
サクラ	7
エノキ	6
アカマツ	5
スギ	4
イヌシデ	2
ウメ	2
キンモクセイ	2
ムクノキ	2
イヌツゲ	1
アオギリ	1
タラヨウ	1
クロマツ	1
コナラ	1
サカキ	1
カヤ	1
シユロ	1
スタジイ	1
モミ	1
22種類	127



図形表示

DBH

10cm

20cm

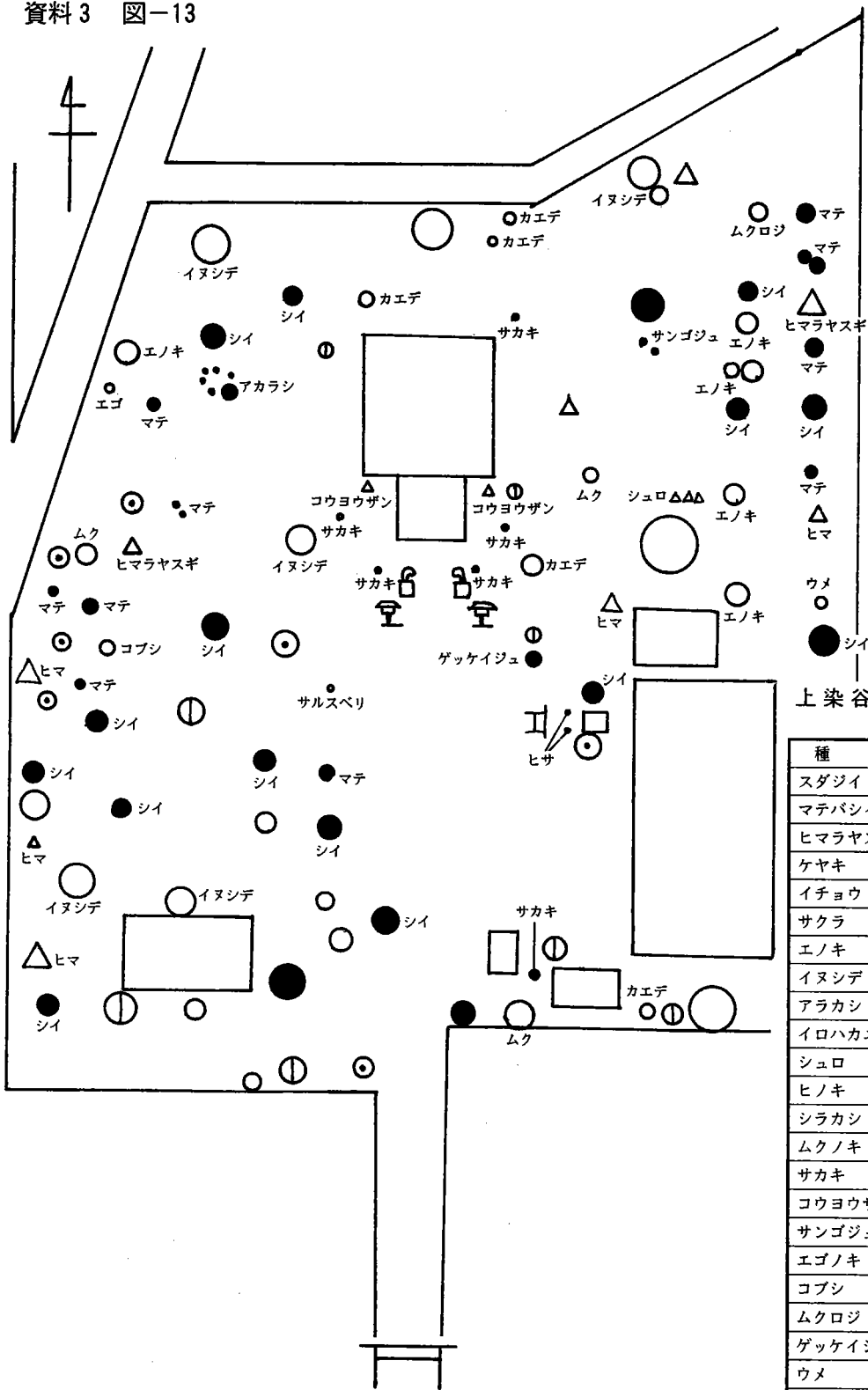
40cm

60cm

80cm

100cm

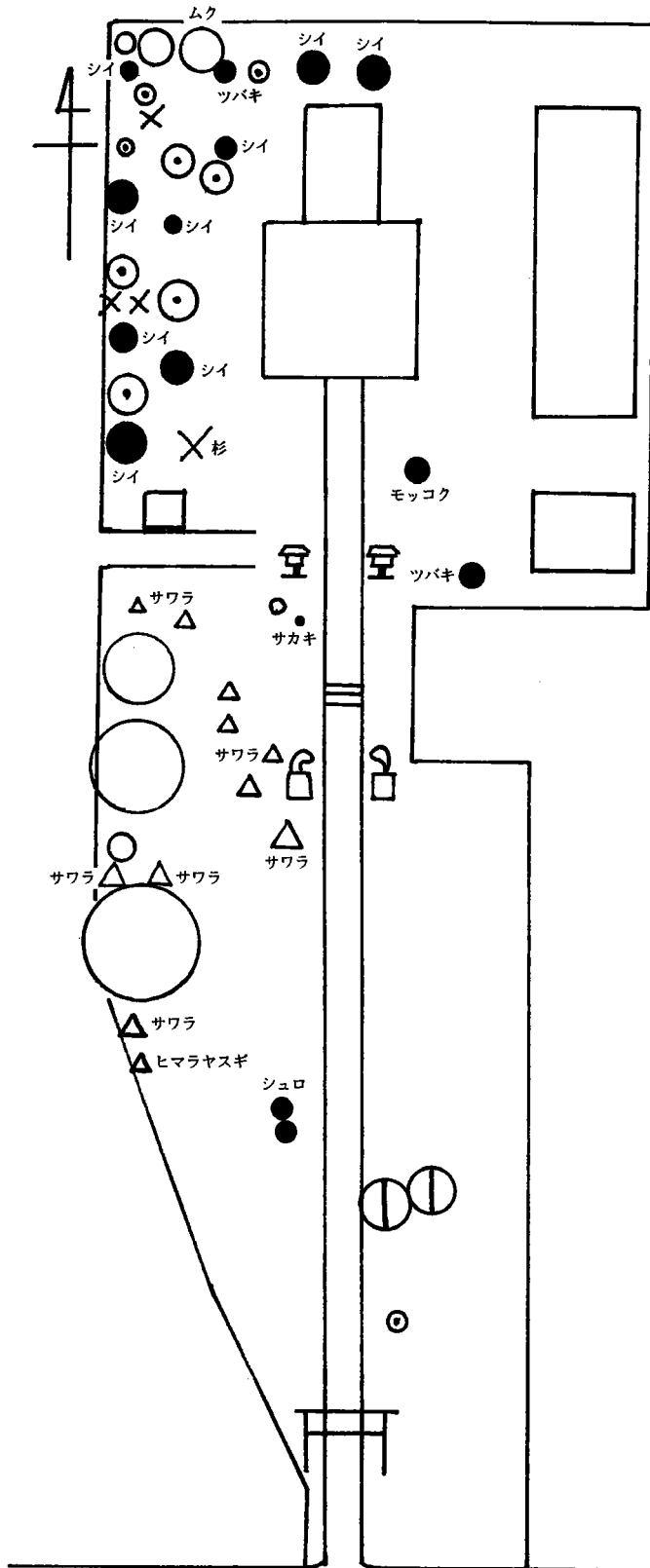




上染谷八幡神社
府中市白糸台

種名	現存数
スダジイ	14
マテバシイ	12
ヒマラヤスギ	10
ケヤキ	9
イチョウ	8
サクラ	7
エノキ	7
イヌシデ	6
アラカシ	6
イロハカエデ	5
シュロ	4
ヒノキ	3
シラカシ	3
ムクノキ	3
サカキ	2
コウヨウザン	2
サンゴジュ	2
エゴノキ	1
コブシ	1
ムクロジ	1
ゲッケイジュ	1
ウメ	1
サルスベリ	1
23種類	109

資料3 図-14



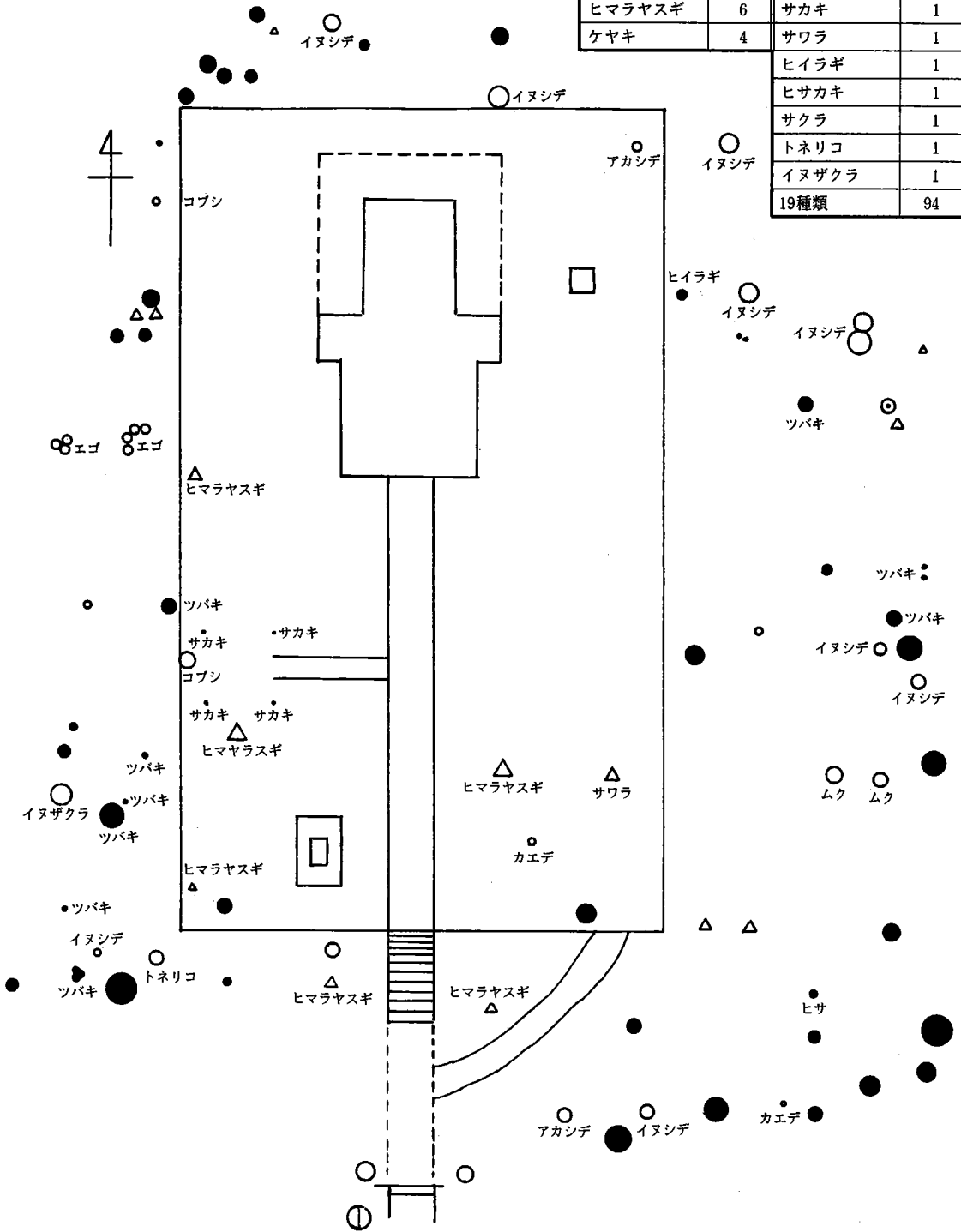
常久八幡神社
府中市若松町

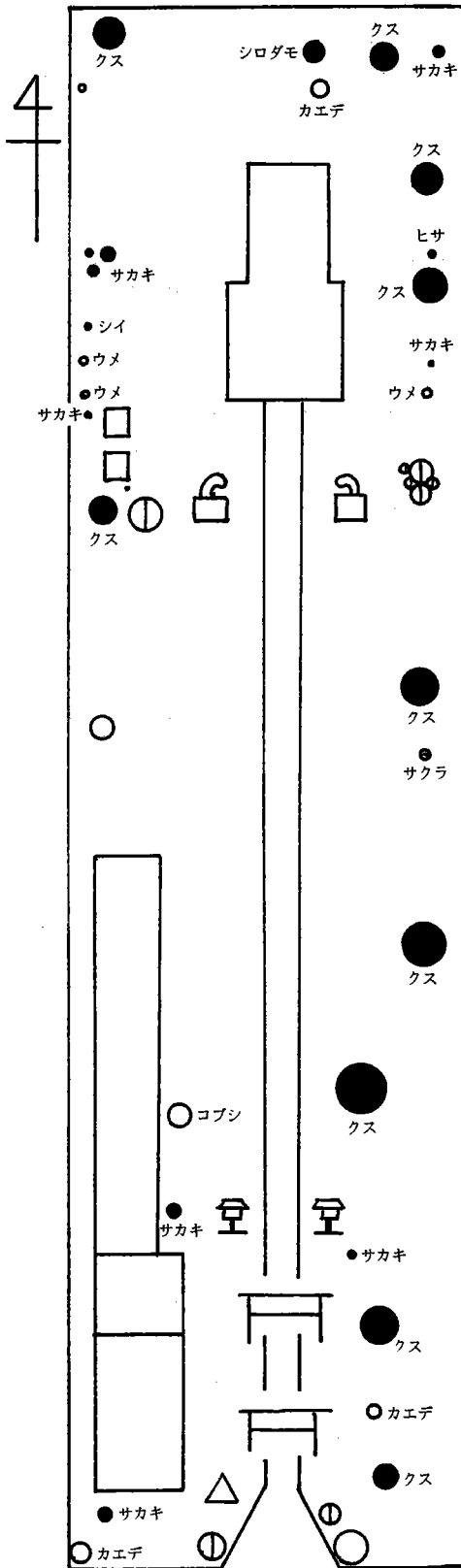
種名	現存数
サワラ	10
スタジイ	9
サクラ	7
ケヤキ	5
イチョウ	3
シュロ	2
ヤブツバキ	2
サカキ	1
ヒマラヤスギ	1
ムクノキ	1
モッコク	1
11種類	42

DBH	図形表示
10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

人見稲荷神社
府中市若松町

種名	現存数	種名	現存数
シラカシ	35	ムクノキ	2
イヌシデ	10	アカシデ	2
ヤブツバキ	9	イロハカエデ	2
ヒノキ	7	コブシ	2
エゴノキ	7	イチヨウ	1
ヒマラヤスギ	6	サカキ	1
ケヤキ	4	サワラ	1
		ヒイラギ	1
		ヒサカキ	1
		サクラ	1
		トネリコ	1
		イヌザクラ	1
		19種類	94





八幡神社

武蔵野市八幡町

種名	現存数
クスノキ	10
サカキ	9
イチョウ	7
イロハカエデ	3
ウメ	3
ケヤキ	2
サクラ	1
ヒサカキ	1
ヒノキ	1
ヒイラギ	1
シロダモ	1
スダジイ	1
キンモクセイ	1
コブシ	1
15種類	42

DBH 図形表示

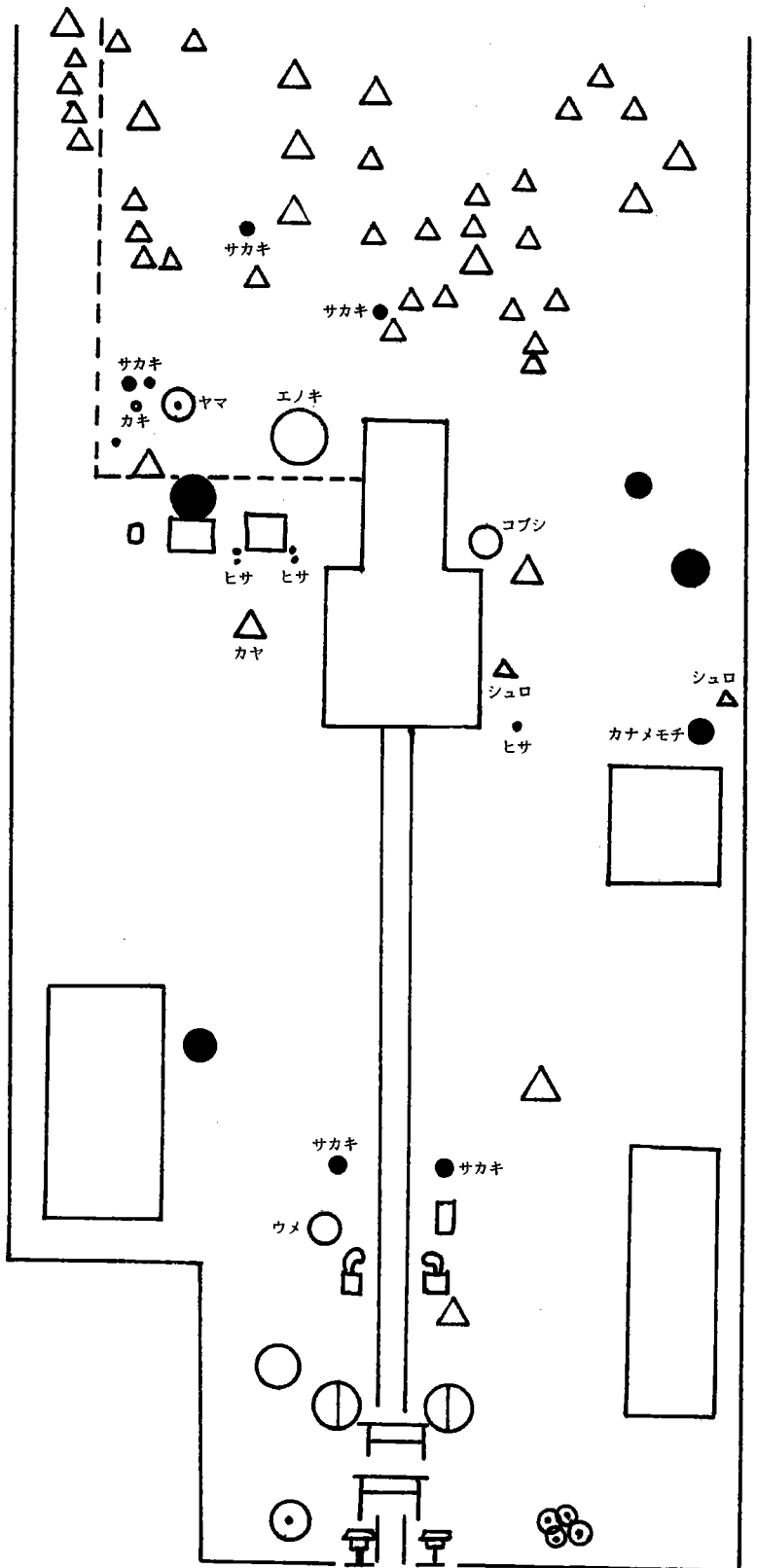
10cm	● ▲
20cm	○ △
40cm	○ △
60cm	○ △
80cm	○ △
100cm	○ △

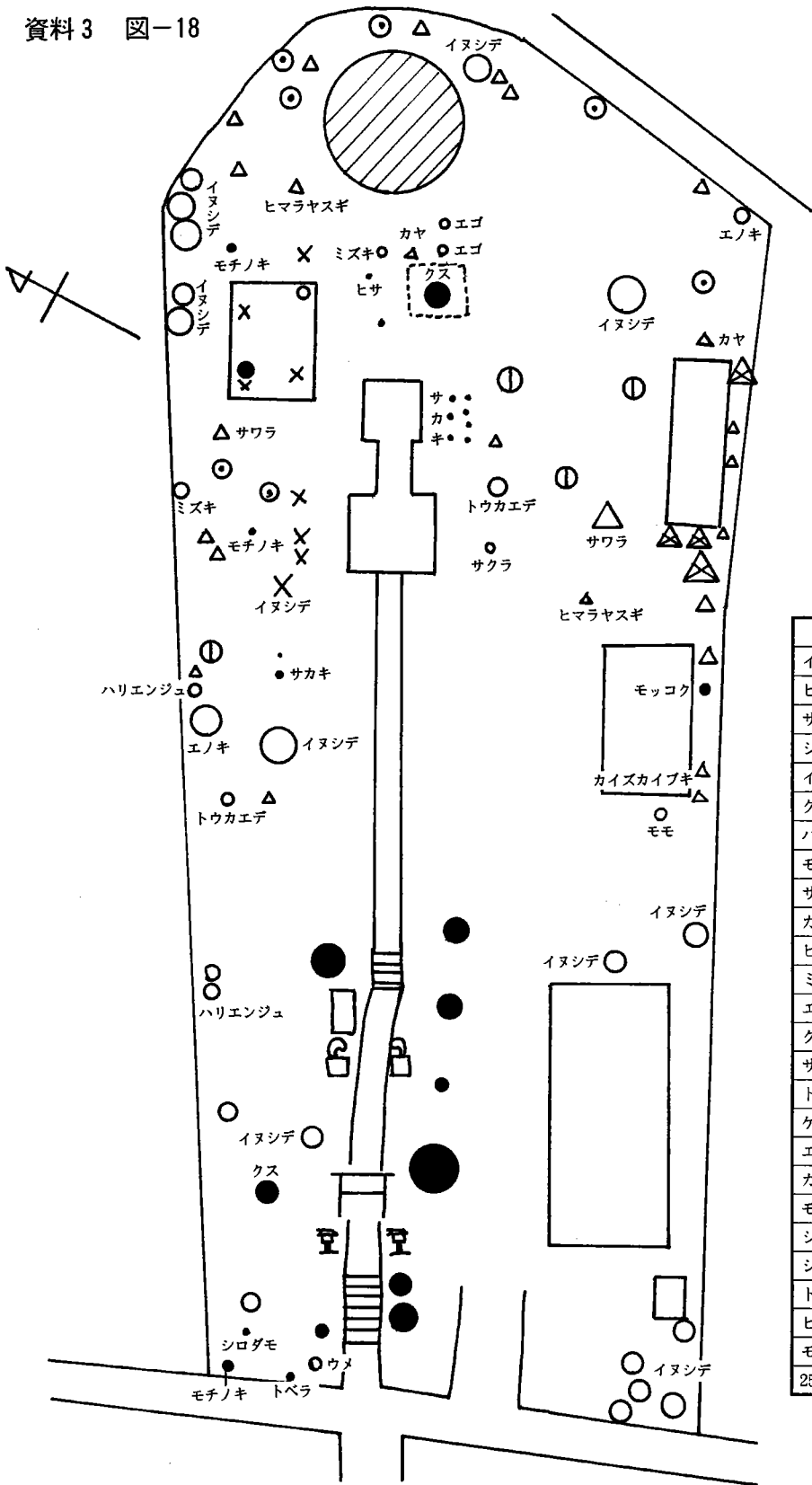
稲荷神社
武蔵野市緑町

種名	現存数
ヒノキ	41
サカキ	7
ヒサカキ	5
サクラ	5
シラカシ	4
シュロ	2
イチョウ	2
モミ	1
コブシ	1
ケヤキ	1
カナメモチ	1
エノキ	1
ウメ	1
13種類	72

DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

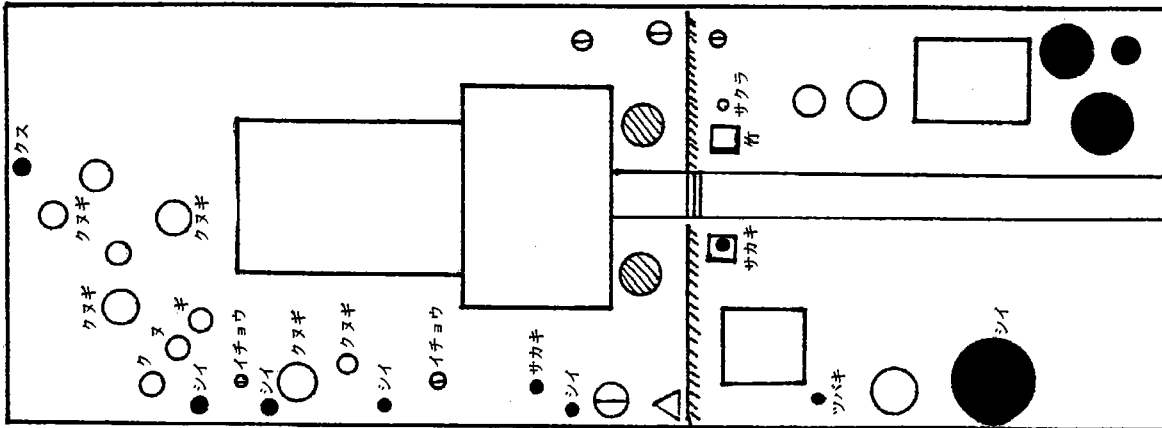




神明社

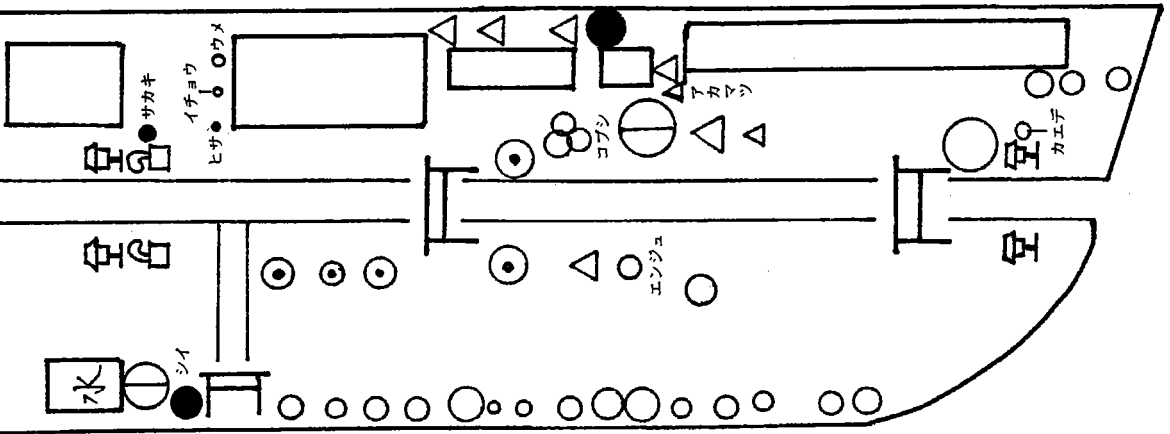
三鷹市牟礼

種名	現存数
イヌシデ	16
ヒノキ	15
サクラ	8
シラカシ	5
イチョウ	4
クロマツ	3
ハリエンジュ	3
モチノキ	3
サワラ	3
カイズカイブキ	2
ヒマラヤスギ	2
ミズキ	2
エゴノキ	2
クスノキ	2
サカキ	2
トウカエデ	2
ケヤキ	2
エノキ	2
カヤ	1
モッコク	1
シロダモ	1
シダレウメ	1
トベラ	1
ヒサカキ	1
モモ	1
25種類	85



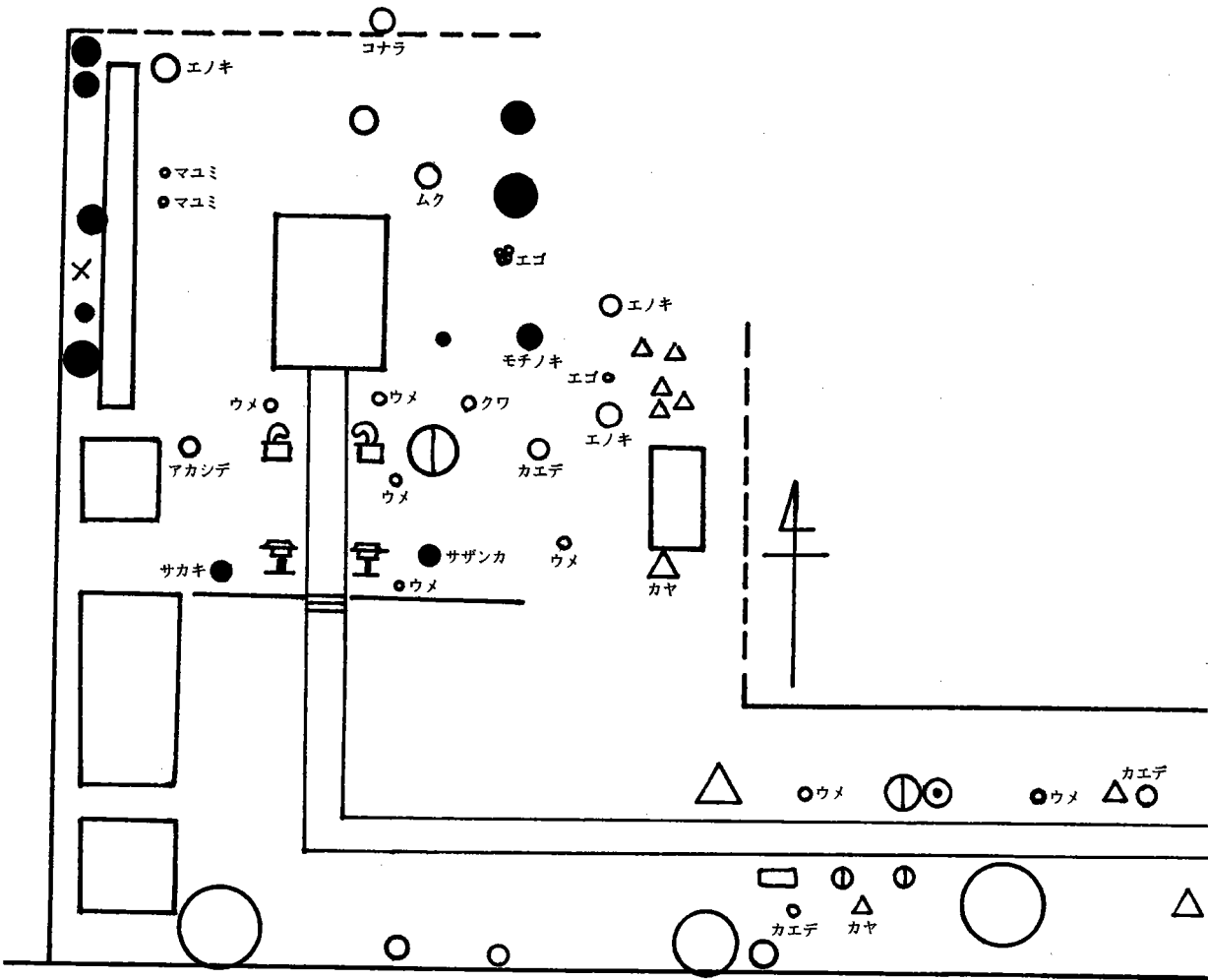
八幡大神社
三鷹市上連雀

種名	現存数
ケヤキ	23
クヌギ	10
イチョウ	9
ヒノキ	8
サクラ	6
スダジイ	6
シラカシ	4
サカキ	3
コブシ	3
ヤブツバキ	2
ヒサカキ	1
ウメ	1
クスノキ	1
エンジュ	1
14種類	78



図形表示

- DBH
- 10cm
 - 20cm
 - 40cm
 - 60cm
 - 80cm
 - 100cm



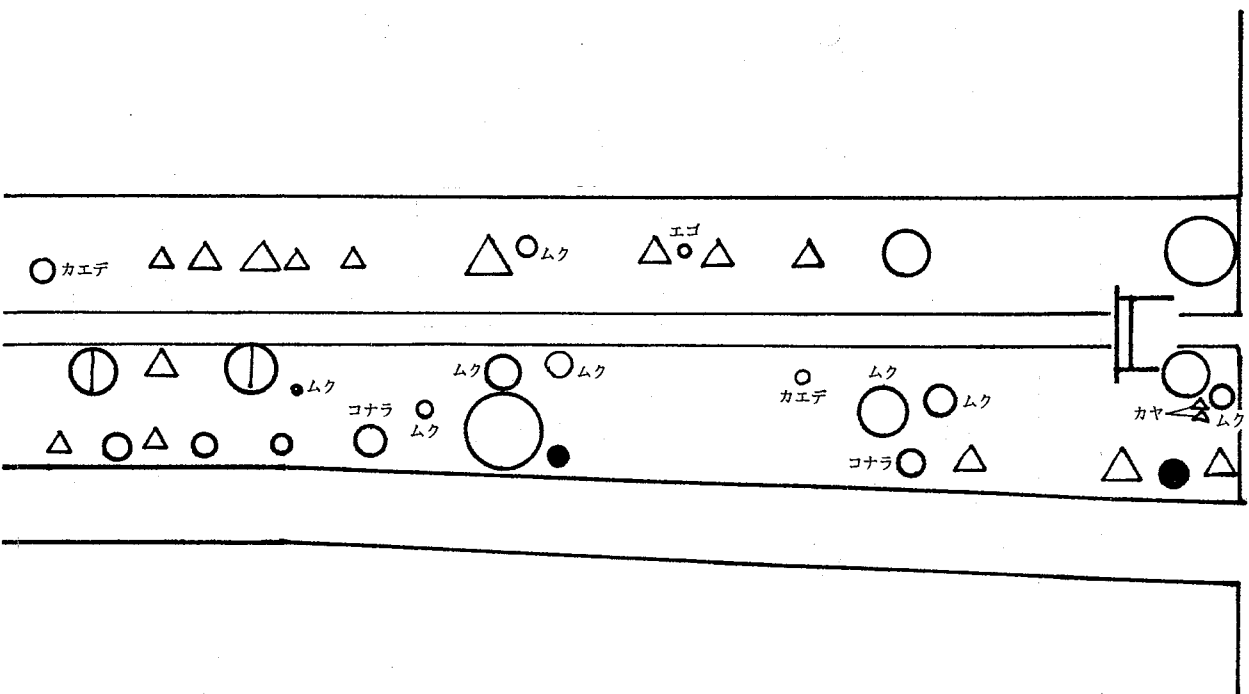
天神社

三鷹市新川

種名	現存数
ヒノキ	22
ケヤキ	14
ムクノキ	9
ウメ	9
シラカシ	8
イチョウ	6
イロハカエデ	5
エゴノキ	3
エノキ	3
コナラ	3
カヤ	2
マユミ	2
サザンカ	1
サカキ	1
サクラ	1
クワノキ	1
アカシデ	1
モチノキ	1
18種類	92

DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲



虎 狛 神 社

調布市佐須町

種 名	現 存 数
シラカシ	23
イヌシテ	22
イヌツゲ	12
スダジイ	9
サカキ	6
アラカシ	4
イチヨウ	4
ヒノキ	4
ムクノキ	4
エノキ	3
シュロ	2
ヤブツバキ	2
イロハカエデ	1
ケヤキ	1
サクラ	1
スギ	1
トウカエデ	1
17種類	100

図形表示

DBH

10cm

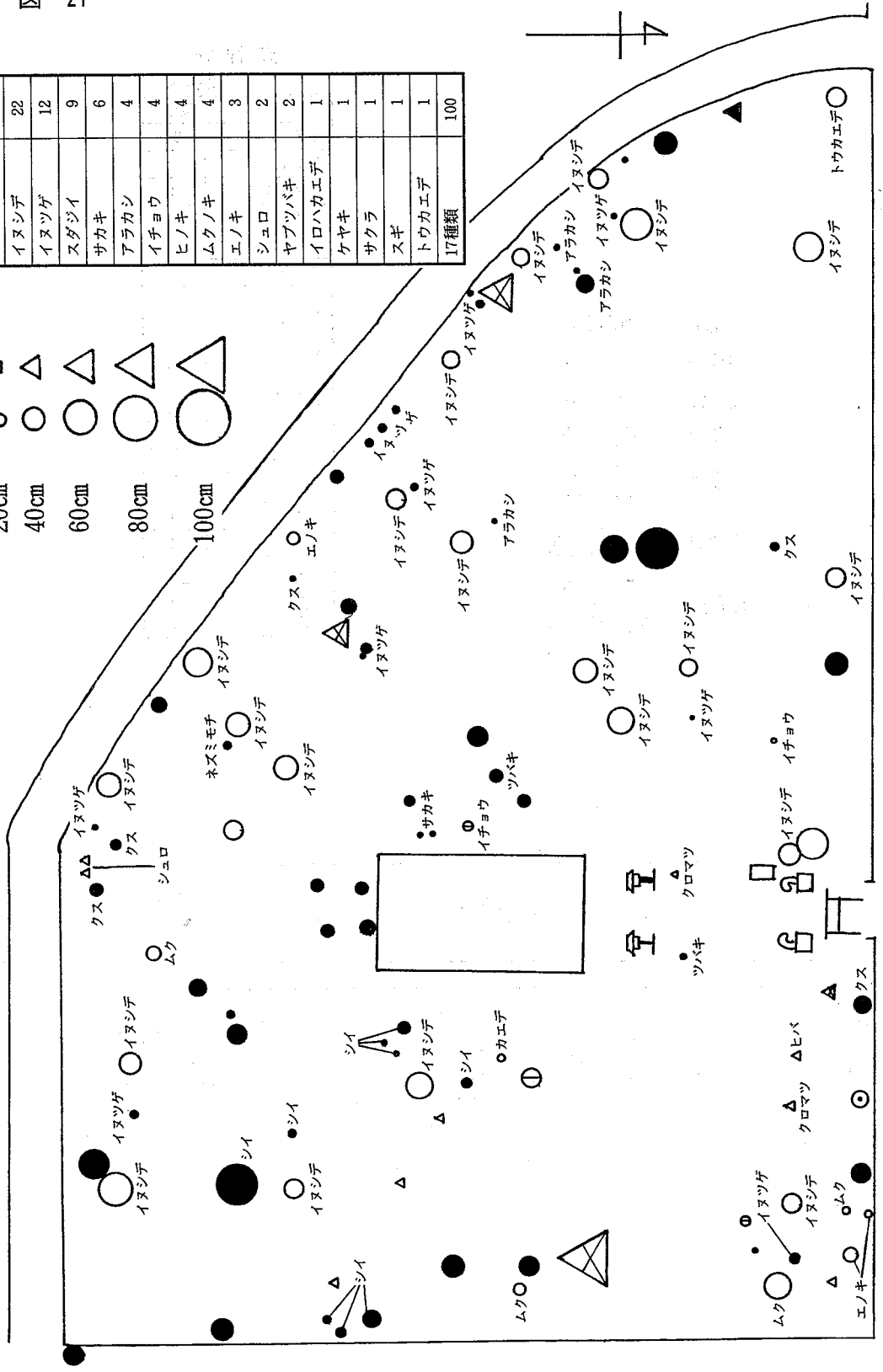
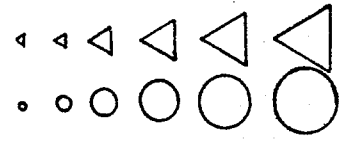
20cm

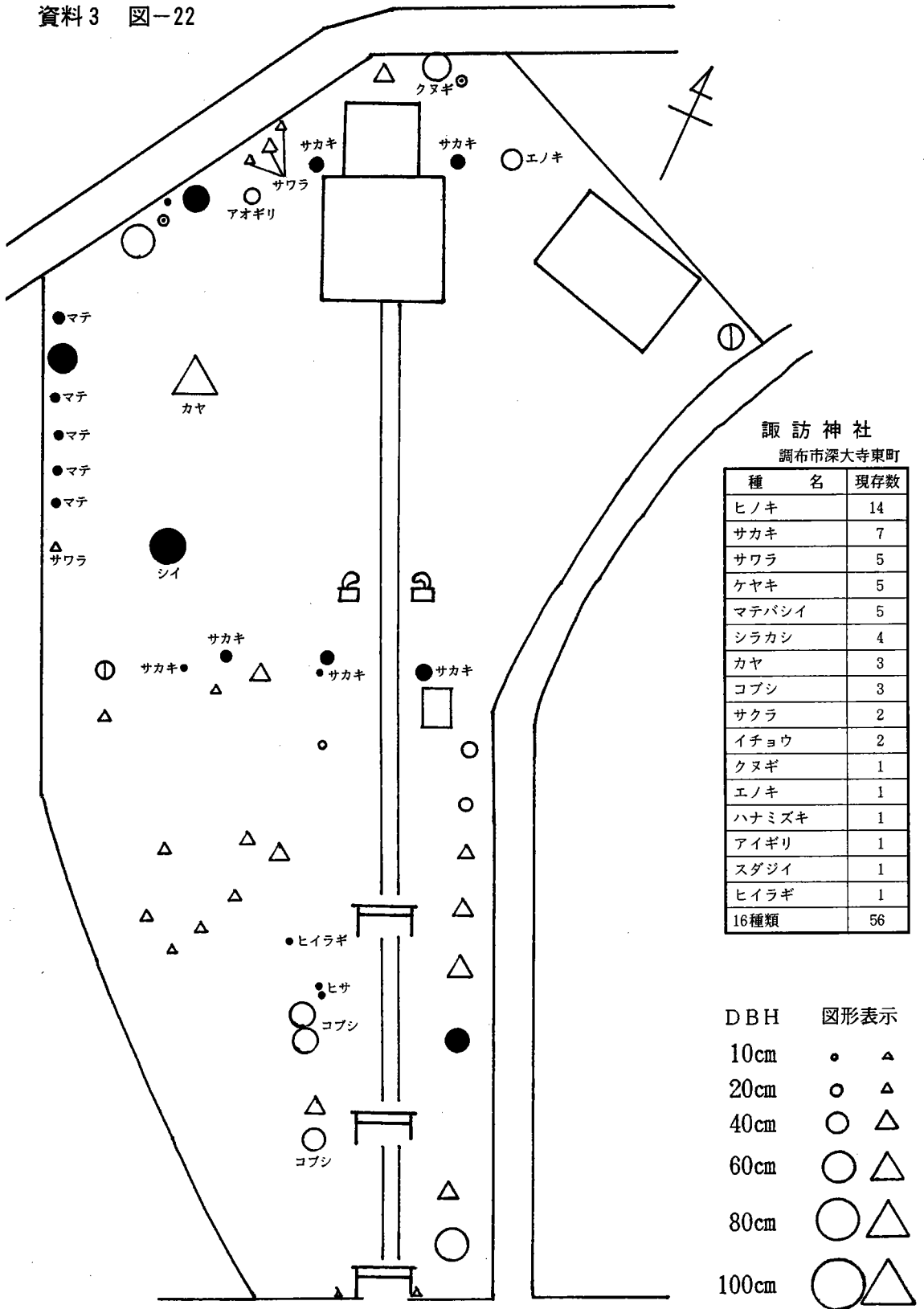
40cm

60cm

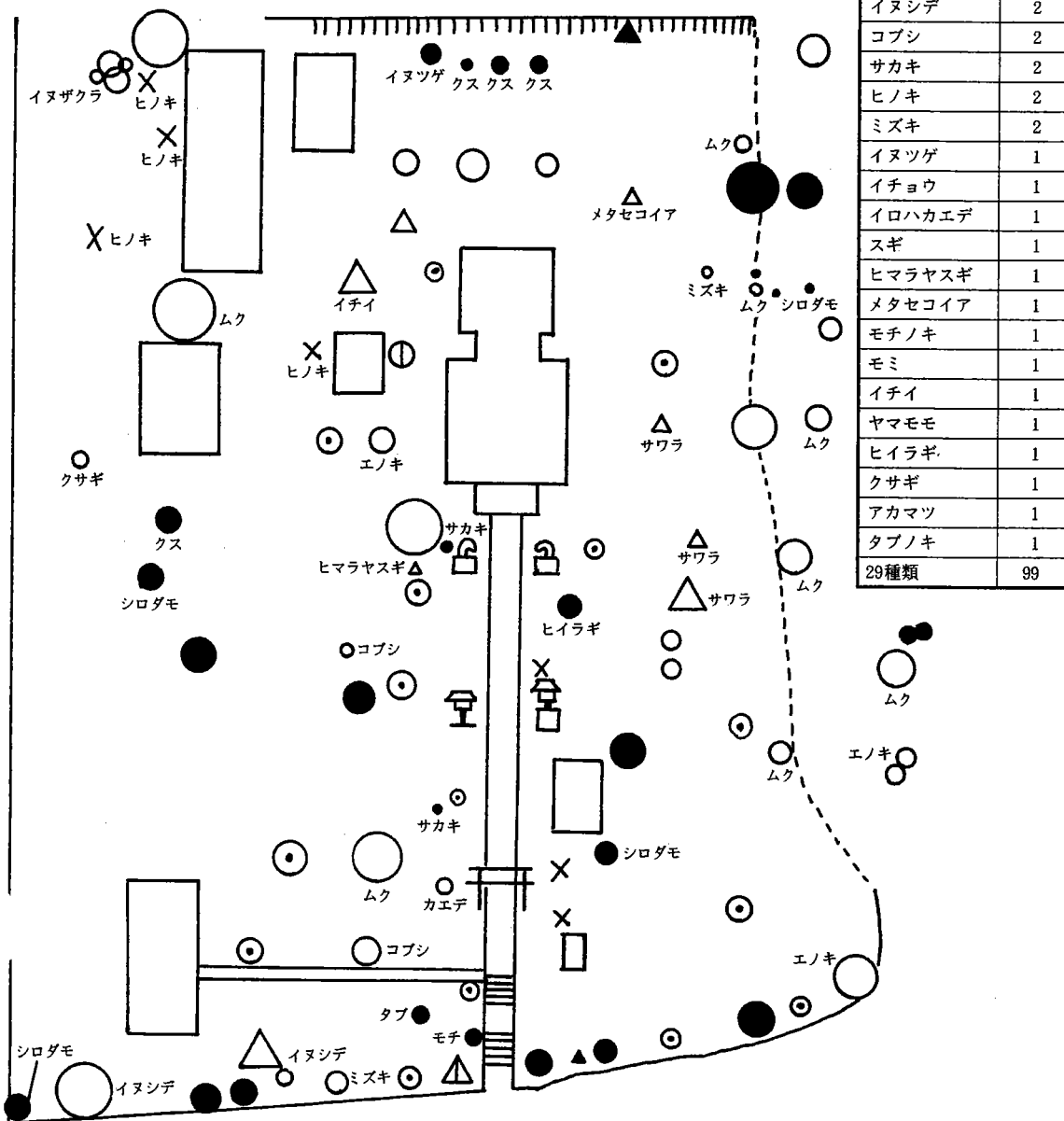
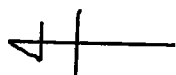
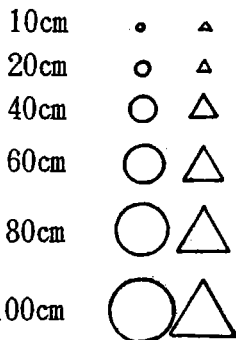
80cm

100cm



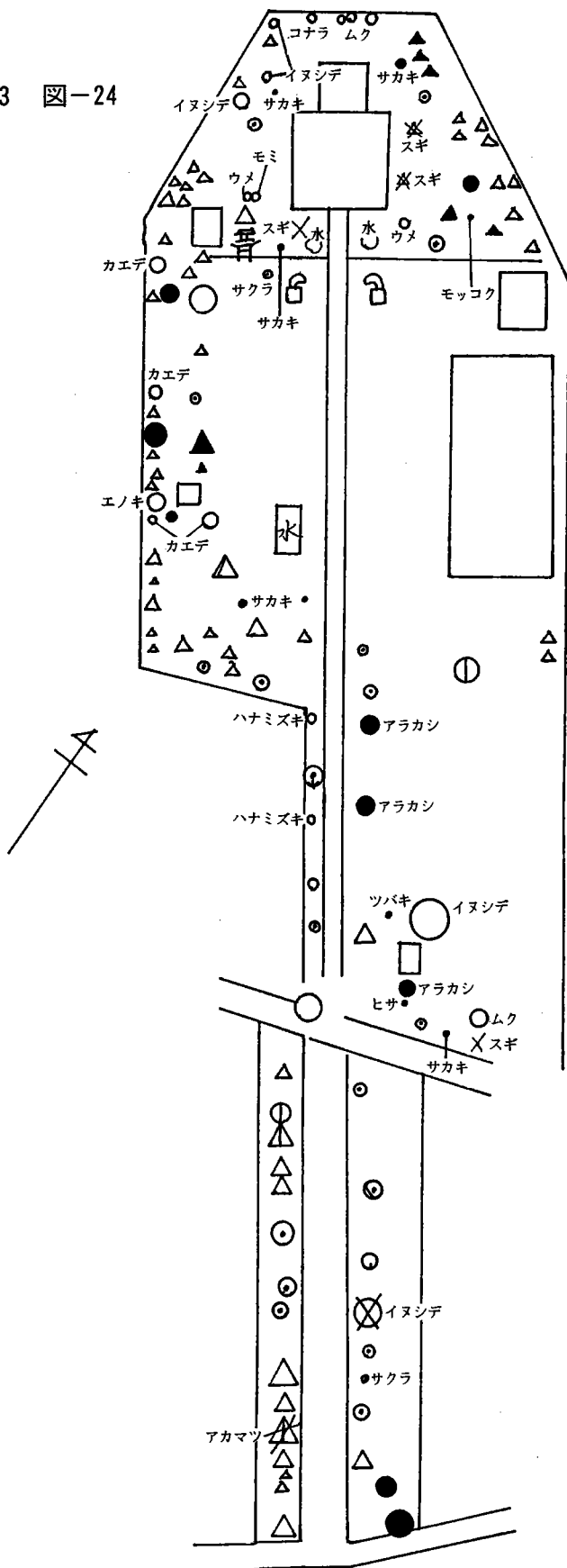


DBH 図形表示



種名	現存数
トウネズミモチ	20
シラカシ	11
ケヤキ	9
ムクノキ	9
シロダモ	7
クスノキ	5
エノキ	4
イヌザクラ	4
サクラ	3
サワラ	3
イヌシデ	2
コブシ	2
サカキ	2
ヒノキ	2
ミズキ	2
イヌツゲ	1
イチョウ	1
イロハカエデ	1
スギ	1
ヒマラヤスギ	1
メタセコイア	1
モチノキ	1
モミ	1
イチイ	1
ヤマモモ	1
ヒイラギ	1
クサギ	1
アカマツ	1
タブノキ	1
29種類	99

資料3 図-24



氷川神社
新座市馬場

種名	現存数
ヒノキ	46
サクラ	21
スギ	8
シラカシ	6
サカキ	5
イヌシデ	4
カエデ	4
アラカシ	3
ウメ	3
ハナミズキ	3
ムクノキ	3
イチョウ	2
ケヤキ	2
モミ	2
ヤブツバキ	2
アカマツ	1
エノキ	1
コナラ	1
ヒイラギ	1
モッコク	1
20種類	119

DBH 図形表示

10cm	● ▲
20cm	○ ▲
40cm	○ ▲
60cm	○ ▲
80cm	○ ▲
100cm	○ ▲

「た まがわちゅうりゅういき多摩川中流域におけるじんじや神社のけいだい境内のじゅもく樹木のけんきゅう研究」

—とく特にけいだい境内のじゅしゅこうせい樹種構成とそのはいち配置—

(一般研究VOL.20 研究助成・B類No.110)

著者 あき やま しのり秋山好則

発行日 1999年3月31日

発行 財団法人とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141
